

トヲ得ヘカリシトキト雖モ過失ノ責ナキモノトス

四

六七

○他人ノ不法行爲ニ因リ權利ヲ侵害セラレタル者カ現ニ損害ヲ被ムリ又ハ之ヲ被ムルノ虞アル場合ニ其損害ノ發生又ハ擴大ヲ防止スルニ付キ相當ノ注意ヲ爲スコトヲ要スルハ善意誠實ヲ旨トスル取引上ノ觀念ニ屬スルモノトス

四

八六一

○同一ノ不動産ニ付キ逐次二重ノ賣買アリテ未タ前ノ賣買ニ因ル登記ヲ經サル間ニ後ノ買主カ惡意ニテ登記ヲ爲シ之カ爲メニ前ノ買主ヲ害シタルトキト雖モ又試掘權讓渡ノ契約ニ立會ヒ其内容ヲ知レル者カ登録經由前ニ讓渡人ト共謀シテ同一ノ試掘權ヲ更ニ第三者ニ賣却セシメ其登録ヲ經テ前契約ニ因ル登録義務ノ履行ヲ不能ニ歸セシメタルトキト雖モ等シク不法行爲ノ責ナキモノトス

四

九〇九

○株式會社ノ取締役ニ貸借對照表ノ公告ヲ命シタル規定ハ當ニ其會社ニ既存ノ關係ヲ有スル者ノ爲メノミナラス一般公衆ノ利益ヲモ保護センカ爲メニ設ケタルモノナルヲ以テ苟モ取締役及ヒ監査役ノ過失ニ原因シテ右規定ニ反スル虛偽ノ公告アリタル爲メ他人ニ損害ヲ及ホシタルトキハ商法中ノ改正規定施行前ニ在リテハ民法第七百九條ノ規定ニ依リ不法行爲ノ責ニ任セサルヘカラス

四五

四五四

(刑)

○甲乙兩者共謀シテ日本勸業銀行ノ代理貸付ヲ爲ス丁者ヲ欺罔シ同銀行ヨリ金圓ヲ騙取シタル場合ニ丁者カ銀行トノ契約上其被害金額ヲ賠償シタルトキハ該損害ハ事實上甲乙二人ノ不法行爲ニ因リ生シタル結果ニ外ナラサルヲ以テ其間因果關係ナシト云フヲ得ス

元

一四〇六

○鑛業權者ハ鑛業法ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ其管理ノ任ニ當ラシメタルトキハ其第三者カ鑛業ノ管理上他人ニ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任スヘク其第三者カ自己ノ使用スル人ニ非サルノ故ヲ以テ其責任ヲ辭スルヲ得ス

二

一九三

○既存債務ノ履行ニ關スル行爲ト雖モ苟モ一般人ニ對スル權利侵害ヲ避クルニ相當ナル注意ヲ缺キタルカ爲メ他人ノ權利ヲ侵害シタルトキハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタルモノニ外ナラサルカ故ニ不法行爲上ニ於ケル過失ノ責ヲ負ハサルヘカラス

二

二八一

○過失ハ獨リ行爲カ違法ノ結果ヲ生シ得ヘキコトヲ認識シ乍ラ其結果ノ生スルコトナカルヘシトノ希望ヲ以テ相當ノ注意ヲ缺ク場合ニノミ存スルモノニ非ス違法ノ結果ヲ生シ得ヘキコトノ認識ナキモ相當ノ注意ヲ爲セハ之ヲ認識シ且避クルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テモ亦存スルモノトス

二

二六一

(參照)

上告人カ某書ニ某氏先世ノ記事中「又常ニ名主役タリ」トアル八字ノ抹殺ヲ請求スルノ趣意ハ其地方ノ家格ヲ重ニスル習慣上ヨリ名譽ヲ害セラレタリト云フニ在レトモ其記事タル某氏一家ノ事ヲ記シタルニ止マリ他ノ利害ニ關スヘキ記事ニ非サレハ縱令其記事ノ根據トスル所不明ノ塵アリトスルモ之カ爲メ上告人等ノ名譽又ハ權利ヲ戕害シタリト見ルヘカラス到底訴訟ノ目的ト爲スヲ得サルモノトス

(刑) 假差押申請者カ本案ノ請求立タスシテ敗訴スルトキハ不當ニ他人ノ財產ヲ差押ヘタルモノナルヲ以テ之ニ因リ生シタル損害ニ付テハ其責ニ任スヘキモノトス  
不法行爲ニ原因スル損害賠償ノ債權ハ損害ノアリタルトキヨリ發生ス從テ其當時ヨリ利子ヲ生ス

官報ノ廣告ハ仲買人ヲ竊束セス故ニ仲買人カ公債證書ノ贓物ナルコトニ氣付カス之ヲ他ニ轉賣シ其結果買主ノ損害ト爲ルモ仲買人ハ之カ爲メ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノニ非ス  
公道ノ共同使用權ハ公法上ノ關係ヨリ發生シタルモノナルニモセヨ各自ノ生活上ノ必須且諸般ノ權利行使ノ要具ニシテ各人ニ於テ當然之ヲ有スルモノナレハ私法上ニ於テモ亦當然之ヲ保護セサルヘカラサルモノトス故ニ一個人ニシテ他ノ一個人ノ共同使用ヲ妨害シタルトキハ公用物ニ付キ公益ヲ害シタルノミナラス併セテ他ノ一個人ノ自由ヲ侵害シタルモノナルヲ以テ民法上ノ不法行爲ニ相當シ被侵害者ハ司法裁判所ニ出訴シ損害賠償若クハ侵害物ノ排除ヲ請求シ得ヘキモノトス隨テ無訴權ノ判決ハ不法ナリ

(第七百十條)

『第七百十條』

(刑) 〇人ノ名譽ヲ害シ因テ生シタル財產以外ノ損害ニ付テハ其性質上損害額

二七	二八	三〇	三〇	三一
六四	三	六	一〇	三
六四	四六	五九	四三	八五

(刑) 〇人ノ妻ヲ姦シタル者ハ本夫ノ夫權ヲ侵害シタルモノナレハ本夫カ之ニ因リ名譽ヲ毀損セラレ精神上悲痛ヲ感スルニ至リタルトキハ其慰藉料ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フモノトス

(同主旨)

(刑) 夫ハ妻ニ對シ貞操ヲ守ラシムル權アルモノナレハ其妻ト姦シタル者ハ本夫ノ夫權ヲ侵害シタルモノナリ從テ夫權ノ損害ニ對スル賠償ヲ爲スノ義務アルモノトス

(刑) 〇妻カ夫ヨリ虐待侮辱ヲ受ケタルトキハ之ヲ原因トシテ離婚ノ請求ヲ爲スノ外其虐待侮辱ノ爲メ精神上苦痛ヲ蒙ムリタル場合ニハ之カ慰藉料ヲ請求シ得ヘキモノトス

(刑) 〇被害者カ被告人ノ犯罪ニ因リ父祖傳來ノ財產ヲ失ヒタル爲メ精神上苦痛ヲ感スルトキハ民法第七百十條ノ所謂財產以外ノ損害ニ該當ス而シテ此種ノ損害ハ財產上ノ損害以外ニ於テ發生シ得ヘキモノナルカ故ニ之ヲ認ムルハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス

(第七百十二條)

『第七百十二條』

(刑) 〇犯罪行爲ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタル者カ刑事上ノ責任ヲ負フニ必要ナル識別心ヲ有スル以上ハ其智能ハ同一行爲ヨリ生スル民事上ノ責

民法 債權 不法行爲

三四	四二	四二	四三	四三
二〇五	三三一	一四五	三四〇	二二二

任ヲ辨識スルコトヲ得ル程度ニ達シタルモノト認ムヘキモノトス

〔第七百十四條〕

父カ民事擔當人トシテ其子ノ行為ニ對スル責任ヲ定ムルハ子ニ對スル監督ノ義務ヲ怠リタルト否トニ依ルモノトス

〔第七百十五條〕

新聞紙ヲ發行スル株式會社ノ代表者タル專務取締役ハ編輯人印刷人及ヒ發行人ヲ使用スル者トス從テ新聞紙發行事業ニ付キ右等ノ者カ第三者ニ加ヘタル損害ニ對シテハ民法第七百十五條ニ依リ使用者ハ其賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

新聞紙ノ編輯人カ編輯ノ上新聞紙ニ掲ケタル記事ニシテ偶々誹毀ニ關スル刑律ニ觸ルルコトアルモ之ヲ職務ノ執行行為ニ非スト云フヲ得ス

或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者カ民法第七百十五條ニ依リ第三者ヨリ損害賠償ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ特ニ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタル事實ヲ主張セサルトキハ同條但書ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

使用者カ民法第七百十五條但書ノ規定ニ依リ賠償責任ヲ免レントスル場合ニハ被用者ノ選任及ヒ事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルコ

トヲ立證セサルヘカラス

或業務ノ爲メ他人ヲ使用スル者カ自己ノ義務ニ屬スル被用者ノ監督ニ付キ特ニ第三者ヲ雇使シ又ハ其監督ヲ之ニ委託シタルトキハ是等監督者ノ過失懈怠ハ使用者ノ過失懈怠トシテ其責ニ任スヘク監督者其人ノ選任監督ニ付キ不注意ナカリシコトヲ理由トシテ其責任ヲ辭スルヲ得ス

債權者ノ代理人トシテ差押ノ實施ニ立會フ者ハ法律行為若クハ準法律行為ノ代理人ニ非サルヲ以テ之ニ民法第一百條第二項ヲ適用又ハ準用スルヲ得ス又其者ハ差押フヘキ物ヲ指示スル爲メ債權者ニ使用セラルル者ニ非サルヲ以テ同第七百十五條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

商法第五百四十四條第一項ハ船舶所有者ニ過失ナカリシトキト雖モ其責任ヲ免ルルコトヲ得サル旨ヲ規定セルモノナルヲ以テ民法第七百十五條ニ規定セル使用者ノ責任ニ比シ一層重キ責任ヲ船舶所有者ニ負ハシメタルモノニシテ即チ其例外規定ナリトス

(參照)

雇人ノ過失又ハ怠慢ノ結果ハ其使用者ニ於テ之ヲ負擔スルヲ法律上ノ原則トス

〔第七百十七條〕

民法 債權 不法行為

三四二 一三九

三四四 八二

三四二 一〇五

四〇 二八一

四三 二六五

四三 六二

二 五七

二 四八八

二 五六〇

二九二 八一

○民法第七百十七條第一項ニ所謂占有者トハ必スシモ私人又ハ法人ニ限リタルニ非スシテ水利組合ノ如キ公ノ法人ト雖モ工作物ヲ占有スル場合ニハ其占有ハ私法上ノ關係ニ於テ存在スルコトアルカ故ニ亦同條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○民法第七百十七條ニ土地ノ工作物トハ建物墻壁地窖ノ如ク土地ニ接著シテ築造セル設備ヲ指稱シ機械ノ如キ工場内ニ据付ケラレタルモノハ之ニ包含セス

〔第七百十八條〕

○民法第七百十八條ハ人ニ損害ヲ加フル虞アル動物ヲ豫想シテ規定シタルモノナレハ其虞アルモノニ對シテハ飼主ニ於テ之カ保管上特ニ損害ノ發生ヲ豫防スルニ必要ナル設備ヲ爲スノ義務アリト雖モ其虞ナキモノニ至テハ必スシモ之カ設備ヲ爲スノ要ナシ從テ飼主カ之ヲ放置シタル一事ヲ以テ其保管上注意缺如ノ過失アルモノト云フヲ得ス

〔第七百十九條〕

○數人カ共同ノ不法行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶シテ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス  
○竊盜ノ贓物タルヲ知り其販賣ノ牙保ヲ爲シタルモノハ不法行為ノ幫助

者タリ從テ民法第七百十九條ノ規定ニ從ヒ被害者ニ對シ竊盜犯ト共ニ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス

○代理人カ故意ヲ以テ本人ニ對シ不利益ノ結果ヲ生セシムルカ如キ行為ヲ爲スニ當リ之ニ共謀加功シタル第三者ハ本人ニ對シテ其損害ヲ賠償スヘキ責任ヲ負フモノトス

○民法第七百十九條第一項前段ハ客觀的共同ノ不法行為ニ因リ其損害ヲ生セシメタルコトヲ要スルニ止マリ共謀其他主觀的共同ノ原因ニ因リ其損害ヲ生セシメタルコトヲ要スルコトナシ

(參照)

數人共謀シテ一ノ不法行為ヲ爲シタルトキハ之ヨリ生スル責任ハ連帶義務ナルニ依リ始メニ其中一名ニ對シ訴ヲ提起シ更ニ他ノ數名ニ對シ訴フルモ其訴訟ハ共ニ有效ナリ

〔第七百二十二條〕

○何人ト雖モ創傷ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキハ相當ノ治療ヲ加フヘキハ當然ナリ從テ治療宜キヲ失シ爲メニ重患ニ陥リタレハトテ其責任ヲ加害者ニ嫁スルヲ得ス

○不法行為ニ因ル損害賠償ハ金錢以外ノ給付ヲ許サス故ニ鑛業人カ境界線ヲ踰越シテ他人ノ所有地中ニ坑路ヲ侵掘シタル事實ニ基キ不法行為

三四	三〇	二	四〇	三四
四	七			三
二	六	二八一	六九八	七

三	二	元	三九
八			一九六
一〇	五〇七	一〇三	

ヲ以テ單純ナル損害賠償ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ坑舗填塞ノ請求ヲ許容シタルハ不法ナリ

(刑)

○民法第七百二十二條第二項ハ被害者ニ過失アル場合ニ於テハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルト否トヲ裁判所ノ見込ニ一任シ全然其職權ニ屬セシムルモノトス從テ裁判所カ被害者ニ過失アリタル事實ヲ認メ乍ラ何等斟酌スルコトナク損害賠償ノ額ヲ定ムルモ不法ニ非ス

○民法第七百二十二條第二項ノ規定ハ被害者ニ過失アリテ加害者ノ不法行為ヲ助成シ又ハ加害者ノ不法行為ト相竣テ損害ヲ發生シタルカ如キ場合ニ於テ加害者ノ責任ヲ宥恕スヘキ事情存スル時ニ之ヲ適用スヘキモノトス

(第七百二十三條)

『第七百二十三條』

○登録商標ニ類似セル商標ヲ同種ノ商品ニ使用シ廣ク世間ニ販賣スルトキハ之カ爲メ商標主ニ財産上ノ損害ヲ加フルコトアルヘキモ其品質劣ラサル限ハ被害者ノ名譽ヲ毀損シタルモノト云フヲ得ス

○名譽トハ各人カ社會ニ於テ有スル位置即チ品格名譽信用等ヲ指スモノニシテ畢竟各人カ其性質行狀信用等ニ付キ世人ヨリ相當ニ受クヘキ評價ヲ標準トスルモノニ外ナラス

三七	一六四
三九	一三五
四一	一四六
三七	五四七
三八	一六五

○或行為カ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ決スルニハ單ニ其行為ノ性質上一般ニ人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ定ムルヲ以テ足レリトセス尙ホ名譽ヲ毀損セラレタリト主張スル人ノ社會ニ於ケル位置狀況等ヲ參酌シ以テ其行為カ特ニ其人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ審査セサルヘカラス

○人ノ信用ニ關シ不當ニ虛無ノ事實ヲ社會ニ表白シテ其信用ヲ害スルカ如キハ人ノ名譽權ヲ侵害シタルモノトス

○支拂停止ノ事實ナキ債務者ニ對シテ破産ヲ申請シ裁判所ヲシテ破産ノ宣告ヲ爲サシメ之ヲ公告セシムルハ即チ債務者ノ信用ヲ害スヘキ事實ヲ流布スルモノニ外ナラス

○他人ノ人格ヲ批評スルニ當リテ發表シタルコトカ意見ニ止マルトキト雖モ苟モ其發表ニ因リテ同人カ品性德行名譽信用等ニ付キ世人ヨリ受クヘキ聲價ヲ害スルモノナルトキハ事實ヲ表白シタル場合ト同シク他人ノ名譽權ヲ侵害シタルモノトス

○甲男カ適法ニ婚姻ヲ成立セシムルノ意思ナキニ拘ハラズ其意思アル如ク裝ヒテ乙女ヲ欺キ婚姻ノ式ヲ舉ケ爾後數月間同棲セシメタルモ遂ニ婚姻ノ届出ヲ爲ササリシノミナラス瑣瑣タル事柄ヲ理由トシテ離別ヲ

三六	一六五
三九	二二六
四三	七四五
四三	二七三

爲シタルハ即チ故意ヲ以テ乙女ノ名譽ヲ毀損シ其權利ヲ侵害シタルモノニ外ナラス

○當事者カ婚姻ノ豫約ニ基キ慣習ニ從ヒテ婚姻ノ儀式ヲ舉ケ事實上夫婦的關係ヲ生シタル場合ト雖モ其關係ヲ絶ツコトハ雙方ノ自由ナルヲ以テ男子ヨリ豫約ノ履行ヲ拒絶シタルカ爲メ女子ノ品格ヲ毀損シ其名譽ヲ傷クルノ結果ヲ生スルモ不法ニ名譽ヲ侵害シタルモノト謂フヘカラス

〔第七百二十四條〕

○民法第七百二十四條前段ノ消滅時效ハ被害者カ損害及ヒ加害者ヲ知りタル時ヨリ之ヲ起算スヘキモノニシテ其不法行爲ヲ知りタル時ノ何時ナルヤハ問フ所ニ非ス

○不法行爲ノ被害者タル國カ加害者ニ對シテ民事裁判所ニ損害ノ賠償ヲ請求スルトキハ其請求權ハ民法第七百二十四條ニ依リ國カ損害及ヒ加害者ヲ知りタル時ヨリ起算シ三年ノ時效ニ因リテ消滅スルモノトス  
○債務者カ不法行爲ニ原因セル債務ノ辨濟ヲ怠リタルニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニハ民法第七百二十四條ノ時效規定ヲ適用スヘキモノニ非スシテ同第六十七條第一項ヲ適用スヘキモノトス

四	四	四	四
四	三	四	四
四	三	六〇〇	一六九
四	九三		二六
四			

### 第四編 親族

#### 第一章 總則

(參照)

私交上絶交スルコトアルモ親族ノ關係ニ至テハ法理上之ヲ斷絶スルコトヲ得ス既ニ之ヲ斷絶スルコトヲ得サルトキハ親族ノ關係ヨリ生スル權利ヲ行用スルコトヲ得ヘシ  
民法上權利ヲ爭フ場合ニハ一家族間ト雖モ他人ト異ナラス  
本家ニシテ且親屬タル關係ヲ有スル者ハ分家ノ秩序ニ關スル事柄ニ付キ容喙ノ權ヲ有スルカ故ニ分家ニ於テ跡相續ヲ爲スヘキ者ノ順位ニ付キ不當ノ處置アリト認ムル場合ハ其相當順位ニ在ル者ヲ保護スル爲メ分家ニ對シ訴訟ヲ起スコトヲ得  
本家分家ノ區別ハ我邦古來ノ慣例上之ヲ認ムルモノナルカ故裁判所カ其關係ニ基キ當事者ニ權利ノ有無ヲ判定シタルハ相當ナリ

〔第七百二十五條〕

○血族ノ親族タル身分ハ戶籍ニ登録スルニ因テ其效力ヲ生スルモノニ非ス未タ戶籍ノ登録ヲ經スト雖モ父母ノ認知ヲ得サル私生子ノ外事實上血族タル者ハ即チ親族ノ身分ヲ有スルモノナリ

〔第七百二十八條〕

○繼父トハ嫡出子若クハ庶子ノ父カ死亡シ又ハ家ヲ去リタル後入夫ト爲

三五	二六	二六	二五
一〇	五	五	六一
一三六	三四	三四	五三

リタル者ヲ謂フ故ニ寡婦ノ私生子ニシテ適法ノ認知ヲ受ケサリシ者ハ入夫婚姻ノ後ト雖モ依然其母ノ親權ニ服スヘキモノトス

○父死亡シ又ハ其家ヲ去リタル後母カ後夫ヲ迎ヘタルトキハ子カ戸主タル場合ト否ト又後夫カ他家ヨリ入りタル場合ト否トヲ論セス其後夫ト子トノ間ニ繼父子ノ關係ヲ生スルモノトス

(同主旨)

父死亡シ又ハ離婚シテ家ヲ去リタル後母カ同一戸籍ニ在ル先夫ノ兄弟ト結婚シタルトキハ他ヨリ夫ヲ迎ヘタル場合ト同シク其後夫ヲ指シテ子ノ繼父ト稱スヘキモノナリ

(第七百二十九條)

『第七百二十九條』

(參照)

夫ノ死亡後寡婦カ子ヲ遺シ實家ニ復籍スルモ亡夫ノ家ニ對シ當然親族關係ヲ斷絶スヘキ判例若クハ習慣ノ存スルコトナシ故ニ寡婦ノ實弟カ最近親族トシテ該遺子ノ家政ニ關係スルハ相當ナリ

(第七百三十條)

『第七百三十條』

(參照)

養子女一旦離縁ト爲リシ以上縱令養家ニ實子ヲ遺シタル場合ト雖モ養家ノ家事ニ付キ親族トシテ關係スルノ權利ナキコトハ古來ノ習慣ナリ故ニ離縁ト爲リシ婦女ヲ妻ト爲シタル夫ハ妻カ舊養家ノ家事ニ付キ容喙ノ權利ナキコトモ亦言テ諛タス

(第七百三十一條)

『第七百三十一條』

(刑)

○夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキハ繼父母ト繼子トノ親族關係ハ消滅スヘキモ(民法第七百二十九條第二項)分家ノ場合ニハ其親族關係ヲ消滅スヘキモノニ非ス(民法第七百三十一條)

○民法施行前ニ於テモ繼親子ノ親族關係ハ分家ニ因リテ絶止スヘキ法則存在シタルコトナシ

第二章 戸主及ヒ家族

第一節 總則

○一旦戸主ト爲リタル以上ハ如何ナル事實證據アリト雖モ之ヲ廢退セシムルコトヲ得ス

(參照)

民法人事編ノ實施セラレサル今日ニ在テハ慣例ニ依リ既ニ戸主ト爲リタル者ト雖モ十分ナル理由存在スルトキハ之ヲ廢スルヲ得

(第七百三十三條)

『第七百三十三條』

○民法第七百三十三條及ヒ第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家

民法 親族 戸主及ヒ家族 總則

三四九

三七	三三	三九	三四	二七	三二	四二	四三	三七
	二		七		五			
五二三	六二	一九	二	五六五	一	九五二	六二	七二二

ニ入ルヲ指シタルモノニシテ體軀ノ家屋ニ入ルモノ即チ親子ノ同棲ヲ云フニ非ス

〔第七百三十四條〕

○父カ離縁ニ因リ子ノ懐胎後出生前母ト共ニ養家ヲ去リタル場合ニ在テハ子ハ懐胎當時ノ養家ニ入ルヘキモノニ非スシテ出生ノ時ニ於ケル父ノ家ニ入ルヘキモノトス故ニ爾後養家ノ家督相續開始スルモ子ハ法定ノ推定家督相續人トシテ相續又ハ代承相續ヲ爲スノ權ナシ

〔第七百三十七條〕

○戸主ノ親族タルト否トヲ論セス他家ニ在ル者ハ法令ノ明文ナキ以上ハ戸主ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得サルハ民法施行以前ニ於テモ法理トシテ認メラタル所ナリ

○戸主ノ親族ニシテ甲家ヨリ乙家ニ轉籍セントスル場合ニ於テ兩家ノ戸主ノ同意ヲ缺クカ如キ違法アルトキハ其轉籍ハ後日之ニ關スル登記取消ノ手續ヲ爲シタルト否トニ拘ハラヌ兩家ノ戸主ニ對シテ無効ナリトス

〔第七百四十二條〕

○分家ノ行爲ハ廢嫡ト異ナリ任意行爲ナルヲ以テ其分家者ノ意思ニ反シ

テ爲スコトヲ得ヘキモノニ非ス

○法定ノ推定家督相續人ヲ分家セシムルニハ先ツ廢嫡ノ手續ヲ爲スカ又ハ遅クトモ分家ト同時ニ其手續ヲ爲ササルヘカラス

○如上ノ場合ニ於テ婿養子カ縁女ト離婚セシ後ト雖モ縁女ハ依然タル一家族ニ過キササルヲ以テ其戸主ノ許諾ヲ經ル以上ハ任意分家ヲ爲シ得ルモノトス(第九百七十條三七年四一六頁參照)

○絶家ノ再興ハ相續ニ非ス且民法施行後ハ勿論施行前ニ於テモ絶家再興者カ前戸主ノ權利義務ヲ承繼スヘキ法令又ハ慣習ノ存在セサリシヲ以テ再興者ハ特別ノ事由アルニ非サレハ前戸主ノ權利義務ヲ承繼セサルモノトス

(參照)

相續人ナキノ故ヲ以テ一旦一家廢絶スルモ其廢家以前ニ其家ニ生レシ實子アリテ之カ再興ヲ爲サントスルニ於テハ其者ハ固ヨリ其家ヲ相續スヘキ權利ヲ有ス縱令其家ノ重立タル親戚ト雖モ他ニ格段ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒否スルヲ得ス  
絶家再興ニ於ケル相續人ハ其絶家ノ親族タルト他人タルトヲ問ハス其親族協議ノ上之ヲ選定シ行政官廳ノ許可ヲ得ヘキモノナルニ依リ此手續ヲ經テ相續シタルモノハ正當ノ相續人ナリトス

第二節 戸主及ヒ家族ノ權利義務

三五	二	一
三五	四	一四九
三七	四六	
二	六四	
二七	五〇	
三一	三	三三

三三	二	三三
四〇	一〇六	
三七	一三三	
三六	八五九	



〔第七百四十七條〕

（參照）

戸主タル者ハ其家族ニ屬スル者ヲ保育スヘキ義務アルハ我國ノ習慣ナリ故ニ戸主ノ孫タル小兒ヲ預リ居ル者ヨリ其引取ヲ請求スルトキハ戸主タル者ハ之ヲ拒ムヲ得ス  
養料支給ノ義務ヲ負擔スル者カ戸主タル場合ニ於テ「家長ハ其眷族ヲシテ同居ヲ強フル權能ヲ有ス」ト云フ如キ民法上ノ原則ナシ

〔第七百四十八條〕

○家族カ戸主ト別居セル事實ヲ憑據トシテ其住所ニ存在スル財産ハ家族ノ特有財産ナリト推定シタル場合ニハ民法第七百四十八條第二項ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

（參照）

家族ノ特有財産ハ戸主之カ處分權ヲ有セス

自己ニ處分權ヲ有スル財産讓與ハ其一部ト全部ナルトニ依リ效力有無ノ區別ヲ生セス又殊ニ戸主ノ承諾ヲ受ケサルモ該讓與ハ適法ナリトス

〔第七百四十九條〕

○家族ニシテ民法施行後ニ至リ戸主ノ意ニ反シテ居所ヲ定メタルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得  
○戸主ハ一旦家族ニ對シ他ニ寄留スルコトヲ認許セシ後ト雖モ一家ノ整

二七  
四九  
二六  
三七

四一  
三〇

二四  
二九  
二八  
二

三三  
一

理上之ヲ歸家セシムルノ必要ヲ生シタルトキハ相當ノ期間ヲ定メテ其居所ヲ轉スヘキ催告ヲ爲シ若シ之ニ應セサルトキハ戸主ハ其家族ニ對シ扶養スルコトヲ停止シ又ハ之ヲ離籍スルコトヲ得ルモ強テ歸家セシムルコトヲ得ス

○推定家督相續人ハ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサルヲ理由トシテ離籍スルコトヲ得ヘキモノニ非ス

○民法第七百四十九條ニ規定シタル戸主權ハ一家整理ノ必要上付與シタルモノニシテ絶対無限ノモノニ非ス

（同義旨）

民法第七百四十九條ニ定メタル戸主ノ權利ハ契約又ハ親族會ノ決議ヲ以テ制限スルコトヲ得サルハ勿論ナレトモ戸主力之ヲ行フニハ相當ノ理由アルコトヲ要スルモノニシテ絶対無限ニ行使スヘキモノニ非ス

○戸主カ民法第七百四十九條ノ規定ニ違背シテ家族ヲ離籍シ之ヲ戸籍吏ニ届出テタルトキハ其家族ハ戸主ニ對シ身分登記原狀回復ノ手續ヲ爲サシムルノ權利アリ

第三節 戸主權ノ喪失

○隱居家督相續等ノ如キ身分ノ得喪ニ關スル行爲ノ無効又ハ取消請求權

四〇  
二七

三四  
四七

三四  
八〇

三三  
八

三三  
五

ニ付テハ法律ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外債權者ハ之ヲ有シ若クハ行フコトヲ得サルモノトス

(參照)

戸主中ノ債務ハ戸主ノ身分ヲ脱退スルモ此事實ノミニ依リ當然其義務ノ免脱ヲ受クヘキモノニ非ス

戸主カ代替物ノ借入ヲ爲スニ當リ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其家ノ戸主ニ限リ辨濟ノ義務ヲ負擔スヘキ特別ノ事由アラサル以上ハ借入ヲ爲シタル戸主カ其後戸主ノ地位ヲ退去スルモ辨濟ノ義務ヲ免ルヘキモノニ非ス又抵當權ノ目的カ戸主ヲ退キタル家ノ現戸主ニ屬シ舊戸主ニ屬セサルノ事由ヲ以テ辨濟ノ義務カ曾テ借入ヲ爲シタル舊戸主ノ負擔ニ非スト云フヲ得ス

(第七百五十六條)

『第七百五十六條』

○未成年者カ隱居ヲ爲スニハ自ラ其事ノ利害得失ヲ判斷スル能力ヲ具備スレハ足ル而シテ未成年者ニ如上ノ能力アルヤ否ヤヲ判定スルハ事實承審官カ年齢其他ノ狀況ヲ考察シテ定ムヘキ事實問題ニ屬スルモノトス

(第七百五十七條)

『第七百五十七條』

○戸籍吏ニ於テ隱居ノ届出ヲ受理シタル以上ハ縦令届出手續ニ瑕疵アルモ特別ノ明文ナケレハ其届出ハ當然無効ニ歸スヘキモノニ非ス

(第七百六十條)

『第七百六十條』

○民法第七百六十條ノ規定ハ同法第七百五十九條ニ所謂隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタル後其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタルトキニ於テ隱居ノ取消ヲ爲ス場合ニ適用スヘキモノトス

○民法第七百六十條第一項ハ取消ノ場合ニ於ケル權宜ノ規定ナレハ之ヲ類推シテ本來無効ニ基ク隱居ニ因リテ家督相續人タリシ者ノ債權者ト爲リタル者モ隱居ノ無効宣言ニ因リテ戸主タル者ニ對シ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノト解スルヲ得ス

(第七百六十一條)

『第七百六十一條』

○民法第七百六十一條ノ規定ハ慣習法ニ無キ所ナルヲ以テ民法施行前ニ生シタル事項ニ適用スルヲ得ス

(第七百六十四條)

『第七百六十四條』

○絶家トハ戸主ヲ失ヒ家督相續人ナキコト確定シタル家ヲ云フ而シテ前戸主ノ遺産ハ絶家ト同時ニ無主物ニ歸スルヲ以テ法律上絶家ニ財産ノ存在スルコトナシ

第二章 婚姻

三六 八九七

三〇 三一 一八一

三二 三五 七一

四三 八二五

三七 二〇五

三三 一〇 四〇

元 一〇三三

三三 四 四六

三四 一〇 二三

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

○婚姻ニ付テハ民法施行ノ前後ヲ問ハス婚姻ノ時特ニ當事者雙方ノ自由ナル意思ノ存スルヲ必要トセルカ故ニ將來婚姻ヲ爲スヘシトノ豫約ノ如キハ法律ノ認許セサル所トス

○婚姻ノ豫約ハ當事者ヲ拘束スルノ效力ナク之カ履行ヲ爲スト否トハ全然其自由ニシテ之ヲ履行セサルモ豫約ノ效果トシテ何等ノ責ニ任スルコトナシ

(參照)

婚姻ハ結婚者本人ノ承諾ナクシテ成立スヘキモノニ非ス故ニ未成年者ト雖モ結婚シタル以上ハ承諾ヲ爲ス能力ヲ有セサルヘカラス從テ離婚ニ付テモ亦其能力ヲ有シタルモノト看做シタル裁判ハ相當ナリ

『第七百七十五條』

○民法實施前ニ於テハ縦令戶籍簿上婚姻ノ事實ヲ登記セサルモ當事者間ニ其事實アル以上ハ裁判上之ヲ夫妻ト認メタルモノトス

(同主旨)

民法施行前ニ在テハ實際夫婦タル事實ノ存スル以上ハ其實際ニ據リ判斷テ下スヘキハ我國裁判上ノ慣例ナリ

三五	三	四	三五
三八	二		三
六	二〇二	一六	一六

(第七百七十五條)

(參照)

婚姻又ハ養女ノ縁組等ハ戶籍ニ登記ナキモ裁判官ハ事實上其成立ヲ認定スルコトヲ得相當ノ式ヲ行ヒ夫婦ト爲リ且其事實存スル場合ハ縦令其身分ヲ戶籍ニ登記セサルモ法律上之ヲ夫婦ト看做スコトヲ得

(刑)

(刑)

(刑)

登記ヲ以テ婚姻取組ノ必要條件ト爲シタル慣習アルヲ認メス  
送籍ハ婚姻成立ノ要素ニ非ス  
送籍ノ手續ナキモ婚姻成立スルコトヲ得而シテ婚姻ノ成立シテ夫婦タルノ關係ヲ有スルヤ否ヤハ事實ノ認定ニ屬ス  
實際夫婦タルニ相違ナキ以上ハ其實際ニ由リ判斷テ下スハ我邦民法上ノ慣習ナリ

第二款 婚姻ノ無効及ヒ取消

『第七百七十八條』

○民法施行前ト雖モ人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲スノ意思ナキトキハ縦令届出及ヒ登録アルモ法律上婚姻ノ效力ヲ發生スルコトナシ

○婚姻無効ノ訴ニ於ケル無効ノ裁判ハ唯其無効タルコトヲ判定スルニ止マリ更ニ婚姻ヲ無効ナラシムルモノニ非ス從テ起訴者カ創設的宣言ヲ求ムルハ不當ナリ

『第七百八十條』

民法 親族 婚姻 婚姻ノ成立 婚姻ノ無効及ヒ取消

二九	二九	三〇	三〇	三七
六	八	三	三	
八	八	一	一	一三九

(第七百七十八條)

(第七百八十條)

○民法第七百八十條ニ依リ檢事カ婚姻取消ノ訴ヲ提起シタル後ト雖モ其判決前ニ於テ離婚アリタルトキハ不法婚姻ハ解消セラレタルヲ以テ檢事ノ取消訴權ハ自ラ消滅スルモノトス

(第七百八十五條)

『第七百八十五條』

○民法第八百五十九條及ヒ第七百八十五條ハ當事者カ縁組ヲ爲ス要素ニ錯誤アル場合ニ非スシテ唯縁組ヲ爲スニ付キ詐欺又ハ強迫ニ因リ意思表示ヲ爲シ之カ爲メニ其要素以外ノ事項ニ錯誤ヲ來シタル場合ヲ規定セルモノトス

第二節 婚姻ノ效力

(第七百八十九條)

『第七百八十九條』

(參照)

婦ハ其夫ト共棲スヘキ義務アルモノナレハ其夫家ヲ立出タルハ自己ノ任意ニ非スト主張スル婦ハ之カ立證ヲ爲スノ責任アリ

(第七百九十一條)

『第七百九十一條』

○民法第七百九十一條ハ未成年ノ女カ婚姻スルトキハ親權者ノ存スルト否ト後見ノ開始スルト否トヲ問ハス婚姻ノ效力トシテ成年ノ夫カ直ニ其後見人ノ職務ヲ行ヒ民法第九百二十一條ニ定メタル權利義務ヲ有ス

ヘキ旨ヲ規定シタルモノト解釋セサルヘカラス

第三節 夫婦財產制

第一款 總則

(參照)

法律上公然妻タル身分ニ在ラサルモ當事者相互ノ間ニ於テハ實際夫妻ノ關係ヲ生シタリト認メ又異論ナキ點ヨリ其財產ヲ共通財產ナリト認ムルハ要スルニ事實ノ判斷ニ止マリ敢テ一般ノ習慣ヲ無視シ又ハ不現行ノ法律ヲ適用シタル違法ノ裁判ニ非ス

第二款 法定財產制

(第七百九十九條)

『第七百九十九條』

○妻ノ財產ニ對スル夫ノ收益權ハ夫婦關係ノ繼續中ニ限り存立スルモノナレトモ婚姻中既ニ發生シタル法定果實ニ付テハ其解消後ト雖モ夫タリシ者之ヲ收得スヘキ權利ヲ有スルハ當然ナリ

『第八百一一條、第八百二條』

(第八百一十二條)

○民法第八百一一條ハ妻ノ財產ニ對スル夫ノ管理權ヲ認メ同第八百二條ハ夫カ妻ノ爲メニ又ハ妻ノ財產ニ付キ同條列記ノ法律行為ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ必要トスル規定ニシテ妻ノ爲シタル法律行為ニ付キ夫カ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ許シタルモノニ非ス

三六

二〇九

二六

一

三三

四〇

四

三九

九〇〇

二九

三

六

四〇

二〇七

三三

二〇

八二

第四節 離婚

第一款 協議上ノ離婚

〔第八百十二條〕

○協議上ノ離婚者カ子ノ監護者ヲ定ムルハ其目的親權者ヲシテ監護ヲ爲サシメサルニ在レハ離婚者中ノ親權者カ其資格ヲ喪失シタルトキハ監護者ヲシテ監護ヲ爲サシムル必要存セサルヲ以テ監護者ノ監護權モ亦消滅ニ歸スヘキモノトス

第二款 裁判上ノ離婚

〔第八百十三條〕

○離婚ノ原因アル場合ニ於テ其請求權アル者ハ之ヲ請求スルト否トノ自由ヲ有スルト同時ニ縱令離婚ノ判決確定スルモ之ヲ執行スルト否トハ亦其自由ナルヲ以テ請求者ニ對シ離婚ヲ強要スルコトヲ得ス  
○夫カ重病ニ罹リ起居進退不自由ナルヲ願ミス家ヲ出テ看護ヲ爲ササル妻ノ行爲ハ惡意ノ遺棄タラサルトキト雖モ夫ニ對シテハ同居ニ堪ヘサル虐待ト爲ルコトアルヲ妨ケサレハ裁判所カ如上ノ事實ノ存在ヲ認メタル以上ハ當事者ノ關係ニ於テハ所謂虐待ノ場合ト爲ルヘキ事實ナリヤ否ヤヲ判斷セサルヘカラス

元

一〇八七

三六

二七

三六

一四〇〇

○夫カ正當ノ理由ナク竹棒ヲ以テ妻ヲ毆打シ其倒ルルニ乘シ足ヲ擧ケテ之ヲ蹴リタル所爲ハ一時ノ憤激ニ出テタルト否ト將タ夫妻間ノ不和合ニ原因シテ生シタルト否トヲ論セス民法第八百十三條第五號ニ謂フ同居ニ堪ヘサル虐待ニ該當セルモノトス  
○民法第八百十三條第五號ノ同居ニ堪ヘサル虐待ヲ受ケタルトキトハ繼續的ナルト一時的ナルトヲ問ハス其所爲苛酷ニシテ到底夫婦ノ關係ヲ持續シ同居スルニ堪ヘサル場合ヲ云フモノトス  
○民法第八百十三條第五號ニ所謂同居ニ堪ヘサル虐待トハ被虐待者ニ望ムニ同居ノ繼續ヲ以テスルコトヲ得サルノ結果ヲ伴フ虐待ヲ指稱ス而シテ如何ナル虐待カ果シテ如上ノ結果ヲ生スルヤハ各場合ニ就キ配偶者ノ性質地位其他ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘキモノトス  
○夫カ妻ニ對シテ竊盜ノ汚名ヲ負ハシメ他人ノ面前ニ於テ裸體ト爲ラシムルカ如キハ婦人ヲ辱ムルノ甚シキモノニシテ其當事者ノ身分職業ノ高下ヲ論セス妻ニ對シ重大ナル侮辱行爲ヲ構成スルモノトス  
○夫カ他人ノ面前ニ於テ妻ニ對シ竊盜ノ行爲アリタリト言フカ如キハ其實事ノ有無ヲ問ハス妻ニ汚名ヲ被ラシメタルモノニシテ民法第八百十三條第五號ニ所謂重大ナル侮辱ニ該當スルモノトス

三六

八五

四〇

五八〇

四二

一〇一一

三六

一〇三六

四〇

一〇七九

○妻カ他ノ男子ト情ヲ通セルモノト確信スルニ足ルヘキ事情アル場合ニ於テ夫ヨリ妻ノ實父母ニ對シ其確信シタル事實ヲ書面ニテ通報シ胸中ノ煩悶ヲ訴フルカ如キハ縱令激昂ノ餘其書面ニ多少過激ノ文詞ヲ使用スルモ民法第八百十三條第五號ノ所謂重大ナル侮辱ニ該當セス

○夫カ相當ノ理由ニ依リ其妻ニ犯罪行為アルコトヲ確信シタル場合ニ於テ之ヲ告訴スル如キハ必スシモ不當ノ行為ニ非サレハ單ニ檢事カ該事件ニ付キ不起訴ノ處分ヲ爲シ又ハ告訴ノ事實カ眞實ニ吻合セサル事由ノミニ依リ直ニ其行為ヲ以テ民法第八百十三條第五號ノ所謂重大ナル侮辱ニ該當スルモノト爲スヲ得ス

○民法第八百十三條ニ所謂惡意ノ遺棄ハ扶養義務ノ如何ニ關セス夫婦ノ一方カ惡意ヲ以テ他ノ一方ヲ遺棄スルヲ謂フ

○婦カ夫及ヒ其子女ヲ見捨テ姦夫ト逃走セシコトヲ信スヘキ相當ノ事情アル場合ニ於テ其婦ヲ歸宅セシメント試ミタル仲裁人ニ對シ夫ノ父カ不同意ヲ表スル主旨ヲ以テ激語ヲ使用スルモ機密の應對上ノ言語ニ外ナラサレハ之ヲ目シテ民法第八百十三條第七號ニ所謂重大ナル侮辱ヲ加ヘタルモノト爲スヲ得ス

○民法第八百十三條第八號ニ所謂重大ナル侮辱トハ配偶者ノ一方カ他ノ

一方ノ直系尊屬ニ對シテ爲シタル行為自體ノ狀態ニ付キ判斷スヘキモノニシテ行為ノ場所ニ第三者ノ存在スルト否トハ毫モ相關スルコトナシ

○侮辱行為ハ其行為者カ苟モ云爲スル意思アリテ云爲スルトキハ之ヲ構成スルニ足ルモノニシテ侮辱ヲ加フル意思アリシヤ否ヤハ必スシモ之ヲ審究スルノ要ナシ

(參照)

婚姻ハ婦カ婚家ノ家族ト爲ルノ原因ナルヲ以テ夫ノ死亡ニ依リ此原因消滅スルトキハ寡婦ハ特別ノ事由アル場合ノ外離縁ヲ求ムルコトヲ得

(第八百十六條)

『第八百十六條』

○虐待又ハ侮辱ヲ請求ノ原因トスル離婚ノ訴ニ於テ請求者カ其事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ訴ヲ提起シタル事實ヲ確定セスシテ其請求ヲ容レタル判決ハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ

第四章 親子

第一節 實子

○實親子ノ關係ハ自然ノ血縁ニ因ルモノナルカ故ニ其血縁アル者ノ間ニ

民法 親族 親子 實子

三六三

四	三	四
一八四	一〇	九六三
一六	七五〇	

三六	三五	三四
二七	五	九
二七	四九	九七

親子ノ關係存スルハ勿論ニシテ血縁アルコトノ知レサルカ如キ又ハ届出ヲ爲サス若クハ不實ノ届出ヲ爲シタルカ如キ場合ニハ唯其關係ヲ認め得サルニ過キス

第一款 嫡出子

○嫡出子ニ非サル者カ偶ハ戸籍簿ニ嫡出子トシテ登録セラルルモ之カ爲メニ該身分ヲ取得スヘキ理ナケレハ其登録ノ未タ取消サレサル場合ト雖モ戸籍簿以外ノ證據ニ依リ嫡出子ニ非サルコトヲ認定スル妨ト爲ラス

○民法施行前ニ在テハ婚姻ハ戸籍ニ登記スルコトヲ有效條件ト爲ササリシヲ以テ苟モ婚姻ノ成立シタル以上ハ夫婦間ニ擧ケタル子ハ嫡出子ヲ以テ論セサルヘカラス

〔第八百二十三條〕

○民法施行前ト雖モ嫡出子否認ノ訴ヲ禁シタル法律及ヒ慣例ナシ

〔第八百二十五條〕

○嫡出子否認ノ訴ハ民法施行以前ニ在テハ別ニ出訴ニ關スル期限ノ規定ナク民法ニ於テ始メテ之ヲ定メラレタルモノナルカ故ニ民法施行以前ニ夫カ子ノ出生ヲ知リタルモノニ付テハ民法施行法第三十四條ニ依リ

三六	三五	三三
五九	一七二	四二

〔第八百三十五條〕

其第三十二條及ヒ第三十一條但書ノ規定ヲ準用シ民法施行ノ日ヲ以テ起算點ト爲スヘキモノトス

第二款 庶子及ヒ私生子

○認知ヲ求ムルノ權ハ子其直系卑屬又ハ其法定代理人ニ限り行使スルヲ得ルモノトス

○民法第八百三十五條ハ法定代理人カ自己ノ資格又ハ自己ノ權利ニ因リテ認知ヲ求ムルニ非スシテ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ求ムルノ意義ニ解釋セサルヘカラス

○民法第八百三十五條ハ認知ノ請求ニ付キ法定代理人カ無能力者ヲ代理スルコトヲ特ニ規定シタルモノナリ

○民法第八百三十五條ノ場合ニ於テハ法定代理人ハ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ請求スルモノニシテ父又ハ母カ子ヲ代表スルハ親權ノ效力ニ外ナラス故ニ私生子ノ母タル未成年者ノ親權者カ其未成年者ニ代リテ親權ヲ行ヒ私生子認知請求ノ訴ヲ提起スルハ不法ニ非ス

(參照)

三四	三三	三二	三一
一九	一	二	七
	四	五	五
	四九	四九	

私生子カ其父トスル者ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得サルハ明治六年布告第二十一號ニ依リ明カナレトモ嫡出子トシテ其引取及戸籍編入ノ請求ヲ其母親族ヨリ爲シ來リタルコトハ裁判上ノ慣例ナリ

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

○約款附養子縁組ヲ爲シタル場合ニ於テモ其約款ノ内容カ縁組ノ法律上ノ組成要素タル意思表示ト相容レサルモノニ非サル限ハ約款ヲ附シタルノ故ヲ以テ縁組ヲ爲シタルモノニ非スト爲スヲ得ス

(參照)

養子ハ一旦其實家へ復籍シタル上ニ非サレハ更ニ他家ノ養子ト爲ルヲ得ス  
養子カ實家へ復籍セスシテ直ニ他家ノ養子ト爲ル契約ヲ爲スモ其契約ハ養子縁組ノ效力ヲ生セス

〔第八百三十九條〕

○民法施行以前ニ在リテハ法定家督相續人タル男子アル場合ト雖モ單純ノ養子ヲ爲スコトハ當時ノ法令若クハ慣習ニ違背スル所ナシ

〔第八百四十七條〕

○民法施行前ニ在テハ實際養父子タル事實ノ存スル以上ハ其事實ニ據リ判斷ヲ下スヘキハ我國裁判上ノ慣例ナリ

(參照)

婚姻又ハ養女ノ縁組等ハ戸籍ニ登記ナキモ裁判官ハ事實上其成立ヲ認定スルコトヲ得

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

○養子縁組モ亦一ノ法律行爲ナルヲ以テ其取消權ハ民法第二百二十六條ニ規定シタル時効ニ因リテ消滅スヘキモノトス

○配偶者アル者ノ爲シタル養子縁組ニ因リテ生シタル當事者間ノ親子關係ハ配偶者ノ一方ノミニ付テ消長セシムルコトヲ得サルカ故ニ養子縁組無効ノ訴モ亦配偶者ノ一方ノミニ意思ヲ以テ提起スルコトヲ得サルモノトス

○推定家督相續人タル資格ノ得喪ハ法律ノ定ムル所ニシテ契約ヲ以テ之ヲ變更スルヲ許ササレハ其變更ヲ内容トシタル約款ハ無効タルヲ免レスト雖モ之カ爲メニ養子縁組其モノヲ無効ト爲スヲ得ス

〔第八百五十一條〕

○民法第八百五十一條ハ當事者ニ縁組ノ意思ナキ理由ヲ一定セス唯人違其他ノ事由ニ因リト規定セルヲ以テ届出ニ表示シタル當事者ニ對シ人違ナルカ故ニ其意思ナシトスル場合ハ勿論單ニ其者ニ對シテ縁組ノ意思ナキ場合ヲモ包含スヘキハ當然ナリ

三	三	二	二	四	三
九	二	二	二	五	六
一〇三	三	四	四	五	七

二	三	三	四	五	三
九	九	九	九	九	九
一〇三	三	三	三	三	三



(刑)

○兵役義務ヲ免ルルノ目的ヲ以テ合意上表面假裝ノ縁組ヲ爲シタル場合ニハ縦令其登録アルモ當事者間ニ縁組ヲ爲スノ意思ナキヲ以テ其縁組ハ無効ナリトス

○當事者ノ不知ノ間ニ外形上養子縁組成立シタルトキハ民法第八百五十一條ニ依リ其無効ヲ請求シ得ルモノトス

○民法第八百五十一條第一號ノ規定ハ人違ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキ場合又ハ精神ノ喪失若クハ強迫ニ因リ意思能力ヲ失ヒタル場合ハ勿論其他當事者ニ於テ特ニ縁組ノ要素ト爲シタルモノヲ欠缺シタルニ因リ縁組ヲ爲ス意思ナキ場合モ亦其縁組ヲ無効タラシムルノ法意ナリトス

○當事者間ニ養子縁組ヲ爲ス意思ナキ場合ニ於テハ其縁組カ虚偽ノ意思表示ナルトキト雖モ民法第八百五十一條ニ從ヒテ之ヲ無効ト爲スヘク同第九十四條ニ依リ其無効ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノト爲スヲ得ス

(第八百五十九條)

『第八百五十九條』

○民法第八百五十九條及ヒ第七百八十五條ハ當事者カ縁組ヲ爲ス要素ニ錯誤アル場合ニ非スシテ唯縁組ヲ爲スニ付キ詐欺又ハ強迫ニ因リ意思

表示ヲ爲シ之カ爲メニ其要素以外ノ事項ニ錯誤ヲ來シタル場合ヲ規定セルモノトス

第三款 縁組ノ效力

(參照)

養子自身ノ財産ト養家ニ屬スル財産トヲ區分スルハ法律及ヒ慣習ノ禁セサル所ナリ 養父カ養子ノ所有地ヲ他ヘ賣渡スモ實父ニ於テ幼者(實子即チ他家ヘノ養子)利益保護ノ爲メ其不當ヲ鳴ラシ之カ取消ヲ求ムル權利ナキモノトス

(第八百六十條)

『第八百六十條』

法定ノ推定家督相續人タル長女ノ婿養子ト爲リタル者カ養嗣子ノ身分ヲ取得スルハ本邦習慣ノ認ムル所ナリ

(參照)

(第八百六十一條)

『第八百六十一條』

○民法第七百三十三條及ヒ第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家ニ入ルヲ指シタルモノニシテ體軀ノ家屋ニ入ルモノ即チ親子ノ同棲ヲ云フニ非ス

第四款 離縁

○推定家督相續人タル養子ノ離縁ヲ爲スニハ豫メ相續人廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要セス

民法 親族 親子 養子 縁組ノ效力 離縁

四〇	二六	二六	二六	三三	三三
二〇七	二	二	一	二	二
二〇七	三	三	三	三	三

三六八	三六八	三六八	三六八	三六八	三六八
二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七
二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七

(第八百六十五條)

『第八百六十五條』

○協議上ノ離縁カ縁組當事者ノ意思表示ヲ欠キ又ハ當事者ノ一方ノ意思表示カ相手方ノ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキハ縱令戸籍吏ニ於テ其届出ヲ受理スルモ該離縁ハ民法總則ニ依リ無効ニ屬シ又ハ取消シ得ヘキモノトス

○民法第八百六十三條第一項ニ違反スル離縁ト雖モ戸籍吏カ其届出ヲ受理シタル以上ハ該届出ノ違法ナル理由ヲ以テ之ヲ取消スコトヲ得サルハ勿論同意ヲ得ヘキ者ノ同意ヲ欠キタル理由ヲ以テモ亦之ヲ取消シ得サルモノトス

(第八百六十六條)

『第八百六十六條』

○養親子ノ間ニ在テハ正當ノ原因存スレハ相互ニ離縁ヲ請求シ得ヘキモ第三者ヨリ其請求ヲ爲スヲ得サルモノトス

○民法第八百六十六條ハ主トシテ離縁ノ事由ヲ定メタル規定ナルモ養親タル夫婦ハ離縁ノ訴訟ニ付テハ各直接利害關係者ニシテ之ニ對スル判決ハ合一ニノミ確定スヘキ場合ナルヲ以テ養親タル夫婦俱ニ存スルトキハ共ニ訴訟當事者ト爲ルヘキコトヲモ併セテ規定シタルモノト解釋セサルヘカラス

三五	三六	三六
二二	二〇	二〇
二四	四九	四八

○養親カ養子タル婦女ヲ強制シテ再三藝妓ノ賤業ヲ營マシメントシ又ハ金錢ノ爲メニ其節操ヲ破ルヘキ行爲ヲ敢テセシメントスルカ如キハ婦女ヲ侮辱スルノ甚シキモノニシテ民法第八百六十六條第一號ニ該當スヘキ行爲ナリトス

○醫師ノ家庭ニ生長シタル婦人ニシテ其養親ニ對シ畜生又ハ馬鹿爺ト云フカ如キハ實ニ侮辱ノ重大ナルモノニシテ民法第八百六十六條第一號ニ該當スルモノトス

○離縁請求事件ニ於テ養子カ養親ニ對シ畜生又ハ馬鹿爺ト云ヒタル事實ヲ認メ此所爲ハ民法第八百六十六條第一號ノ所謂重大ナル侮辱ニ該當スル旨ヲ說示シタルトキハ第三者カ其侮辱被侮辱ノ關係ヲ認識シタルヤ否ヤヲ判斷スルノ要ナシ

○子ニシテ父母ノ命ニ從ハス其言自己ノ意ニ適セサレハ之ヲ罵ルニ馬鹿ヲ以テスルカ如キハ宥恕スヘキ事情存セサル限り父母ニ對シテ重大ナル侮辱行爲ヲ構成スルモノトス

○醫師ノ家庭ニ在ル養子ニシテ情夫ト私通シ之ヲ自宅ニ宿臥セシムルカ如キハ養親ノ家名ヲ瀆スヘキ重大ナル過失アルモノニシテ民法第八百六十六條第五號ニ該當スルモノトス

四二	四二	四二	四二	三六
四九	二八	四九	四九	一五三

○養子カ養父ニ對シテ不當ノ要求ヲ爲シ之ヲ法廷ニ争ヒ一審ニ於テ敗訴シタルニ拘ハラヌ尙ホ無益ノ上訴ヲ敢テスルカ如キハ縱令他人ノ爲メニシタル場合ト雖モ人道ニ反スルノ甚タシキモノニシテ家名ヲ汚瀆セラル行爲ナリトス

○民法第八百六十六條第六號ニ所謂養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキトハ養子カ養家ヲ逃亡シテ所在ヲ韜晦シタルトキハ勿論縱令其所  
在ハ爾後分明ト爲ルモ復歸ノ意思ナクシテ三年以上ヲ經過シタルトキ  
ヲ指稱シ其事實ハ孰レモ養親ノ爲メニ養子離縁ノ原因ヲ成スモノトス

(參照)

養子ノ品行ニ付キ非議スヘキ廉アリ又ハ孝道ニ付キ多少缺クル所アル事實ヲ以テ直ニ離縁ノ原因ト爲スコトヲ得ス  
徵兵ヲ忌避セシメンカ爲メ養子ヲ爲シタル者ヲ罰スル法律ナキニ依リ其事實ヲ主張シ以テ離縁ノ訴ヲ爲スモ犯罪行爲ヲ原因トシ法律上ノ救濟ヲ求ムルモノト云フヲ得ス  
養親子ノ關係ハ縁組ノ當事者即チ養親ト養子トノ間ノ關係ナルヲ以テ其當事者間ニ在リテハ相互ニ離縁ノ請求ヲ爲シ得ヘキモ第三者ヨリ縁組ノ當事者ニ對シ其間ノ養親子ノ離縁ヲ請求スルヲ得サルヲ以テ通則トス

〔第八百七十五條〕

○家督相續權ハ相續開始ノ時ヲ以テ始メテ確定スヘキモノナレハ其未タ

四二	二八
四〇	九七
三〇	四
三〇	五〇
三二	五
	四九

〔第八百七十七條〕

○子カ獨立ノ生計ヲ立ツル事實ナキ以上ハ縱令成年ニ達シタル後ト雖モ依然其家ニ在ル父又ハ母ノ親權ニ服スヘキモノナルヲ以テ其親權喪失ヲ目的トスル訴訟ハ法律上利益アルモノトス

開始セサルヤ推定家督相續人タル身分ハ一種ノ權利タルコト勿論ナリト雖モ確定不動ノ權利ニ非サルヲ以テ民法第八百七十五條ニ所謂既ニ取得シタル權利ニ非ス  
○養子カ離縁復籍シタル場合ニ第三者ノ既ニ取得シタル權利ヲ害セサル限ハ其實家ニ於テ有シタル身分ヲ回復スヘキ法理ハ民法施行前ニ在リテモ亦之ヲ是認セサルヲ得ス  
○推定家督相續人カ家督相續ノ開始前廢嫡セラレタル場合ト雖モ其子カ養子縁組ニ因リ他家ニ在ルトキハ民法第九百七十四條ニ依リテ家督相續人ト爲ルコトヲ得ス故ニ爾後離縁復籍シタリトテ代位相續人タル身分ヲ回復スルノ理ナシ

### 第五章 親權

#### 第一節 總則

〔第八百七十七條〕

○子カ獨立ノ生計ヲ立ツル事實ナキ以上ハ縱令成年ニ達シタル後ト雖モ依然其家ニ在ル父又ハ母ノ親權ニ服スヘキモノナルヲ以テ其親權喪失ヲ目的トスル訴訟ハ法律上利益アルモノトス

三五	二八
三五	二八
四三	六四
四〇	六〇〇

○母アリテ父ナキ幼者ハ其母ノ親權ニ服シテ他人ノ後見ニ服セサルヲ以テ原則トス但其母カ他人ヲ後見人ニ選定スルコトヲ承諾シ又其意思ヲ表示スルコト能ハサルモ後見人ヲ選定スルノ必要アル場合ハ格別トス

○民法第八百七十七條第二項ノ場合ニ於テハ父ノ妻ニ非サル母ト雖モ子ト家ヲ同フスルトキハ其子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得

○民法第八百七十七條ニ所謂親權ヲ行フコト能ハサルトキトハ父カ疾病其他ノ理由ニ因リ事實上親權ヲ行使スルコト能ハサル場合ハ勿論其精神上若クハ身體上ノ障礙ニ因リ親權者タル能力ヲ缺ク場合ヲモ包含ス從テ禁治產者又ハ準禁治產者ノ如キハ親權ヲ行フコト能ハサルモノト解スヘキモノトス

(參照)

後見人ナキ幼者ニ戶主タル祖父ト家族タル父アリテ共ニ同居スル場合ニハ其父ヲ以テ幼者保護ノ自然代理人ト爲スヘキモノニシテ戶主ヲ以テ該代理人ト爲スノ慣例ナキモノトス

母ハ自ラ其子ノ後見人ト爲リ又ハ他人ヲ其後見人ニ選定スルノ權利ヲ有ス

母ハ他人ヲ後見人ニ選定シタル後ト雖モ後見人ノ權利ニ相觸レサル範圍ニ於テ仍ホ親權ヲ行フコトヲ得

(第八百七十八條)

『第八百七十八條』

○民法第八百七十八條第九百二十九條ノ規定ハ繼父ノ代理權行使ニ付キ

三	三	二六	四	三
三	三	二		八
四	四	九〇	七	二四

制限ヲ加ヘタルニ過キサレハ繼父カ親族會ノ同意ヲ得スシテ未成年ノ子ニ代リ營業若クハ借財ヲ爲スモ之ヲ以テ權限外ノ行爲ト云フヲ得ス

○實母カ實子ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ民法第八百七十八條ノ場合ト異ナリ親族會ノ同意ヲ要セサルモノトス

第二節 親權ノ效力

○親權ヲ有スル實母カ自ラ其幼兒ノ後見ヲ爲サスシテ他人ヲ其後見人ニ選定スルモ之ヲ以テ其實母ハ全ク親權ヲ拋棄シタルモノト云フヲ得ス

○未成年者ノ爲メニ相續ノ開始アリタル場合ニ於テ其相續カ相續人ノ爲メニ不利益ナルトキト雖モ親權者ハ限定承認ヲ爲ササルヘカラサルカ如キ法則ナシ從テ親權者カ未成年者ノ爲メ何心ナク相續ノ届出ヲ爲シタリトテ之ヲ以テ親權ノ濫用ナリト云フヲ得ス

(第八百七十九條)

『第八百七十九條』

○親權ヲ行フ者ハ民法第八百七十九條ニ規定セラレタル權利ヲ有シ義務ヲ負フモノナレハ自己ノ權利ニ因リ子ノ身體自由ヲ保護スル目的ヲ以テ訴訟ヲ提起シ得ルコト當然ナリ

(參照)

實母ハ幼年ナル子ノ身體及ヒ財産ノ保護ヲ爲スヘキ權義ヲ有スルヲ以テ此等ノ事ニ關シ幼者

四	四	三	二	四
八		二		
二五	二五	五〇	七五	八七

ノ爲メ自ラ訴訟ヲ爲スコトヲ得  
子カ未成年者ナルトキハ父ハ自然ノ後見人トシテ其監護ヲ爲スノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノ  
ナルニ依リ適當ト認ムル場合ニ於テハ親權ニ基キ他人ヲ其後見人ニ選定スルコトヲ得從テ其  
後見人ハ何時ニテモ之ヲ罷免シ自ラ監護ヲ爲スコトヲ得ルハ條理上當然ナリ

〔第八百八十三條〕

(刑)

○未成年ノ子カ職業ヲ營ムニ當リ親權者ノ許可ヲ得ルニ付テハ別段ノ方  
式ナシ從テ親權者カ其監督ヲ爲シ居ル事實ヲ以テ承諾アリシモノト爲  
スコトヲ得

○民法第八百八十三條ノ規定ニ從ヒ母カ子ノ營業ヲ許可スルニ付テモ親  
族會ノ同意ヲ要シ其同意ヲ得スシテ母ノ許可シタル營業上ノ行爲ハ亦  
第八百八十七條ノ規定ニ準據シ取消シ得ヘキモノトス

〔第八百八十四條〕

○親權ヲ行フ父ハ子ノ財産上ノ權利ニ關シテ縱令他人ノ財産ヲ讓受ケ之  
ヲ賣却スルカ如キ法律行爲ト雖モ其代表ヲ爲シ得ヘキモノトス

○親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ニ關スル行爲ニ付テハ汎ク其  
子ヲ代表スト雖モ財産ニ關セサル行爲ニ付テハ法律ニ於テ特ニ規定シ  
タル場合ニ限り其子ヲ代表ス

二八	二五	二四	元	三四	三四
二八	二五	二四	元	三四	三四
二四	二五	二四	元	三四	三四
二四	二五	二四	元	三四	三四
二四	二五	二四	元	三四	三四
二四	二五	二四	元	三四	三四
二四	二五	二四	元	三四	三四
二四	二五	二四	元	三四	三四
二四	二五	二四	元	三四	三四
二四	二五	二四	元	三四	三四

○親權者ト取引ヲ爲ス第三者ニ於テ親權者ノ行爲カ親權ノ濫用ナルコト  
ヲ知リタル場合ニ於テハ其行爲ハ親權ヲ行フ者其人自身ト第三者トノ  
直接關係ニシテ親權ニ服スル子ト第三者トノ間ニ爲サレタルモノト云  
フコトヲ得ス

○民法施行前ニ在リテ子ノ財産ニ於ケル親權者ノ權利ハ管理權ニ止マラ  
スシテ新民法ノ規定ノ如ク處分權ヲモ包含セシコトハ一般ニ行ハレタ  
ル慣例ナリ

(參照)

養子幼年ニシテ財産ヲ有スルトキハ養父養子ニ對シ其親權ヲ行ヒ其財産ヲ自己ノ財産ニ於ケ  
ル如ク處理シテ他人ノ干渉ヲ受ケサルコト實父ノ實子ニ於ケルト同一ナルヲ通例トス  
實父カ幼年者ノ利益保護ノ爲メ爲シタル財産上ノ處分行爲ハ其實父カ後見人タルト否トニ拘  
ハラス幼年者ノ爲メニ效力ヲ有ス  
父カ親權ヲ以テ其子ノ財産ヲ處理スル場合ハ普通後見人カ幼者ノ財産ヲ處分スルトキノ如ク  
親屬ノ連署ヲ要スルモノニ非ス

〔第八百八十六條〕

○民法第八百八十六條第一號ノ規定ニ依リ親族會ノ同意ヲ得テ商業ヲ營  
ム場合ノ外親權ヲ行フ母カ未成年者ニ代リ法律行爲ヲ爲スニハ縱令其  
行爲カ商行爲ナルトキト雖モ親族會ノ同意ヲ經ヘキモノトス

三五	二	二六	二五	二六	二五
三五	二	二六	二五	二六	二五
三五	二	二六	二五	二六	二五
三五	二	二六	二五	二六	二五
三五	二	二六	二五	二六	二五
三五	二	二六	二五	二六	二五
三五	二	二六	二五	二六	二五
三五	二	二六	二五	二六	二五
三五	二	二六	二五	二六	二五
三五	二	二六	二五	二六	二五

○民法第八百八十六條第二號ニ謂フ借財トハ單ニ貸借關係ニ基ク借財ノミヲ指シタルモノニ非スシテ金品給與ノ債務ヲ負擔スル總テノ行爲ヲ指稱セルモノトス

○或行爲カ借財行爲即チ債務負擔行爲ナルヤ否ヤハ其行爲自體ニ付テ決定スヘキモノニシテ行爲ヲ爲スニ至ラシメタル緣由ノ如何ニ由リ定ムヘキモノニ非ス

○約束手形ノ振出ハ手形金額支拂ノ義務ヲ生スルカ故ニ民法第八百八十六條第二號ニ所謂借財ヲ爲スコトニ該當ス

○民法第八百八十六條第三號中ニハ訴訟行爲ヲ包含セス

○民法第八百八十六條ノ規定ハ未成年者ノ財産ヲ保全セシムルヲ以テ目的ト爲シタルモノナレハ同條ノ所謂重要ナル動産ニ關スル權利ニハ金錢ノ取得ヲ目的トスル債權ヲモ包含セルモノトス

○民法第八百八十六條第三號ニ所謂重要ナル動産ニ關スル權利ナリヤ否ヤハ一般社會ノ經濟狀態及ヒ其權利者ノ行爲當時ニ於ケル財産狀態ニ照シ査定スヘキモノトス

○民法第八百八十六條第三號ニ所謂權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲トハ管ニ直接ニ權利ノ喪失ヲ目的トスルモノノミナラス消費貸借又ハ消費寄

託ノ如キ其行爲ノ結果必然ニ權利ヲ移轉シ其喪失ヲ來スモノヲモ包含スルモノトス

○實母カ實子ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ民法第八百七十八條ノ場合ト異ナリ親族會ノ同意ヲ要セサルモノトス

(同主旨)

親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リ訴訟行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要セス

〔第八百八十七條〕

○親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リ不動産ヲ賣却スルニ當リ親族會ノ同意ヲ得サルトキハ其行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモ當然無効ノモノニ非ス

○親權ヲ行フ母カ民法第八百八十六條ノ規定ニ違反シテ爲シタル借財ニ付キ子又ハ其法定代理人カ取消ノ意思ヲ表示シタルトキハ何人ニ對シテモ其取消ノ效果ヲ援用スルコトヲ得ルモノトス

○民法第八百八十七條ノ規定ニ依リ取消シ得ヘキ行爲ハ母カ親族會ノ同意ヲ得スシテ子ノ營業ヲ爲スコトニ同意ヲ與ヘタル場合ニ於テハ子ノ營業上ノ行爲ヲ指スモノニシテ母ノ與ヘタル同意其モノヲ以テ取消シ得ヘキ行爲ト爲シタル法意ニ非ス

元	三六	三三	三三	二	二
		二	一〇		
九八〇	八二四	七九	一	七五九	五九〇

○民法第八百八十三條ノ規定ニ從ヒ母カ子ノ營業ヲ許可スルニ付テモ親族會ノ同意ヲ要シ其同意ヲ得スシテ母ノ許可シタル營業上ノ行爲ハ亦第八百八十七條ノ規定ニ準據シ取消シ得ヘキモノトス

〔第八百八十八條〕

○父カ未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付キ其子ノ爲メ特別代理人ヲ選定シ其子ノ財産管理ヲ委任スルハ相當ノ行爲ニシテ法律ノ禁スル所ニ非ス

○民法第八百八十八條第一項ノ旨趣ハ未成年ノ子ト親權者ト利益相反スル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スヘキ義務ヲ親權者ニ負ハシメタルニ過キスシテ同法第九百四十四條及ヒ第九百四十九條ニ依リ付與セラレタル親族等ノ權能ハ之カ爲メニ制限セラレタルモノニ非ス

○民法第八百八十八條ハ未成年者ヲ保護スルノ精神ニ基キ親權者ニ特別代理人選任請求ノ義務ヲ負擔セシメタルモノニシテ親權者ノ利益ノ爲メ之ニノミ其權利ヲ與ヘタルモノニ非サレハ同法第九百四十四條ノ推理解釋ヨリシテ親族會ノ招集ヲ請求スル權アル者モ亦該特別代理人選任ノ請求權アルモノト云ハサルヘカラス

元 九八〇

三二 九 六七

三三 一 八〇

三五 六 二〇

○未成年者ノ特別代理人カ其權限内ニ於テ締結シタル契約ヲ履行シ公正證書ヲ作成スル如キハ未成年者ト親權者トノ利益相反スル行爲ニ非スシテ親權者カ當然爲スヘキ行爲ナリトス

○相續ノ承認若クハ拋棄ノ如キ相手方ナキ單獨行爲ハ民法第八百八十八條ニ所謂利益相反スル行爲ニ非サルヲ以テ數人ノ子ニ對シ親權ヲ行フ父若クハ母カ遺產相續ノ拋棄ヲ爲スニ付テハ同條第二項ニ依ル特別代理人ノ選任ヲ必要トセス

○民法第八百八十八條ニ所謂利益トハ單ニ財産上ノ利益ノミヲ指稱スルモノニ非スシテ身分上ノ利益ヲモ包含スルモノトス

○民法第八百八十八條ニ所謂利益相反スル行爲トハ單ニ親權ヲ行フ父又ハ母ト未成年ノ子トカ各一方ノ當事者ト爲リテ其間ニ爲ス所ノ行爲ニ付キ互ニ利益相反スル場合ノミニ限ラス親權ヲ行フ母カ自己ノ婚姻ニ關シ其戸主タル未成年ノ子ヲ代表シテ與フル同意ニシテ互ニ利益相反スル場合ヲモ包含スルモノトス

〔第八百九十五條〕

○民法第八百九十五條ニ謂フ戸主權ノ實行ニハ隱居ヲ爲スカ如キ行爲ヲ包含セス故ニ親權者カ未成年ノ子ヲ代表シテ爲シタル隱居ノ行爲ハ無

四〇 一〇三六

四四 四六

二 八九九

二 八九九

效ナリ

第三節 親權ノ喪失

(第八百九十六條)

『第八百九十六條』

○親權ヲ行フ母カ親族會ノ同意ヲ得シテ未成年ノ子ニ代リ借財ヲ爲シ且不動産及ヒ重要ナル動産ノ一部分ヲ賣却スルモ必スシモ親權喪失ノ原因タル親權濫用ノ行爲ヲ爲セシモノト斷定スヘキモノニ非ス

三六

六五

○戸主タル未成年者ノ親權者カ未成年者若クハ其代理人ノ承諾ヲ受ケスシテ妄リニ其財産ヲ家族以外ノ者ノ生活費又ハ養育費等ニ費消スルハ親權濫用ノ所爲ナルモ若シ其家族以外ノ者ノ爲メニ費消スルニ付キ正當ノ事由存在スルトキハ右費消ノ所爲アリタル一事ヲ以テ直ニ親權ノ濫用ナリト云フヲ得ス

三七

一九〇

○普通ノ家庭ニ於テ父ノ死亡後親權ヲ行フ母カ父ノ生前ヨリ姦通セル情夫ト依然私通關係ヲ繼續スルカ如キハ民法第八百九十六條ニ所謂著シク不行跡ナル行爲ニ該當スルモノトス

四一

七五

○親權者ノ不行跡ヲ以テ親權喪失ノ事由トセルハ之カ爲メニ未成年者ノ監護教育ヲ怠リ其他親權ヲ濫用スルノ危険アルニ因ルモノナレハ縱令親權者ニ不行跡アルモ既ニ過去ノ事實ニ屬シ現在其跡ナキニ於テハ之

ヲ以テ親權喪失ノ事由トスルニ足ラス

四四

四六三

○未成年者ノ爲メニ相續ノ開始アリタル場合ニ於テ其相續カ相續人ノ爲メニ不利益ナルトキト雖モ親權者ハ限定承認ヲ爲ササルヘカラサルカ如キ法則ナシ從テ親權者カ未成年者ノ爲メ何心ナク相續ノ屈出ヲ爲シタリトテ之ヲ以テ親權ノ濫用ナリト云フヲ得ス

四五

二六五

○親權喪失ノ原因一旦存在シタルモ親權喪失請求ノ判決前既ニ其原因消滅シテ存セサル場合ニ於テハ裁判所ハ其喪失ヲ命セサルコトヲ得ルモノトス

四五

三〇六

(第八百九十七條)

『第八百九十七條』

○親權者カ未成年者ノ利益ヲ保護スル爲メ特ニ親族會ノ決議ニ反對ノ意見ヲ表示シ且其決議ニ關スル事項ノ處理ヲ他人ニ委任スルモ之ヲ以テ管理ノ失當ニ因リ未成年者ノ財産ヲ危クシタルモノト云フヲ得ス

三七

一四八

(第八百九十九條)

『第八百九十九條』

○親權ヲ行フ母カ一旦子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル以上ハ後日其意思ヲ翻ヘシテ管理ヲ爲スカ如キハ民法第八百九十九條ノ精神ニ於テ許ササル所ナリトス

三四

七

一



### 第六章 後見

○未成年者ノ爲メ後見人ヲ置クヘキ規定アル場合ニ於テ未成年者ノ爲メ後見人ヲ置カサリシ事實ノミヲ以テ直ニ其未成年者ハ當然能力アリシモノト推定スルヲ得ス

○民法施行前ニ於テ特別ノ事情アルトキハ成年者ニ後見人ヲ附シタル慣習ナキニ非スト雖モ通常ノ成年者ニ附セル後見人ハ不適法タルコトヲ免レス

#### 第一節 後見ノ開始

○未成年者ノ父又ハ母カ禁治産者若クハ準禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ス而シテ其未成年者ニ對シ他ニ親權ヲ行フ者ナキ場合ニハ後見ノ開始アルヘキモノトス

#### 第二節 後見ノ機關

##### 第一款 後見人

○民法施行前ニ於テ母カ親權ヲ行フヘキ場合ニ其母ノ承諾ヲ得スシテ後見人ヲ選定シ相當ノ手續ニ從ヒ管轄役場ニ届出テ爾來後見人トシテ其

三三  
四  
九三

三六  
五七一

三九  
五五三

〔第九百條〕

職務ヲ執行シ來リタル以上ハ更ニ相當ノ手續ヲ經テ之ヲ取消ス迄ハ適法ノ後見人ト看做スヘキモノトス

○民法施行前ニ在テハ適式ノ後見人ナキ場合ニ於テ必要上後見ノ職務ヲ攝行スル者ハ丁年者タルヲ必要トセス丁年ニ近キ年齢ニシテ意思能力アル者ナレハ未成年者ト雖モ可ナリ

○民法施行前華士族カ幼少ニテ家督相續ヲ爲シ後見人ヲ選任シタルトキハ之ヲ其筋ニ届出テ戶籍ニ表記セシムヘキヲ一般ノ慣例トス故ニ若シ此場合ニ於テ後見人ヲ選任シタルモ故アリテ届出ヲ爲ササリシモノトセハ其主張ヲ爲ス者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス

○後見人カ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ其職權ヲ濫用シタルトキハ被後見人ノ親族ハ後見ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

(參照)

本邦ノ慣習上管財人ノ選定ノ如キ幼者ノ保護ニ關スル權利ニ付テハ家付(本件ノ場合ニ於テハ母系)ノ親族ニ重キヲ置カサルヘカラス

後見人ノ幼者ヲ保護監督スルヤ必スシモ幼者ノ近傍ニ在ルヲ要セス裁判ニ於テ後見人ヲ有名無實ノ後見人ト爲スニハ必ス確乎タル證據理由ヲ示ササルヘカラス但幼者ノ家族カ後見人ノ認承ヲ缺タスシテ負債ヲ設ケタル事迹アルカ爲メ其後見人ヲ有名無實ト云フヲ得ス

後見人ハ必ス被後見人ト同居セサルヘカラサルモノニ非サレハ單ニ遠隔ノ地ニ住居スルト云

民法 親族 後見 後見ノ機關 後見人

三三  
二  
六

三一  
一  
七

三六  
一八五

四〇  
八九九

二四  
一  
二二六

二五  
四  
一



合ニ於テ更ニ後見人ヲ選任スル手續ヲ規定シタルモノニシテ後任ノ後見人ヲ選定シタル上ニ非サレハ前任ノ後見人其任務ヲ辭スルヲ得サルノ法意ニ非ス

〔第九百六條〕

○親族會ニ於テ二人以上ノ後見人ヲ選定シタルハ不適法ナルモ其内ノ一名ノミ後見ヲ擔任シ其餘ノ者カ辭任シタルトキハ後見ヲ擔任シタル一名ハ改メテ親族會ノ選任ヲ受ケサルモ其者ニ正當ノ後見人タル資格ヲ生スルモノト爲ササルヘカラス

○民法施行以前ニ於テモ法律ハ二名以上ノ後見人ヲ認メサルカ故ニ二名以上ノ者カ後見人トシテ未成年者ノ爲メニ爲シタル法律行爲ハ所謂無權代理人ノ爲シタル行爲ニ該當シ本人カ其追認ヲ爲スニ非サレハ之ニ對シ效力ヲ生セサルノミニシテ絶對ニ無効ナルモノニ非ス

(反對)

適法ノ後見人存在セサル場合ニ於テ後見人ト稱スル者ノ爲シタル法律行爲ハ代理權ナキ者カ之ヲ爲シタルニ外ナラサルヲ以テ當然無効ナリトス

(參照)

後見人ノ外ニ其監督者ヲ定ムルニ非スシテ同一ノ職務權限ヲ有スル數多ノ後見人ヲ設ケルコトハ慣習上之ヲ認メス

三五	二	七
二六	五	一
三六		五七
三九		一六二
四四	八	三

多數ノ後見人ハ一般ノ慣習及ヒ判例ニ於テ之ヲ認メス故ニ二名ノ後見人ニ對シ終局判決ヲ言渡シタルハ違法ナリ

〔第九百七條〕

○後見人ト保佐人トノ別ナク一旦適法ニ就職シタル者ハ縱令半途ニシテ本來自己ヨリ先ニ後見人若クハ保佐人タルヘキ資格アル者ノ出テタル場合ハ勿論其者カ後見人若クハ保佐人タルコトヲ得サリシ事由消滅セシ場合ト雖モ當然其職務ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非ス

〔第九百八條〕

○民法第九百八條ニ所謂被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲ストハ實體上被後見人ノ利益ニ反スルニ拘ハラズ之ニ對シ訴訟ヲ爲スノ義ニシテ形式上被後見人ヲ被告トスルモ實質ニ於テ其利益ノ保護ヲ目的トスル訴訟ノ如キハ之ニ包含セシメサル法意ナリ

○民法第九百八條第六號ニ被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者トハ被後見人ヲ相手方トスル訴訟ニ於テ當事者タリ又ハ當事者タリシ者ノ意義ニシテ其原告タリ被告タルヲ問ハサルノ法意ナリト解スヘキモノトス

○裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡

三	四	七九
四五		三六
四三		八五五
二		三五

アリト認メラレタル者ハ後見人タルノ資格ナケレハ一旦後見ノ任務ニ就キタル後ト雖モ當然其職ヲ失フモノトス

(第九百九條)

『第九百九條』

○後見人ト保佐人トノ別ナク一旦適法ニ就職シタル者ハ縱令半途ニシテ本來自己ヨリ先ニ後見人若クハ保佐人タルヘキ資格アル者ノ出テタル場合ハ勿論其者カ後見人若クハ保佐人タルコトヲ得サリシ事由消滅セシ場合ト雖モ當然其職務ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非ス

第二款 後見監督人

○民法施行前ニ於テハ後見監督ニ關シ民法ニ於ケル如キ規定ナカリシヲ以テ適宜後見人ヲシテ其管理ノ狀況ヲ明白ナラシメ被後見人ノ利益ヲ保護スルコトハ其近親ノ義務ナリ

(參照)

後見監督人ノ設置ハ現行法ノ規定セサル所ナレトモ親族協議ノ上ハ之ヲ設置スルヲ得ヘシ故ニ其協議アリタル場合ニ尙ホ之カ設置ヲ否認セル判決ハ不法ナリ

(第九百十五條)

『第九百十五條』

○後見人カ被後見人ノ所有地ヲ以テ自己ノ所有地ナリト申立テ土地收用審査會ノ裁決ヲ受ケタル後ト雖モ更ニ被後見人ヲ代表シテ起業者ニ對

シ所有權侵害工事排除ノ訴ヲ提起スルヲ得ヘク此訴訟行爲ヲ目シテ後見人ト被後見人ト利益相反スル行爲ト云フヘカラス

第三節 後見ノ事務

○民法施行前ニ在テハ後見人ナキ未成年者ノ財產處分ニ付キ親族若クハ故舊カ他ノ親族ノ承諾ヲ得テ後見人ノ爲スヘキ處分ヲ攝行スルモ無効ニ非ス

○民法施行以前ニ於ケル禁治產者ノ管理人ハ被管理者ノ債務ノ辨濟ニ充當スル爲メ其財產ヲ處分スルノ權アリ

○後見人ハ宛モ委任ニ因ル管理人ノ如ク請求ニ從ヒ其管理ノ計算ニ付キ報告ヲ爲スヘキ者ナルコトハ民法施行前ニ於テ一般ニ是認セラレタル條理ナリ

○民法施行前ニ於テハ後見人カ被後見人ヲ代表シテ利害相反スル行爲ヲ爲スコトヲ禁シタル法令ナシト雖モ斯ル行爲ヲ無効ト爲スヘキハ後見制度ノ目的ニ鑑ミテ條理ニ適シタルモノトス

(參照)

親族會ニ於テ選定サレタル後見人カ幼者ヲ保護スルニ當リ妨害ヲ受クルコトアレハ妨害者ニ對シ妨害ヲ除去スルカ爲メ起訴シ得ルハ論ヲ竣タス其資格ニ付キ爭ナケレハ裁判所ニ於テ職

四〇

八九

四五

三八

三六

二九二

二九

七六

三九

九九四

三三

七二

三三

四六

三六

二九一

二

六〇四

權ヲ以テ之ヲ調査スヘキモノニ非サレハ其資格ニ對シ不服ヲ唱フルコトヲ得ス  
後見制度ニ關スル法律未ダ實施セラレサルニ由リ後見人カ被後見人ノ財産中ノ或一部ヲ管理  
セル者ト認ムルモ不法ニ非ス

後見人ハ常ニ被後見人ノ利益ヲ保護スヘキ權利義務ヲ有スルモノナレハ被後見人ニシテ不利  
益ヲ蒙ルムルヘキ場合ニ於テハ其後見人ヨリ訴訟ヲ提起スルヲ當然トス

後見人カ被後見人ノ不利益ヲ顧ミス其任務ヲ盡ササルトキ親族ハ其親族權ニ因リ後見ノ解除  
ヲ求メ得ヘキモ後見人ヲ差擱キ被後見人ノ爲メ訴訟ヲ爲スコトヲ得ス

幼者ノ親族ハ其幼者ニ自然ノ後見人アル場合ニ之ヲ擱キ幼者ノ爲メ自ラ訴訟ヲ提起スル權能  
ナシ

〔第九百十七條〕

○後見人カ調製スヘキ被後見人ノ財産目錄ハ其財産ノ全部ヲ掲載スヘキ  
モノナルモ多少遺漏ノ點アレハトテ直ニ之ヲ無効トシ目錄ヲ調製セサ  
ルモノト云フヲ得ス

〔第九百二十三條〕

○後見人ハ被後見人ノ財産管理ニ關シ獨立シタル固有ノ權利ヲ有ス  
(參照)

〔第九百二十九條〕

○未成年者ニ對シテ法律上代理ノ資格ナキ者ハ未成年者ヲ代表シテ上告

ヲ爲スノ權ナキモノトス

○後見人カ被後見人ニ代リテ約束手形ヲ振出ス場合ニハ民法ノ規定ニ依  
リ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

○凡ソ訴訟ヲ爲スニ付キ親族會ノ同意ヲ要スヘキ親權者ハ第一審ニ起訴  
スル場合ニ其同意ヲ得ルヲ以テ足り各審級ニ付キ各別ニ同意ヲ得ルヲ  
要セサルモノトス

○民法施行以前ニ於テ後見人カ幼者ノ親族ト協議シ其承諾ヲ得テ幼者ノ  
財産ヲ賣却シ其代金ヲ幼者ノ必要ナル費用ニ充ツルハ後見人ノ任務ニ  
屬スル有效ノ行爲ト認メタル所ナリ

○後見人カ親族ノ同意ヲ得スシテ被後見人所有財産ノ全部又ハ一部ヲ他  
人ニ贈與シタリトテ直ニ之ヲ無効ト云フヲ得ス

○民法施行前ニ在テハ後見人ノ職務ニ付キ一定ノ規則備ハラサリシカ故  
ニ後見人ノ承諾ヲ經タル以上未成年者ノ名ノ下ニ親族連署ニテ地所ヲ  
賣却スルモ其行爲ヲ目シ不適法ニシテ無効ナリト云フヲ得ス

○民法實施以前ト雖モ後見人カ被後見人ノ財産ヲ他人ニ贈與スルニ付キ  
親族ノ同意ヲ得タルトキハ其贈與ハ完全有效ナリトス而シテ既ニ親族  
ノ同意アル以上ハ被後見人ノ利益ヲ保護セサルモノト謂フヲ得サレハ

三六	二	三〇	一九	二九	二八	二六
三五	四	三	三	三	二	二
三五	二	二	三	三	二	二
三六	四	一	二	三	二	二
三五	二	一	二	三	二	二
三六	四	一	二	三	二	二
三五	二	一	二	三	二	二

三四	二	三四	二七	三四	七	二六
三五	四	三	二	三	二	二
三五	二	二	三	三	二	二
三六	四	一	二	三	二	二
三五	二	一	二	三	二	二
三六	四	一	二	三	二	二
三五	二	一	二	三	二	二

被後見人ハ後日ニ至リテ其行爲ヲ取消スコトヲ得ス

○民法第九百二十九條ハ公益上未成年者ヲ保護センカ爲メニ設ケラレタルモノナレハ後見人ノ爲シタル法律行爲ハ親族會ノ決議ニ因ル授權ニ相伴テ成立セシムルノ旨趣ニシテ固ヨリ後見人ノミ爲シタル法律行爲カ該授權ヲ離レ獨立シテ適法ニ成立シ得ヘキ法意ニ非ス

○後見人カ民法第十二條第一項ノ行爲ヲ爲スニ當リ親族會ノ同意ヲ經サルトキハ其行爲ハ取消シ得ヘキモノニシテ未タ完全ノ效力ヲ生セスト雖モ爾後親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ追完スルコトヲ妨ケサルモノトス

○民法施行以前ニ於テハ後見人カ幼者ノ家計上必要ノ爲メ其財産ヲ處分スルニハ親族ノ同意ヲ要スル外別ニ制限ノ規定ナシ從テ實父カ幼者ノ爲メニ其不動産ヲ賣却シ後見人之ヲ承認シタル以上ハ其處分行爲ハ有效ナリトス

○後見人カ被後見人ニ代リテ約束手形ヲ振出スニ方リ親族會ノ同意ヲ經サルトキハ被後見人其代理人又ハ承繼人ニ於テ之ヲ取消シ得ルモノトス

○民法第九百二十九條ハ後見人カ被後見人ニ代リテ同第十二條第一項ノ行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ要スル規定ニシテ其行爲ヲ爲ササルコ

トニモ亦同意ヲ要スルノ旨趣ニ非ス

○民法第一千二十四條第二號ノ規定ニ依リ相續人カ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サレタル場合ニ於テモ相續人ハ未成年者ニシテ其後見人カ右ノ單純承認ニ關シ親族會ノ同意ヲ得サルトキハ其承認ハ之ヲ取消シ得ルモノトス

○後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ノ爲メニ訴訟行爲ヲ爲シタル場合ト雖モ後日親族會ニ於テ之ニ同意ヲ與フルトキハ既往ノ欠缺ハ補正セラレ適法ナル訴訟行爲ト爲ルモノトス

(同主旨)

後見人カ被後見人ノ爲メニ訴訟ヲ爲スニ付キ親族會ノ同意ヲ得ルカ如キハ起訴ノ當初其授權ノ欠缺アリトスルモ該訴訟ノ繫屬中又ハ第二審ニ繫屬中ニ於テ親族會カ同意ヲ爲シ之ヲ追認スルトキハ遡リテ其當初ヨリノ訴訟行爲ヲ總テ有效ナラシムルモノトス

後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ノ爲メニ爲シタル訴訟行爲ハ當然無効ノモノニ非ス成年ニ達シタル被後見人又ハ親族會カ之ヲ追認スルトキハ授權ノ欠缺ハ補正セラレルモノトス

(參照)

後見人ノ爲シタル抵當附貸借ニシテ親屬ノ違署ナキモノハ其抵當權設定ノ無効ナルコト勿論ナルモ其貸借ニシテ幼者ノ利益タルモノノ如キハ爲メニ其貸借契約マテ無効ト爲スヘキモノニ非ス

四五	四〇	三六	三二	二八	二四	二〇
五	八	六	六	八	二四	三六
一〇〇	一	一三	八	二四	二四	三六

三七

三六

三六

三元

三元

四〇

四一

四三

三三

三四

二五

一二四

七六

二〇一

六〇九

七五八

三六

二四

八九

一三

一

一〇〇

新民法ノ未タ實施セサル今日ニ在テハ苟モ相當ノ手續ヲ經テ後見人ヲ設立シタル以上ハ被後見人ニ於テ其丁年以上ナルト否トニ拘ハラズ財産上獨立シテ權利行爲ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

後見人カ幼者ノ家政整理上親族ノ協議ニ據リ其不動産ヲ賣却シ若クハ抵當ニ爲ス如キ已ムヲ得サル場合ニ於テ正當ナル行爲ニ出テタルコトヲ示スニハ後見人ニ於テ之カ確證ヲ舉グヘキ責任アリ

後見人ハ幼者ノ爲メニ貸借ヲ爲スノ權ヲ有ス

後見人カ幼者ノ爲メ爲シタル負債カ實際幼者ニ必要ナシトスルモ幼者ハ其債務ヲ免ルルコトヲ得ス

後見人ノ爲シタル貸借カ幼者ノ爲メ必要ナルヤ否ハ幼者ト後見人トノ間ニ於テ其責任ノ如何ヲ判定スルノ憑據タルコトヲ得

後見人カ被後見人ノ名義ニテ金圓ノ借入ヲ爲ス行爲ハ他ニ特別ノ理由ナキ限ハ當然無効ノモノニ非ス

後見人カ他人ノ爲メニ被後見人ノ財産ヲ擔保ニ供スル行爲ハ無効ナリ

〔第九百三十條〕

○民法實施前ニ於テ後見人カ未成年者ノ財産ヲ買受タル法律行爲ヲ禁シタル法令アラサルヲ以テ其賣買ハ當然無効ナルニ非スシテ未成年者ヨリ之ヲ取消シ得ヘキ慣例ナリ

〔第九百三十四條〕

〔第九百三十四條〕

○後見人ハ幼者ノ利益保護ノ爲メニ設クルモノナレハ民法施行以前ト雖モ隱居ノ如キ身分ニ關スル重要事項ハ幼者ニ代テ之ヲ爲ス權利ヲ有セス

○家族ノ入籍又ハ復籍ヲ請求シ若クハ之ヲ拒否スルカ如キハ戶主ノ權利ナルカ故ニ被後見人カ戶主ニ非サルトキハ其後見人ハ之ニ代リテ斯ノ如キ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

○後見人カ被後見人ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲スニハ民法第九百三十四條第二項同第九百二十九條ノ規定ニ從ヒ親族會ノ同意ヲ得サルヘカラス從テ民法實施前後見人カ被後見人ニ代リテ提起シタル訴訟ト雖モ民法實施後ハ親族會ノ同意ヲ得サルヘカラス

第四節 後見ノ終了

○被後見人ノ成年ニ達スルヤ當然完全ノ能力ヲ有スヘキモノナルヲ以テ後見人ノ任務ハ之ト同時ニ消滅ニ歸スヘキハ當然ナリ

(參照)

未成年者ノ後見ハ未成年者カ成年ニ達スルト同時ニ終了シ後見人ハ其資格ナク隨テ被後見者ヲ代表スル所ノ訴訟能力ヲ有セサルコト論テ談タス

後見制度ハ素ヨリ幼者ノ利益ヲ保護スル爲メ設ケタルモノナリト雖モ其利益ハ必スシモ後見

民法 親族 後見 後見ノ終了

二五	二六	二六	二六	二六	二六	二五
六	五	五	五	五	五	六
一〇〇	五〇四	八	八	八	八	一〇〇

三七	三七	三二	三二	三二	三二	三七
一五五	一五五	二	二	二	二	一五五
二五	二五	六	六	六	六	二五

ニ依ルニ非サレハ之ヲ保護スルノ途ナキニ非ス即チ後見ニ關スル法令ノアルアリテ之ニ任務ヲ繼續スヘキモノナリトノ規定ナキ以上ハ後見滿期後仍ホ後見人ノ任務ヲ繼續セサルヘカラサルノ理ナキヲ以テ後任後見人ノ選定如何ニ拘ハラズ後見職ハ滿期ト共ニ解除スヘキモノトス

未丁年者ノ後見ハ其丁年ニ達スルト同時ニ當然終了シ從テ丁年者自ラ諸般ノ權利行爲ヲ爲シ得ヘキハ普通ノ法則トス左レハ既ニ丁年ニ達セシ後仍ホ之ヲ後見ニ付セントセハ必ス瘋癲白痴若クハ浪費者ノ如キ特別保護ヲ要スル正當ノ理由ナカルヘカラス

### 第七章 親族會

〔第九百四十四條〕

- 裁判所ノ招集ニ依リ一旦親族會ヲ開キタル以上其後ノ開會ニ付テハ更ニ裁判所ノ招集ヲ要スヘキモノニ非ス
- 民法第八百八十八條第一項ノ旨趣ハ未成年ノ子ト親權者ト利益相反スル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スヘキ義務ヲ親權者ニ負ハシメタルニ過キスシテ同法第九百四十四條及ヒ第九百四十九條ニ依リ付與セラレタル親族等ノ權能ハ之カ爲メニ制限セラレタルモノニ非ス
- 母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル場合ニ於テ其母カ遲滯ナク親族會ノ招

三	三	二	二
一	六		
八〇	九	五二	三

集ヲ裁判所ニ請求セサルトキハ他ノ親族ヨリ親族會招集ノ手續ヲ爲シ得ヘキモノトス

- 被相續人カ遺言證書ヲ以テ家督相續人ヲ指定シタルモ檢認ノ結果其遺言無効ニ歸スルトキハ指定ヲ受ケタル者カ既ニ家督相續ノ登記ヲ爲シタルト否トヲ論セス被相續人ノ親族ハ家督相續人選定ノ爲メ親族會ノ招集ヲ請求スル權利アリ
- 親族會カ形式上適法ニ選定招集セラレタル場合ト雖モ曩ニ適法ニ選定招集セラレタルモノアルトキハ後ノ選定招集決定ハ實質上無効ナルヲ以テ其決定ニ基キタル親族會ノ議決モ亦當然無効ナリトス
- 相續人選定ノ爲メニ招集セラレタル親族會ハ其決議ノ有效ナリヤ否ヤヲ問ハス其決議事項ヲ議了スルト同時ニ當然解散スルモノナルヲ以テ爾後ニ至リ曾テ親族會員タリシ者又ハ其他ノ者カ尙ホ親族會存續スルモノトシテ之ヲ招集スルヲ得ス
- 民法第九百四十四條ハ第九百四十九條ノ如キ特別ノ明文アル場合ノ外最初ノ親族會ヲ招集スル場合ニ限ラス總テノ場合ニ適用セラルヘキ規定ナリトス

〔第九百四十五條〕

### 第九百四十五條

二	二	三	三
			七
六九	六九	九	一



- 親族會員ハ親族其他本人又ハ其家ニ縁故アル者ノ中ヨリ裁判所ノ適當ト思料シタル者ヲ自由ニ選定ス
- 民法第九百四十五條第一項ハ親族會員ノ最小數ヲ指示シタルモノニシテ親族會ヲ開クヘキ定足數ヲ規定シタルモノニ非ス
- 民法中親權者ヲ以テ親族會員タルコトヲ得サルモノトシタル規定ナケレハ親權者タル繼父ヲ親族會員ニ選定スルモ不法ニ非ス

(第九百四十六條)

『第九百四十六條』

- 親族會員選任ノ後民法第九百八條第八號ノ事由ヲ生シタル場合ニ於テハ同法第九百四十四條ニ掲ケラレタル者ハ訴ヲ以テ救濟ヲ求ムルコトヲ得
- 民法第九百八條ニ掲クル者ハ法律上親族會員ト爲ルノ資格ナケレハ此等ノ者ハ縱令裁判所カ誤テ之ヲ親族會員トシテ選定スルモ其資格ヲ具有シ得ル理ナシ
- 未成年者ノ法定代理人ヨリ被告トシテ訴訟ヲ提起セラレタルニ止マル者ト雖モ苟モ訴訟ノ當事者タリシ以上ハ親族會員タルコトヲ得サルモノトス

(參照)

三三	三三	三六	四三	三九
三三	三三	三六	四三	三九
一五七	一五七	八八六	八二七	四五七
七四	七四	一九四	七四	七四

(第九百四十七條)

『第九百四十七條』

- 親族會員三名アル場合ニ於テ其會員中ノ一名闕席セルトキト雖モ會員ノ過半數(即チ二名)ノ一致ヲ得ルトキハ其決議ノ有效ナルコト勿論ナレトモ議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得サル者カ其數ニ加ハリタルトキハ該決議ノ全部無効ニ歸スルモノトス

親族會ハ成法上其組織ヲ認メタルモノナキモ現ニ其會員中ニ非行者アリテ之ヲ除斥セサルヘカラサル場合ニ於テハ裁判所ニ出訴シテ其保護ヲ求ムルヲ得ヘキモノトス  
後見人ノ罷黜或ニ親族會員除斥ノ訴ヲ被後見人家ノ家長及ヒ親族ヨリ提起シタルハ訴訟手續上相當ナリ

- 民法第九百四十七條第一項ハ親族會ノ議事ハ會員全體出席ノ上過半數ヲ以テ決スヘキ旨ヲ規定シタルニ非スシテ缺席者ノ有無ヲ問ハス會員全體ノ過半數ヲ以テ議決スヘキコトヲ規定シタルモノナリ
- 親族會ヲ開クヘキ定足數ニ付テハ民法中別ニ規定セル所ナシ從テ會員ノ過半數出席スルトキハ之ヲ開クコトヲ得ルモノトス
- 親族會員ハ親族會ノ議事ニ付キ直接ニ自己ニ利害關係アルニ非サレハ表決權ヲ喪フコトナシ
- 親族會員ノ家族又ハ子ヲ他人ノ相續人ト爲スヘキヤ否ヤヲ議スルハ其

三〇	三〇	三五	三七	三九
三〇	三〇	三五	三七	三九
五三	五三	二二七	五二	四五七
五三	五三	二二七	五二	四五七

家族又ハ子ノ利害ニ關スル議事ナレトモ之ヲ以テ直ニ戸主若クハ親權者タル會員其人ノ利害ニ關スル議事ナリト云フヲ得ス

○親族會ノ會員ニシテ民法第九百四十七條第二項ノ規定ニ違背シ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハリタルトキハ當ニ其會員ノ表決ヲ無効トスヘキノミナラス親族會ノ決議其モノヲ無効トスヘキモノトス

(參照)

親族會ハ事情ノ許ス限リ親族一同協議シテ幼者ノ利益ヲ計ルヘキハ當然ノコトナリト雖モ必スシモ親族ノ總員集會協議スルヲ要スルモノニ非ス又親族間ニ多少ノ不折合ノ事情アリテモ其多分カ協議議決スレハ其議決ハ正當ノモノナリト謂ハサルヲ得ス  
甲者カ親族會議ニ列スルコトヲ得ル場合ニ在ルモ甲者自己ノ懈怠ニ因リ其會議ニ出席セザリシモノト裁判所カ認定シ其會議ヲ正當ノ議ナリト判決シタルニ對シ甲者ハ之ヲ不法ノ裁判ナリト云フヲ得ス  
親族會議ノ法規ナキ今日ニ在テハ他人カ該會議ニ列席シタルハトテ之ヲ無効ノ會議ト云フヲ得ス  
幼者ノ母ハ其幼者ノ利害ニ關スル親族會議ニハ當然參加スヘキモノナレハ特殊ノ事情ナクシテ之ヲ參加セシメサルトキハ其親族會議ノ決議ハ無効ナリ  
親族協議ニ列席スヘキ人ノ續柄ノ遠近ニ付テハ法律上一定ノ規定ナシ故ニ近親ニ非サル者カ親族協議ニ列席シタル一事ヲ以テ一概ニ之ヲ無効ナリト云フヲ得ス

四〇	一〇四六
四二	一三五
二六	三三〇
二六	三三〇
二七	五二七
三〇	一
三〇	三〇

(第九百四十八條)

○民法第九百四十八條第二項ノ規定ニ違背シ招集ノ通知ナクシテ爲シタル親族會ノ決議ハ不適法ナルコト勿論ナレハ通知ヲ受クヘキ權利アリテ之ヲ受ケザリシ者ハ特別ノ事由アルコトヲ要セスシテ其決議ニ對シ不服ヲ訴フルコトヲ得ヘキハ當然ナリ

○親族會ノ決議ハ縱令民法第九百四十八條第二項ノ手續ヲ履マサルモ當然無効ナルモノニ非ス

(第九百四十九條)

『第九百四十九條』

○民法第八百八十八條第一項ノ旨趣ハ未成年ノ子ト親權者ト利益相反スル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スヘキ義務ヲ親權者ニ負ハシメタルニ過キスシテ同法第九百四十四條及ヒ第九百四十九條ニ依リ付與セラレタル親族等ノ權能ハ之カ爲メニ制限セラレタルモノニ非ス

○親族會ハ無能力者ノ爲メニ設ケタル者ヲ除ク外其招集ノ目的タル事項ヲ決議スルトキハ縱令異日裁判ニ因リテ決議無効ノ宣言ヲ受クルコトアルモ其決議ヲ爲シタル時ヲ以テ自ラ解散スヘキモノトス

三二	一〇
三三	一
三三	八〇
三六	六四八
二	三五〇
三七	九五二

最近親族數名存在スル場合其多數ニ充タサル親族ノ協議ハ親族會ノ決議ト爲スコトヲ得ス

『第九百四十八條』

(同主旨)

親族會ハ無能力者ノ爲メニ設ケラレタルモノヲ除ク外其目的ト爲シタル事項チ一旦議決シタル場合ニ於テハ縱令其決議ハ異日裁判上取消サレ若クハ無効ノ宣告ヲ受クルコトアルモ其決議ヲ爲シタル時ヲ以テ當然解散セラレヘキモノトス

○民法第九百四十四條ハ第九百四十九條ノ如キ特別ノ明文アル場合ノ外最初ノ親族會ヲ招集スル場合ニ限ラス總テノ場合ニ適用セラレヘキ規定ナリトス

(第九百五十一條)

『第九百五十一條』

○民法第九百四十八條第二項ノ通知ヲ缺キタルトキハ之ヲ原因トシテ同法第九百五十一條ニ依リ不服ノ訴ヲ提起シ得ヘキモノ之ヲ提起スルニ付キテハ必ス同條一个月ノ期間内ニ於テセサルヘカラス

○親族會カ不法ノ決議ニ依リ家督相續人ヲ定メタルトキハ之ニ對シ自ラ相續權アルコトヲ主張セサル親族ハ右親族會ノ決議ニ對シ其不服ヲ裁判所ニ訴フヘキモノニシテ直ニ家督相續人ニ係リ其相續ノ取消ヲ訴求スヘキモノニ非ス

○苟モ親族會ノ無効ヲ認メテ裁判シタル以上ハ其無効カ全然無資格ナル者ヲ選任シタルカ爲メナルト否トニ論ナク親族會ノ始メヨリ無効ナル

コトハ同一ニシテ彼此區別アルヘキモノニ非ス

○相續人選定ノ爲メノ親族會ト相續人タル未成年者ノ爲メノ親族會トハ各特別ノモノニシテ相續人選定ノ親族會ノ決議ニ對スル訴訟ハ其親族會員ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ未成年者ノ爲メノ親族會員ニ向テ之ヲ爲スヘキモノニ非ス

○民法第九百五十一條ハ親族會ノ決議ニ對シ同條記載ノ人ニ限り親族會員ヲ相手方トシテ訴訟ヲ提起シ其不當ヲ主張シ得ル旨ヲ規定シタルモノト解釋スヘキモノトス

○親族會員三名アル場合ニ於テ其會員中ノ一名闕席セルトキト雖モ會員ノ過半數(即チ二名)ノ一致ヲ得ルトキハ其決議ノ有效ナルコト勿論ナレトモ議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得サル者カ其數ニ加ハリタルトキハ該決議ノ全部無効ニ歸スルモノトス

○法定ノ推定家督相續人ハ相續人ヲ選定シタル親族會ノ決議ニ對シテ不服ノ訴ヲ提起セサリシカ爲メニ其決議確定スルモ之カ爲メニ其推定家督相續人タル身分ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

○民法第九百四十八條第二項ノ規定ニ違背シ招集ノ通知ナクシテ爲シタル親族會ノ決議ハ不合法ナルコト勿論ナレハ通知ヲ受クヘキ權利アリ

三四	三五	三五	三五	三五
七	九	九	九	九
二	一七	二七	一	一六

三	三	二	三
五	五	六九	三九
七	三	九	五

テ之ヲ受ケサリシ者ハ特別ノ事由アルコトヲ要セスシテ其決議ニ對シ  
不服ヲ訴フルコトヲ得ヘキハ當然ナリ

○親族會ノ無効ノ決議ニ對シテハ民法第九百五十一條ニ依リ決議無効ノ  
判決ヲ求ムルコトヲ得ヘキモ之カ取消ノ判決ヲ求ムルコトヲ得ス

○親族會ノ決議ノ取消ヲ求ムル訴ニ於テハ其決議ヲ取消スノ權能ヲ有ス  
ル者即チ親族會員全體ヲ以テ對手人ト爲スヘキモノニシテ單ニ取消請  
求者ト反對ノ意見ヲ有スル者ノミヲ對手人ト爲シ得ヘキモノニ非ス然  
レトモ或事情ニ因リ後日會員ノ資格ヲ喪失シタルモノアルカ又ハ會員  
ノ一部ヨリ他ノ會員ニ對シ右ノ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其資格喪失  
者若クハ自己ヲ以テ對手人ト爲スノ要ナシ

○親族會ノ決議ハ縱令法令ノ規定ニ違背スルモ當然無効ナルモノニ非ス  
シテ之ヲ無効トスルニハ必スヤ裁判所ノ宣言アルコトヲ要ス故ニ其決  
議無効ノ確認ヲ求ムル訴ハ不合法ナリ

○親族會ノ決議ニ對シテハ民法第九百五十一條ノ規定ニ從フニ非サレハ  
不服ヲ訴フルコトヲ得ス

○民法第九百五十一條ニ所謂親族會ノ決議ハ實質上無効ナルモノト取消  
シ得ヘキモノトヲ分タス苟モ親族會ノ爲シタル決議ハ總テ之ヲ包含セ

ルモノトス

○裁判所ニ於テ親族會ノ決議無効ノ裁判ヲ爲シタルトキハ其決議ノ元來  
無効ナルコトヲ確定スル效力ヲ生スルニ止マリ創設的ニ之ヲ無効ナラ  
シムルモノニ非ス

○親族會ノ決議ヲ無効トスル訴ニ於テハ其取消ヲ求ムル訴ニ於ケルト同  
シク特別ノ事由存セサル以上ハ親族會員全部ヲ對手人ト爲スヘキモノ  
ニシテ其決議ニ於テ過半数ヲ占メタル意見ヲ有スル者ノミヲ對手人ト  
爲シ得ヘキモノニ非ス

○不法ナル親族會ノ決議ノ取消ハ善意ノ第三者ニ對シテ其效力ヲ及ホサ  
ストノ規定アラサルニ因リ一旦決議ヲ取消シタル以上ハ其決議取消ノ  
判決アリタル前後ヲ問ハス又第三者ニ對スルト否トヲ論セス絶對ニ取  
消ノ效力アルモノトス

○家督相續人選定ノ親族會決議ニ對シテ不服ヲ申立ツル場合ニハ其選定  
家督相續人ハ缺格者ナルカ或ハ被相續人ノ請求ニ因リテ廢除セラレタ  
ル前推定家督相續人ナル事實ヲ以テ不服ノ理由ト爲シ又ハ民法第九百  
八十五條ニ違背セル事實ヲ以テ其理由トスルカ如ク必スヤ法律上ノ基  
本アルコトヲ要ス

三六

六四八

三六

八二二

三七

二五二

三七

九五

三七

一四七二

三七

一四七二

三六

三

三六

四七

三六

八六九

三六

一六四二

○親族會ノ決議ニ對シ一箇月ノ期間内ニ不服ノ訴アラサルトキハ其決議法律ニ違背スルモ效力確定スルヲ原則トス然レトモ其公ノ秩序ニ關スル規定ニ背反シ又ハ親族會ノ構成不適法ニシテ實質上決議ナキト均シキ場合ハ例外トス

(同三三三)

親族會ノ決議カ法定ノ期間經過ノ爲メ形式上確定シタル場合ト雖モ其内容ニシテ本來無効ナル以上ハ該決議ハ實質上ノ效力ヲ生スルコトナシ

○民法第九百五十一條ニ依ル親族會ノ決議ニ對スル不服ヲ理由アリトシテ裁判所カ其決議ノ效力ヲ喪失セシメントスル場合ニ於テハ之ヲ取消スト裁判スルモ將タ無効ナリト宣告スルモ其效力ニ差異アルコトナシ

○親族會招集ノ手續ニ違法アルカ爲メ其決議カ無効タルヘキ素質ヲ有スルモ初メヨリ無効ニ非サル場合ニ於テハ其取消ヲ請求スルモ違法ニ非ス

○民法第九百五十一條ニ依ル不服ノ訴ノ被告タルヘキ者ハ不服ヲ申立テラレタル決議ヲ爲シタル親族會員タルヘキコト勿論ナリ

○親族會カ法定ノ推定家督相續人アル場合ニ於テ家督相續人ヲ選定シ又ハ法定ノ後見人アル場合ニ於テ後見人ヲ選定シタルトキハ其決議ハ當

四一

五〇六

四〇

二四四

四

九七七

四

三三二

四

三三二

然無効ニシテ民法第九百五十一條ノ不服ノ訴ニ因リ宣告ヲ竣テ始メテ無効タルヘキモノニ非ス

○親族會カ形式上適法ニ選定招集セラレタル場合ト雖モ曩ニ適法ニ選定招集セラレタルモノアルトキハ後ノ選定招集決定ハ實質上無効ナルヲ以テ其決定ニ基キタル親族會ノ議決モ亦當然無効ナリトス

○親族會員中無資格者アリテ同會ニ參加シタルトキハ其構成不適法ナルヲ以テ此場合ニ於ケル決議ハ其無資格者ヲ親族會員トシテ選定シタル裁判カ取消サレタルト否ト又他ニ三名以上ノ有資格者カ參加シタルト否トヲ問ハス當然無効ニ歸スルモノトス

(同三三三)

會員中資格ナキ者ヲ以テ組織シタル親族會ノ決議ハ違法ノモノナリ

○法定父ハ指定ノ家督相續人ナク且其家ニ被相續人ノ父母アラサルヨリ親族會カ家督相續人ヲ選定シタルトキハ縱令其選定ノ決議カ相續順位ノ變更ニ關スル民法第九百八十三條ノ規定ニ違背スルモ不服ノ訴ヲ提起シテ取消ノ裁判ヲ受ケサル限ハ之ヲ無効ト爲スヲ得ス

○親族會ノ決議ハ縱令民法第九百四十八條第二項ノ手續ヲ履マサルモ當然無効ナルモノニ非ス

四二

四〇二

四

九二

四

一九四

三三

二四

四五

四三四

二

三五〇

(同主旨)

三名ノ親族會員中其一名ニ對シ適法ノ招集手續ヲ爲サスシテ他ノ二名ノミ招集セラレテ開キタル親族會ノ決議ハ不服ノ訴ニ因リテ無効ノ宣告ヲ受クヘキ素質ヲ具スレトモ當然無効ノモノニ非ス

(反對)

三名ノ親族會員中其一名ニ對シ親族會招集ノ通知ヲ爲サスシテ他ノ二名ノミニテ開キタル親族會ノ爲シタル決議ハ無効ナリ

(第九百五十二條)

『第九百五十二條』

○民法第九百五十二條ニ親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキトハ決議ノ絕對ニ不能ナル場合ノミニ限ラス親族會員五名中ノ一名カ缺席シ他ノ四名カ會議ヲ爲シタルモ意見ニ派ニ岐レ何レモ過半数ニ達セサルカ如キ場合ヲモ包含スルモノトス

(第九百五十三條)

『第九百五十三條』

○幼者保護ノ爲メニ開催シタル親族會ニ於テ其會員タル者幼者ノ利害ヲ顧ミサルカ又ハ不利益ヲ來スヘキ行爲ヲ敢テスルカ如キハ親族會員ノ職責ニ違背シタルモノトス而シテ其行爲ハ議題ニ賛同スル方法ヲ以テ之ヲ爲スト自ラ進ンテ行フト將タ法定代理人ト共謀シテ爲ストハ之ヲ問フノ要ナシ

第八章 扶養ノ義務

○民法ノ扶養ニ關スル規定ハ公益上ノ必要ヲ限度トシテ親族間相互ノ扶養義務ヲ定メタルモノナレハ當事者ノ任意ヲ以テ定メタル扶養ノ權利關係ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

○過去ニ於ケル養料ハ絕對的ニ請求シ得ヘカラサルモノニ非ス苟モ養料權利者ニ於テ扶養ヲ受ケサルヘカラサルノ状態ニ在ルコトヲ義務者ニ通知シ其義務ノ履行ヲ求メタルモ義務者カ其支拂ヲ遲滯シタル場合ニハ權利者ハ其相手方ノ遲滯ニ付セラレタル以後ノ養料ヲ請求シ得ルモノトス

(參照)

養育料ノ請求ヲ爲ス者ハ必スシモ先ツ別居生活ヲ裁判所ニ請求セサルヘカラサルモノニ非ス又之ヲ受クヘキ至當ノ理由アルトキハ戶主ノ家ニ同居セサルモ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

(第九百五十四條)

『第九百五十四條』

(參照)

既ニ私生子タルコトヲ認メシ事實ノ存スル以上ハ公式ノ手續ヲ爲ササルモ其子ヲ養育スルノ義務ヲ免ルルコト能ハス  
妻妾ニ非サル婦女ノ分娩シタル子ヲ男子カ己ノ子ナリト認メタルトキハ養育料ヲ支給スル義

民法 親族 扶養ノ義務

四一一

二六	二	二八九
二七	六	二七五
三五	六	二二三
三六	二	二八五
四一	四	二五六
四二	三	二八六

務アリ

(第九百五十九條)

『第九百五十九條』

○扶養ノ目的ハ生活ニ必要ナル需用ヲ自給スルコト能ハサル状態ニ在ル者ヲシテ其生活ノ資料ヲ得セシムルニ在ルヲ以テ此意義ニ適セサル請求ハ扶養ノ請求トシテ之ヲ爲スモ固ヨリ是認スヘキ限ニ在ラス

第五編 相續

第一章 家督相續

○民法施行以前ニ在テ所謂仲繼相續ハ實親子ノ相續ト同シク養嗣子カ家督ヲ相續シタル後死亡シ又ハ老年ニ至リ隱居スルニ及ヒテ先代ノ實子若クハ嫡孫カ養嗣子ニ繼テ其家督ヲ相續スルモノニシテ是レ則チ古來一般ノ習慣ナリトス

○民法施行前法定ノ推定家督相續人アル者カ一家維持ノ爲メ他ノ者ヲ以テ相續ヲ爲サシムヘキ必要アリトシ親族協議ノ上事由ヲ具シテ願出テタル場合ニ當該官吏カ其事由ヲ取調ヘ相當ナル推定家督相續人ナシトシテ許可ヲ與ヘタルトキハ之ニ因リテ爲シタル相續ハ慣例上復タ動カスヘカラサルモノトス

二九 四 七三

三四 九 一一

三五 一〇 一八九

四一 八五一

(參照)

刑法第四百十四條同第四百十五條ハ單ニ親族ノ範圍ヲ定メタルモノナレハ相續權ノ如キ民法上ニ於ケル身分ノ資格ヲ證スル場合ニ適用スヘキモノニ非ス  
相續ニ關シ親戚等カ協議ヲ爲スノ慣習又ハ相續届書ニ連署スヘキ法則ハ相續ニ付テノ要件ニ非ス故ニ此慣習又ハ法則ニ背戾スルモ既ニ爲シタル相續ヲ取消スニ足ルヘキ瑕疵ト爲ラス  
名義上ノ相續人即チ仲繼相續人ナルモノハ嫡子ノ存在スルニ拘ハラズ便宜上之ヲ設クルヲ得ヘキコトハ我邦慣習ノ認ムル所ナリ  
女戸主カ養子ヲ爲シタルトキト雖モ直ニ其養子ニ相續ヲ讓ラサルヘカラサルノ慣例ナシ

第一節 總則

(第九百六十六條)

『第九百六十六條』

○請求權ノ有無ハ起訴時ノ法則ニ依リテ定ムヘキモノナルカ故ニ民法施行以前ニ於テ未成年者ノ爲メニ起訴シタル親族ノ請求權ハ其訴訟ノ進行中ニ施行セラレタル民法ノ規定ニ依リテ消滅スヘキモノニ非ス

○民法施行前ニ於テ推定家督相續人アルニ關セス親族協議上ノ出願ニ因リ當該官吏カ他人ヲ以テ相續セシムルコトヲ許可シタルトキハ家督相續回復ノ訴ヲ提起スルヲ得サルモノトス

○民法第九百六十六條ニ於テ法定代理人カ家督相續回復ノ請求權ヲ行フトアル以上自己ノ權利ニ因リテ之ヲ行フニ非スシテ無能力者ヲ代表シ

二九 八 八

三〇 四 六七

三〇 八五 三二

三〇 八五 三二

三三 四 一〇五

三三 一〇 五三

テ之ヲ行フノ意義ニ解釋スルヲ以テ普通ノ意義ニ適スルモノトス

○子カ父ト共ニ分家ヲ爲シタル場合ニ於テ其手續ニ違法ノ點アルカ爲メ子ニ對シ分家ノ效ヲ生セサルトキハ戶籍簿上之ヲ取消スト否トヲ問ハス父カ親權者トシテ權利ヲ行使シタリトスルモ其所爲ハ子ノ權利ニ對シテ效力ヲ及ホスヘキモノニ非ス故ニ父ニ於テ其子ニ對スル相續權侵害ノ事實ヲ知ルモノノ相續回復請求ニ何等ノ影響アルコトナシ

○自己ニ家督相續權アルコトヲ主張シ他人ノ不法相續ヲ排除セントスルニハ必スヤ家督相續回復ノ訴ニ依ルヘキモノニシテ之ヲ請求スル權利ハ家督相續人ニ專屬スルモノトス

○家督相續回復請求ノ前提トシテ相續無効ノ確認ヲ請求スルハ法律ノ許ササル所ナリ

○民法第九百六十六條ノ規定ニ依ル家督相續回復請求權ノ時効ハ當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所ハ之ニ據リテ裁判ヲ爲シ得サルモノトス

○相續回復請求ニ關シテハ民法第九百六十六條及ヒ同第九百九十三條ニ特別時効ノ定アリ從テ相續回復請求者ト其相手方タル相續財產占有者トノ間ニ在リテハ民法第六十二條ノ適用ナキモノトス

三四	八	四五
三六	二	二二〇
三六	二	一六六二
三九	三	一六六二
四四	四	三三九
		四六八

○家督相續回復請求ノ訴ニ於テハ當ニ其請求ヲ爲ス者カ無能力ナル場合ニ其法定代理人代リテ之ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス其請求ヲ受クル者カ無能力ナル場合ニ於テモ其法定代理人之ニ代リテ應訴スルコトヲ得ルモノトス

第二節 家督相續人

○從來家督相續人タルヘキ者幼少ナル場合ニハ一家維持ノ必要上ヨリシテ親族協議ノ上相當ノ丁年者ヲ選ミ其筋ノ許可ヲ得テ家督相續人タラシムルハ士族平民ノ間ニ行ハレタリシ慣習ニシテ此場合ニハ相續ハ被相續人ノ死亡ト同時ニ開始スルモ其相續人ハ親族協議後マテ確定セス隨テ幼者ハ其遺産ノ所有權ヲ取得シ能ハサリシモノト看做ササルヘカラス

○父カ離縁ニ因リ子ノ懷胎後出生前母ト共ニ養家ヲ去リタル場合ニ在テハ子ハ懷胎當時ノ養家ニ入ルヘキモノニ非スシテ出生ノ時ニ於ケル父ノ家ニ入ルヘキモノトス故ニ爾後養家ノ家督相續開始スルモノハ法定ノ推定家督相續人トシテ相續又ハ代承相續ヲ爲スノ權ナシ

○明治ノ初年ニ於テハ法定ノ家督相續人カ被相續人死亡ノ當時幼少ナル爲メ其母ノ入夫ヲシテ仲繼相續ヲ爲サシムル場合ハ華士族ノ外其筋ノ

二	九五二
三五	一五〇
四〇	二〇六



許可ヲ要セサリシモノトス

○推定家督相續人タル資格ノ得喪ハ法律ノ定ムル所ニシテ契約ヲ以テ之ヲ變更スルヲ許ササレハ其變更ヲ内容トシタル約款ハ無効タルヲ免レスト雖モ之カ爲メニ養子縁組其モノヲ無効ト爲スヲ得ス

〔第九百六十八條〕

○民法實施前ニ於テ胎兒ハ相續ニ關シテハ既ニ生レタルモノト看做ストノ法文ナキハ勿論其慣習モ亦存在セルコトナシ

〔第九百六十九條〕

○法定ノ推定家督相續人ノ相續權ハ民法第九百六十九條第九百七十五條等ノ規定ニ於ケル場合ノ外ハ失却スヘキモノニ非ヌ又同第七百四十四條第一千二百條等ノ規定ニ於ケルカ如ク自己モ亦之ヲ辭シ若クハ拋棄スルコトヲ得サルモノトス

〔第九百七十條〕

○民法施行前ニ於テ養親カ相續權ヲ付與セサル意思ヲ以テ爲シタル養子縁組ト雖モ其養子ハ民法施行後ニ於テハ同法ノ規定ニ從ヒ相續權ヲ有スルコトヲ得ヘシ

○民法施行前ニ在リテハ養嗣子ト養子ト並存スル場合ニ於テ養親ノ相續

權ハ養子縁組ノ先後ヲ問ハスシテ養嗣子之ヲ有シタルモノトス

○民法實施以前ニ在リテハ先代死亡後親族協議ノ上將來幼年ノ女戸主ト結婚セシムルノ目的ヲ以テ男子ヲ迎ヘタルトキハ其縁女タルヘキ女戸主ハ直ニ戸主ノ地位ヲ退キ養子代リテ其家督ヲ相續スヘク而シテ一旦相續ヲ爲シ戸主ノ地位ヲ取得シタル以上ハ縱令其後ニ至リ縁女ト離婚スルモ之カ爲メニ其戸主權ヲ喪失スルコトナシ

○民法施行前法定ノ推定家督相續人タル長女ノ婿養子ト爲リタル者離縁シテ家ヲ去リ其婚姻中懷胎シタル子女未タ出生セサルトキハ其家ノ相續權ハ戸主ノ最近卑屬ナル長女ニ復歸シテ直ニ胎兒ニ移轉スルコトナシ故ニ戸主カ再ヒ婿養子ヲ迎ヘ其長女ニ配偶セシメタルトキハ其婿養子ハ養嗣子ト爲リ家督相續人タルノ身分ヲ取得スルモノトス

○民法施行前實子アル者カ明治九年太政官第五十八號達ニ依リ當該行政廳ノ許可ヲ經テ養子ヲ爲シタルトキハ其實子ハ相續權ヲ主張シ得サルモノトス

○民法實施前法定ノ推定家督相續人タル女子アル者カ婿養子ヲ爲シタル場合ニ於テハ其養子ハ推定家督相續人ト爲ルモノトス

(同法旨)

三六

六九五

三七

四一六

三八

八二九

三九

三六

四〇

一三七

四三

六三九

四五

五九七

四六

六三九

四七

一六八

四八

六九五

法定ノ家督相続人タル長女ノ婿養子ト爲リタル者ハ之ト同時ニ養家ノ家督相続人タル身分ヲ取得スルコトハ古來ノ習慣ニシテ民法ノ規定モ亦之ニ異ナルコトナシ

○民法施行以前ニ於テモ家督相続ノ順位ハ同親等ノ男子間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ其生レ乍ラ嫡出子タル者ト父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ト爲リタル者トノ間ニ在リテハ後者ハ其嫡出子タル身分ヲ取得セル時ニ生レタルモノト看做シテ前者ト長幼ノ序ヲ分ツヘキコトハ一般ノ法則トスル所ナリ

○民法施行前ニ於テハ長男戸主退隱シ其父逆相続ヲ爲シタルトキハ其長男ハ被相続人カ更ニ之ヲ嗣子ト爲スカ又ハ他ニ子女ナキ場合ノ外再ヒ相続ヲ爲スノ權利ヲ有セサリシモノナルモ如上ノ相続順位ハ民法ノ認メサル所ナレハ右ノ退隱者モ其施行後ハ同法第九百七十條ニ從ヒ第一順位ノ相続人トシテ相続權ヲ有スルモノトス

(參照)

本邦ノ習慣ニ於テ直系ノ專屬親ヲ相続セシムルハ戸主死亡シ相続者未定ノ場合ニ於テコソ適用スヘキモノナレ先戸主死亡ノ際其實子ヲ措キテ傍系親ナル妹ヲシテ相続セシメタルコト既ニ三十餘年ノ星霜ヲ經過シタル後ニ在テハ其習慣ヲ適用スルヲ得ス 戸主死亡セシトキ其嗣子相続ヲ爲サシテ傍系親其跡ヲ相続シタル後ニ出生シタル嗣子ノ實子ハ相続上何等ノ權利ナモ繼承スルコト能ハス

三五	四五	四一	七一
四五	四五	四一	七一
二七	二七	四一	七一
二七	二七	四一	七一
二七	二七	四一	七一
二七	二七	四一	七一
二七	二七	四一	七一
二七	二七	四一	七一

私生子モ相続權ヲ有スル場合ナキニ非スト雖モ既ニ他姓ヲ名乗リ戸籍上某ノ庶子ト編入セラレタル以上ハ某家現戸主ニ代リテ其權利ヲ取得スルヲ得ス 相続ハ男子ヲ先ニシテ女子ヲ後ニスルハ古來ノ慣例ナレトモ當然相続スヘキ專屬親ナキ時ハ親族協議ノ上其家ニ適當スル女子ヲ選定スルモ亦慣例ノ許ス所ナリ 甲者籍ヲ其生家ニ有シ且其家ヲ相続スヘキ權利アリト決スル上ハ縱令一時離縁ト爲リシ父ノ實家ニ養育セラレルモ爲メニ相続權ヲ失却スヘキモノニ非サレハ原裁判カ此等ノ陳述ニ對シ説明ヲ與ヘサルモ不當ニ非ス

養嗣子ハ所謂法定ノ家督相続人ナリト雖モ養子ニ至リテハ其嗣子タルト否トハ事實ノ如何ニ由ルヘクシテ法律上必スシモ嗣子ト推定スヘキモノニ非ス隨テ二名以上アル場合ニ單ニ先位ノ養子タリトテ必ス家督相続ノ權アリト論斷スルヲ得サルナリ 相続權カ總領ノ男子ニ屬スルコトハ我國古來ノ不文法ナリト雖モ總領ノ男子カ一旦戸主タリシモ一家整理ノ不能ナルカ爲メ終身退隱セシ以上ハ長子タルノ故ヲ以テ他ニ相続スヘキ者アルニ拘ハラズ當然再相続ヲ爲シ戸主ノ地位ニ復歸スルカ如キハ未タ我國ノ慣習ニ於テ認ムル所ニ非サルナリ 養子タル身分ヲ得テ始メテ取得スヘキ相続權ノ如キハ養子縁組ノ效力生セサルトキハ之ヲ取得スルヲ得ス 一家ニ於テ先代ノ長女ト養子タル男子存在シ互ニ相続權ヲ争フトキハ養子ニ於テ長女ヲ措キ先ツ自己ニ相続權ヲ得タル確證ヲ舉グルノ責任アリ 戸籍上縁女ト記載アルモ實際其家ノ養女ナル上ハ戸主死亡シ他ニ其死跡ヲ相続スヘキ近親ナキトキ養女ニ於テ之ヲ相続スルヲ當然ノ順序ナリトス

二九	二六	二六	二六	二七	二七	二七	二七
三	三	二	二	二七	二七	二七	二七
五	一四七	一四	四四三	四七五	四三〇	二二七	一八

養嗣子アル場合ニ於テ家政ノ便宜上養母カ中繼相續ノ權アルヤ否ハ事實ニ非スシテ法律上ノ問題ナリ

養嗣子カ先代ノ相續ヲ爲スヘキハ普通ノ法則ナリ

養母カ養嗣子ニ先タチ先代ノ相續ヲ爲スハ變例ノ處分ナリ

養子ハ養嗣子ニ非サル以上ハ唯先位ニアルカ爲メ必スシモ家督相續權ヲ有スルモノニ非ス

庶出ノ男子ニ先タチ嫡出ノ女子ヲシテ家督ヲ相續セシムルハ本邦ノ慣例ナリ

實子ハ男女ナク問ハス法定ノ推定家督相續人ト爲シ從テ實子アル戸主ノ養子ハ其婚養子タル場

合又ハ正當ノ事由ニ因リ實子ヲ廢嫡シタル場合ノ外法定ノ推定家督相續人ト爲ササルヲ以テ

本邦ノ慣習トス

戸主カ其實女子ノ「言ヒ名ツケ」ト稱シ他ノ男子ヲ養子ト爲シ之ヲ婿養子ト呼ヒ其女子ヲ縁女

ト稱スルモ未ダ婚姻セサル間ハ養子ハ法定ノ推定家督相續人ト爲リ實女子ハ法定ノ推定家督

相續人タル地位ヲ失フタルモノト云フヲ得ス

養嗣子ニ非サル養子又ハ養女ハ當然相續權ヲ有スルモノニ非スト雖モ事實ノ如何ニ因リ其相

續權ノ有無ヲ判斷スルハ事實裁判官ノ職權ニ屬ス

實娘ノ婿養子タル者ハ當然相續權ヲ有ス

他家ニ入りテ當然法定ノ推定家督相續人タラントスルニハ其家ノ戸主ノ養嗣子タルカ又ハ其

家ノ法定ノ推定家督相續人タルヘキ女子ト結婚シ婿養子タル身分ヲ取得セサルヘカラス

家督相續權ハ戸主ノ最近卑屬親ナル其子ニ屬スヘク直ニ其孫ニ屬スヘキモノニ非ス故ニ長女

ノ婿養子カ離縁ト爲リテ其家ヲ去リタルトキハ縱令其婚姻中ニ生マレタル子女アリト雖モ家

督相續權ハ其配偶者ニ復歸シテ其子女ニ移轉セス

二九	三三	三三	三三	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九

〔第九百七十二條〕

○民法第七百三十七條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬カ果シテ戸主ノ家督相續人ト爲ルヤ否ヤハ相續開始ノ時ニ在ラサレハ確定セサルモノトス

〔第九百七十三條〕

○民法第九百七十二條ハ同第七百三十七條ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬カ其家族ト爲リタル爲メ直ニ第九百七十條所定ノ順序ニ從ヒ家督相續人ト爲ルコトヲ得ヘキ場合ニ關スル規定ニシテ家族ト爲ルモ法定ノ順序ニ據リテ家督相續人タルコトヲ得サル者ニ關スル規定ニ非ス

〔第九百七十三條〕

○相續權ノ有無ヲ定ムルハ相續開始ノ時ヲ標準トスルモノナルヲ以テ縱令男子ノ出生カ婿養子縁組後ナリトスルモ其當時ニ於テ既ニ男子ノ出生アリタル以上ハ民法第九百七十三條ヲ適用シ右男子ヲ以テ推定家督相續人ナリト認メタルハ相當ナリトス

三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二

○法定ノ家督相續人カ家督相續開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ法定ノ順序ニ從ヒ其者ト同順位ニテ家督相續人ト爲ルコトハ嫡孫承祖ト稱シ古來ヨリ行ハレタル習慣ニシテ現行民法モ此習慣ヲ認メ其第九百七十四條ニ於テ明ニ之ヲ規定セリ

○民法施行前ニ於テ推定家督相續人カ子女ヲ遺シテ死亡シタルトキハ其子女ハ嫡孫承祖ノ慣習法ニ從ヒ直ニ祖父母ノ推定家督相續人タル資格ヲ有セシカ故ニ嫡孫ヲ排シ他人ヲ以テ相續セシムルニハ廢嫡ノ手續ヲ要セシト雖モ祖母カ子ノ死跡相續ヲ爲シタルトキハ所謂嫡孫承祖ノ法則ヲ適用スヘキ場合ニ非サレハ縱令嫡孫アルモ養子ヲシテ相續セシムルヲ得ルモノトス

○嫡子相續又ハ嫡孫承祖ノ相續ハ我邦古來普通ノ慣例ナリト雖モ明治五年戶籍法改正施行以前ニ在リテハ士族以上ハ格別平民ニ至テハ一家維持上其他ノ事由ニ因リ嫡子又ハ嫡孫ヲ差措キ他ノ卑族親等ヲ以テ家督相續人ト爲シ又ハ家督相續ヲ爲サシムルカ如キハ一ニ被相續人ノ自由ニ在リテ親族ノ協議若クハ官廳ノ許可ヲ必要トスルカ如キ法度又ハ慣

三五

四

一四九

三六

三

行アルコトナシ

○明治以前ノ制度ニ於テモ嫡孫承祖ノ法則存在セサリシニ非スト雖モ戶主ニ數人ノ子アリテ長子カ相當ノ手續ヲ經テ廢嫡セラレ二三男カ家督相續人ト爲リタル場合ニ於テハ其廢嫡セラレタル長子ノ子カ當然新戶主ノ家督相續人ト爲ルカ如キ慣習法存在シタルコトナシ

○民法施行前實行セラレタル嫡孫承祖ノ慣習法ハ法定ノ推定家督相續人カ直系卑屬ヲ遺シテ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ相續權ヲ失ヒタル場合ニ其直系卑屬ヲシテ之ト同一ノ順位ニ於テ家督相續人タラシムルコトヲ定メタルモノナレハ法定ノ推定家督相續人タル資格ヲ取得セスシテ死亡シタル者ノ子孫ハ此法則ニ依リ承祖相續ヲ爲シ得サルモノトス

○嫡孫承祖ノ慣習法ハ直系卑屬アル家督相續人カ其相續權ヲ喪失シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ承祖權ノ發生ハ相續權ノ喪失ト同時タルコトヲ要ス從テ其喪失ノ當時直系卑屬生存セサル場合ニハ權利ノ主體ナケレハ縱令其主體タルヲ得ヘカリシ者後日出生シタリトテ其者ノ爲メニ權利發生スルコトナシ

○推定家督相續人カ家督相續ノ開始前廢嫡セラレタル場合ト雖モ其子カ

三六

二七二

三六

四六八

三七

一三四三

三八

二一〇

養子縁組ニ因リ他家ニ在ルトキハ民法第九百七十四條ニ依リテ家督相續人ト爲ルコトヲ得ス故ニ爾後離縁復籍シタリトテ代位相續人タル身分ヲ回復スルノ理ナシ

第九百七十五條

○廢嫡ヲ爲スニハ被廢嫡者ノ承諾ヲ要スヘキモノニ非ス

○民法施行前ニ於テモ廢嫡手續ヲ了セスシテ分家シタルトキ分家者ハ當然家督相續權ヲ喪失スルモノト云フヲ得ス

○法定ノ推定家督相續人ヲ分家セシムルニハ先ツ廢嫡ノ手續ヲ爲スカ又ハ遅クトモ分家ト同時ニ其手續ヲ爲ササルヘカラス

○廢嫡ノ手續ヲ了シタルヤ否ヤハ單ニ分家シタリトノ事實ノミニ依リ之ヲ推定スルヲ得ス

○法定ノ推定家督相續人ノ相續權ハ民法第九百六十九條第九百七十五條等ノ規定ニ於ケル場合ノ外ハ失却スヘキモノニ非ス又同第七百四十四條第一千二百條等ノ規定ニ於ケルカ如ク自己モ亦之ヲ辭シ若クハ拋棄スルコトヲ得サルモノトス

○民法施行前ニ於テ被相續人タルヘキ者カ推定家督相續人タル嫡子又ハ嫡孫ノ廢嫡ヲ出願シタル場合ニ當該官廳カ之ヲ聞届ケ爾後該出願者ノ

四二四

三三

三五

三五

三五

三五

六二四

一六三

二一

四一

四九

四九

一六

相續人ト爲リタル者アルトキハ被廢嫡者ハ其相續人ニ對シテ家督相續回復ノ請求ヲ爲シ得サルモノトス

三六

二〇八

○民法施行前ニ於テ嫡子及ヒ嫡孫ノ廢嫡ヲ爲ス正當ノ事由アリトスル場合ニハ被相續人タルヘキ者ハ同時ニ其廢嫡ヲ出願シ得タルモノトス

三六

二〇八

○分家ト廢嫡トハ法律上其關係ヲ異ニスト雖モ民法實施前ニ於テハ廢嫡ノ事由ヲ限定シタル法則ナキノミナラス嫡子ヲ廢嫡スル事由ノ存スル場合ニ嫡子カ嫡孫ト共ニ分家セント欲スル情願ヲ以テ嫡孫ヲ嫡子ト共ニ廢嫡スル正當ノ事由ト認ムルモ敢テ當時ノ法則ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

三六

二〇八

○民法實施以前ニ於テ當該官吏カ當時ノ法規ニ遵ヒ審査ヲ遂ケ相當ト認メタル上廢嫡願ヲ許可シタルトキハ其廢嫡ハ確定ノ效力ヲ生シ法規ノ許ス場合ニ在ラサレハ後日ニ至リテ之ヲ變改シ得サルモノトス

三七

五三

○民法施行前ト雖モ法定ノ推定家督相續人タル嫡子又ハ嫡孫カ一タヒ廢除セラレタル以上ハ更ニ其取消アルニ非サレハ同一被相續人ノ推定家督相續人ト爲ルコトヲ得ス

三九

五三

○民法施行前ニ在テハ廢嫡ハ當該官廳カ其願ヲ許可シタルトキニ於テ効力ヲ生シ之ヲ戶籍ニ登記シタルト否トハ其效力ニ影響ナシ隨テ其登記

カ法定ノ方式ニ違フ所アルモ爲メニ許可ヲ得タル廢嫡ヲ無効トスヘキモノニ非ス

(參照)

嗣子ノ更改ハ古來ノ慣習上適法ノ事故ナクハ之ヲ許サス  
戸主カ一家ノ維持上必要ヲ感シ又親戚最多數ノ贊同アルモ嗣子更改ノ適法ノ理由ト爲ラス

〔第九百七十七條〕

○民法第九百七十七條ハ相続人ヲ廢除シタル原因カ後日ニ至リテ消滅シタル場合ニ限り廢除ノ取消ヲ許シタルモノトス故ニ廢除ノ原因ト爲リタルモノカ全ク虛偽ノ事實ニシテ當初ヨリ存在セザリシ場合ニ於テハ廢除ノ取消ヲ許サス

○民法施行前被相続人カ推定家督相続人ノ身體虛弱ナル故ヲ以テ之ヲ廢嫡シ分家セシメタル場合ト雖モ爾後被廢嫡者カ廢家シテ被相続人ノ家ニ復歸シ且其身體健全ニ復シタル以上ハ民法第九百七十七條第一項ニ依リ廢嫡取消ノ請求ヲ爲スコトヲ得

〔第九百七十九條〕

○民法實施以前推定家督相続人ナキ被相続人カ豫メ家督相続人ヲ指定シテ戸籍ニ登記シタル場合ニ於テハ其相続人ハ縱令養嗣子ノ名稱ナキモ

法律上養嗣子ト同一ノ取扱ヲ受ケ被相続人ノ死亡又ハ隱居ノ時ニ際シ家督ヲ相続スルノ權利ヲ有ス從テ爾後被相続人カ更ニ他人ヲ養子ト爲スモ之カ爲メニ其相続權ヲ奪ハルルコトナシ  
○被相続人タル戸主カ家督相続人ヲ指定スルノ權ハ其性質上被相続人自ラ之ヲ行使スヘキモノトス故ニ被相続人カ他人ヲシテ家督相続人ヲ選定セシムル遺言ヲ爲スハ不法ナリ

(參照)

遺言ニ依リ相続人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ一般ニ無効ナリト云フヲ得ス  
家督相続ノ順位ハ直系ノ卑屬親アル場合ハ格別其他ノ場合ニ於テハ被相続人カ遺言ヲ以テ相続人ヲ指定シタルトキハ其遺言ニ由ルヘキハ當然ニシテ且習慣ニ反スルモノニ非ス  
遺言ヲ以テ相続人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ有效ナリ而シテ其受任者カ選定ヲ爲スニ付テハ他ノ親族ノ承諾ヲ要スヘキモノニ非ス又其受任者ハ之ヲ親族中ニ求ムルノ要ナシ

〔第九百八十二條〕

○戸主ノ兄弟若クハ姉妹ハ戸主ニ直系卑屬ナキ場合ト雖モ當然其相続人タル權利ヲ有スル者ニ非スシテ其親族ノ協議ニ因リテ相続人ト爲ルヲ得ルコトハ民法施行前ニ於ケル我國一般ノ慣例ニシテ此慣例ハ當時法律トシテ行ハルヘキモノナリ

○被相続人カ遺言證書ヲ以テ家督相続人ヲ指定シタルモ檢認ノ結果其遺

四  
二六  
二  
二  
三  
三

三七  
五三

四  
八九〇

三七  
四二

四  
五〇八

三〇  
七  
九

三〇  
九  
六七

三〇  
二  
四〇

三五  
六  
二七

言無効ニ歸スルトキハ指定ヲ受ケタル者カ既ニ家督相續ノ登記ヲ爲シタルト否トヲ論セス被相續人ノ親族ハ家督相續人選定ノ爲メ親族會ノ招集ヲ請求スル權利アリ

○民法第九百八十二條ニ掲ケラレタル者ハ選定ヲ受クル以前ニ在テハ家督相續人ニ非サルヲ以テ相續權回復ノ請求權ヲ有セス

○家督相續人ヲ選定セル親族會ノ招集決定カ非訟事件手續法第十九條第一項ニ依リ取消サレタル場合ニ於テ他ニ親族會ノ決議ニ代ルヘキ裁判ニ因リ家督相續人ニ選定セラレタル者アルトキハ前者ノ相續人タル資格ハ招集決定ノ取消ト同時ニ當然消滅スルモノトス

○法定又ハ指定ノ家督相續人ナク且其家ニ被相續人ノ父母アラサルヨリ親族會カ家督相續人ヲ選定シタルトキハ縱令其選定ノ決議カ相續順位ノ變更ニ關スル民法第九百八十三條ノ規定ニ違背スルモ不服ノ訴ヲ提起シテ取消ノ裁判ヲ受ケサル限ハ之ヲ無効ト爲スヲ得ス

(同主旨)

法定又ハ指定ノ家督相續人ナキカ爲メ適法ニ招集セラレタル親族會カ民法第九百八十二條ノ規定ニ則リ既ニ家督相續人ヲ選定シタル以上ハ縱令其決議上相續順序ノ變更ニ關シテ遵守スヘキ民法第九百八十三條ノ規定ニ違背セシ點アリトスルモ該決議ニ對スル不服ノ訴ヲ提起シ之カ取消ノ裁判ヲ受ケサル限ハ其選定ヲ當然無効ト爲スヲ得ス

三六	四五	四〇	四〇	三六
三九二	四三四	二四四	九三	一七五

(參照)

分家ノ戸主死亡シ其家ニ相續人ナク獨リ遺妻ノ存スルトキハ遺妻ニ於テ其家ヲ相續スヘキモノトス  
單身戸主死亡シ家督相續人ナキ場合ニ於テハ其親族ノ協議ニ依リ之ヲ選定スルヲ以テ我邦ノ慣習トス

婚姻ニ依リ他家ニ入りタル者カ其後婚家ヨリ分レテ一家ノ戸主ト爲リ死亡シタルトキハ本家筋ノ親族及ヒ其實方親族ノ協議ニ依リ相續人ヲ選定スヘキモノトス  
戸主死亡シ家族中他ニ相續人ナキトキハ戸主ノ遺妻ニ於テ相續スルノ權利アリ而シテ遺妻カ其相續ヲ拋棄シタルトキ始メテ親族會ノ議決ニ依リ他家ヨリ相續人ヲ選定スルコトヲ得ルハ本邦慣習ノ認ムル所ナリ

(第九百八十三條)

『第九百八十三條』

○法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テハ被相續人ノ父母又ハ親族會ハ民法第九百八十二條規定ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定スヘク若シ其家族中ノ者ニシテ相續人ト爲ルコトヲ欲セス豫メ相續人ニ選定セラルルコトヲ辭スル者アルトキト雖モ苟モ右規定ノ順序ヲ變更シ又ハ全ク選定ヲ爲サザラントスルトキハ必ス先ツ裁判所ノ許可ヲ得サルヘカラス

○民法第九百八十三條ニ於テ前條所定ノ相續順位ノ變更若クハ不選定ノ

三	三	三〇	三〇	二六
四	一	六	六	二
二二七	三	六	六	九

決議ハ裁判所ノ許可ヲ得タル後ニ之ヲ爲スヘキ旨ヲ規定セルハ單ニ普通ノ決議順序ヲ示シタルニ外ナラサレハ苟モ相續順位ノ變更若クハ不選定ノ決議ニシテ裁判所ノ許可ヲ受ケタル以上ハ其許可申請ノ手續ト時期トニ付キ多少同條ノ規定ニ異ナル所アリトスルモ之カ爲メニ該決議ハ直ニ無効ト爲ルヘキモノニ非ス

第九百八十五條

○民法第九百八十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テハ親族會ハ父系母系ヲ論セス同條項ニ明記セラレタル者ノ中ニ就テ相續人ヲ選定シ得ヘキモノトス

○民法第九百八十五條第一項ニ該當スル場合ニ於ケル相續人選定ノ親族會ノ決議ハ同規定及ヒ民法第九百四十七條ニ背戾セサル限ハ縱令其選定ヲ適當ナラストスルモ之ヲ以テ該決議ニ對シ不服ヲ唱フルノ理由ト爲スヲ得ス

○親族會カ民法第九百八十五條ノ規定ニ依リ家督相續人ヲ選定スヘキ場合ニ於テハ同條ニ掲ケタル者ノ中ヨリ其適當ナリト思惟スル者ヲ以テ相續人ニ選定スルノ專權ヲ有ス從テ其選定シタル家督相續人ノ適當ナルヤ否ヤノ事實ニ付テハ裁判所ノ干涉スヘキ限ニ在ラス

三	五
三六	二三五
三七	五
三六	二三五
三七	五

第三節 家督相續ノ效力

○相續人カ前戸主ノ行爲ニ付キ責任ヲ負フヘキ場合ハ其相續以前ニ係ルモノニ止マリ其以後ニ於ケル行爲ニ付テハ責任ナシトス  
○先代カ隱居後ニ受ケタル裁判ノ效力ハ其相續人ニ及ハサルモノトス  
○隱居者カ隱居後ニ爲シタル法律行爲ハ其家督相續人ニ對シテ效力ヲ及ボササルコトハ一般ニ認メラレタル慣習法ナリ

第九百八十六條

○相續人ハ相續ノ開始ト同時ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルハ勿論縱令相續開始ノ事實ヲ知ラサル場合ト雖モ被相續人カ死亡ノ時ニ於テ所持シタル物件ノ占有ハ法律上當然之ヲ承繼スルモノトス

○株式會社設立費用ノ清算事務ハ創立委員其人ニ專屬スヘキ責任ナリトス從テ創立委員ノ相續人ニ對シ其清算ヲ請求スルハ失當ナリ  
○登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ハ其權利者若クハ義務者ノ地位ニ代リテ權利義務ヲ承繼スルモノトス從テ登記名義人ノ相續人ハ登記ノ抹消ニ付テモ亦法律上自己ノ先人ト同一ノ義務ヲ負フモノナリ  
○相續ハ被相續人ノ人格ヲ承繼シ法律上被相續人ト同一視スヘキモノナレハ被相續人ノ權利取得ニ關スル權原ノ瑕疵ハ相續ニ因リ當然相續人

第九百八十六條

三	二	一〇四
三三	二	一〇四
三三	二	一〇四
三元	一五四五	
三元	四七二	
四二	八七	



之ヲ承繼シ被相續人カ權利ヲ取得スヘキ正當ノ權限ヲ有セサルモノニ付テハ相續人モ亦同一ノ狀態ニ於テ之ヲ承繼スルモノトス

元

七九

○旅客運送契約ニ於ケル債務ノ不履行ニ因リテ生シタル損害賠償請求權ハ被害者ノ一身ニ專屬セルモノニ非サルヲ以テ民法第九百八十六條ニ依リ相續ニ因ル承繼ノ目的タルコトヲ得ルモノトス

二

九二〇

○旅客運送契約ニ因ル運送人ノ債務不履行ノ結果身體ノ傷害ニ因リ精神上ノ苦痛ヲ蒙リタル場合ニ於ケル慰藉金請求權ハ被害者ノ一身ニ專屬セルモノナルヲ以テ相手方ニ對シ請求ノ意思ヲ表示シ其請求權カ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ト爲ルニ非サレハ相續人ハ相續ニ因リテ之ヲ承繼スルコトヲ得ス

二

九一〇

(同主旨)

不法行為ニ因リ身體ヲ害セラレタル者カ財產以外ノ損害ヲ填補セシムル爲メ加害者ニ對シ慰藉料ヲ請求スル意思ヲ表示シタルトキハ其請求權ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ外ナラスシテ之ニ因リテ得ル金額ハ相續ノ場合ニハ相續人ノ取得スヘキモノナルハ被害者ノ一身ニ專屬スルモノニ非ス

四

六二

○民法及ヒ舊登記法施行以前ニ在リテハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ前戶主ノ留保セサル公證記名ノ財產ハ必ス讓渡ノ公證ヲ受クヘキモノナレトモ留保シタル財產ニ付テハ新ニ公證ヲ受クルコトヲ要セサリ

シモノトス從テ家督相續人ハ記名財產ニシテ讓渡ノ公證ヲ經サリシモノ迄一切ノ財產ヲ承繼スルモノニ非ス

二

九六二

○公證ヲ經サル財產ニシテ前戶主カ留保シタルニ非サル相續財產ニ付キ實際相續人ノ承繼シタルモノナルモ唯公證ノ手續ヲ盡ササリシニ過キサルコトヲ主張センニハ其主張ヲ爲ス者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス

二

九六二

(同主旨)

舊登記法實施以前ニ於テハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニハ相續財產ハ必ス讓渡ノ公證ヲ受クヘキモノタリ從テ相續人ハ前戶主ノ權利義務ヲ承繼スルモ公證記名ノ財產ニシテ讓渡ノ公證ヲ受ケサリシモノ迄モ一切之ヲ相續スルノ慣例ニ非ス故ニ其公證ヲ經サル財產ニシテ實際相續人ノ承繼シタルモ唯公證ノ手續ヲ盡ササリシニ過キスト主張スルトキハ其主張ヲ爲ス者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス

三

五四八

○舊登記法施行以前ノ隱居ニ因ル相續ノ場合ニ相續人カ不動産ノ承繼ニ付キ特ニ讓渡ノ公證ヲ受クヘキモノト爲シタルハ相續開始ノ外尙ホ讓渡ノ公證ヲ以テ權利取得ノ要件ト爲シタルモノニ非ス

二

九六二

○前戶主ノ留保セサル公證記名ノ財產ハ必ス讓渡ノ公證ヲ要シ否ラサル財產ハ公證ヲ要セストノ慣例ハ家督相續人カ相續開始ノ當時未成年者ナリシト否トヲ問ハス行ハレタルモノトス

二

九六二

(參照)

原院カ某者ヲ以テ相続ノ權アルモノト認定シタル以上ハ某者ハ縱令成規ノ手續(官廳ヘノ届出)ヲ經テ相続ヲ爲ササルモ其家ノ財産ニ付キ權義ノ關係ヲ有スルコト論ヲ俟タス  
 相続人ハ特別ノ事情ナキ限ハ前戸主ノ有セル一切ノ權義ヲ繼承スヘキモノナレハ死亡者カ其財産ヲ他人ニ遺贈シ又ハ退隱者カ之ヲ持續シタル等ノ事蹟存セサル限ハ前戸主ノ財産ハ當然相続人ニ歸スルヲ以テ一般ノ通義トス  
 戸主退隱スルトキハ一切ノ權利義務ハ家名ト共ニ跡相続人ニ移轉スルヲ以テ普通ノ慣例ト爲ス

(第九百八十八條)

『第九百八十八條』

○戸主カ隱居ヲ爲ス場合ニ於テ特ニ其財産ノ一部ヲ留保シテ依然自己ノ所有ト爲シ得ルハ本邦ノ慣例ナリ

(同主旨)

戸主カ隱居ヲ爲ス場合ニ於テ特ニ不動産ノ一部ヲ留保シテ依然自己ノ所有ト爲シ得ルハ民間ノ慣行ニシテ裁判例ニ於テモ之ヲ是認ス

- 戸主カ隱居ヲ爲スニ當リ其財産ノ幾部ヲ相続人ニ移サスシテ之ヲ自己ニ留保セントスルニハ特ニ其意思表示アルコトヲ要ス
- 前戸主ニ於テ特ニ財産ヲ留保セサル以上ハ家督相続ニ依リテ前戸主ノ有セシ財産ハ總テ相続人ニ歸屬スヘキモノニシテ所有名義ヲ更正セサルモ之カ爲メ前戸主ノ留保セルモノト謂フヲ得ス

三七	三〇	三〇	三三	三三	三三
四七五	五	一〇	二	二	二
一七	一七	六	九	四二	九

○民法實施以前ニ於テ戸主カ隱居スルニ方リ其財産特ニ不動産ノ幾分ヲ相続人ニ讓與セスシテ之ヲ留保スルニハ其所有名義ヲ改メス且相続人ニ對シ留保ノ意思ヲ表示スレハ足ル而シテ其意思表示ニハ一定ノ形式アルコトナク又更ニ讓受ノ手續ヲ要セサリシモノトス

○家督相続ノ開始シタル場合ニ於テ前戸主即チ隱居者又ハ女戸主カ特ニ法定ノ方式ニ依リ其財産ノ一部ヲ留保セサル限ハ一切ノ財産所有權ハ當然相続人ニ移轉スルモノトス

○民法施行以前ニ在テモ隱居ニ因ル家督相続ノ場合ニ於テハ家督相続人ハ隱居者ノ有セシ一切ノ財産ヲ承繼スルヲ以テ通則トシ唯隱居者カ隱居料トシテ其財産ノ一部ヲ留保スルコトハ之ヲ認許シタルモ其全部ヲ舉ケテ留保スルカ如キハ慣例ノ許容セサル所ナリ

○民法施行前ニ在リテハ隱居者ノ財産留保ニ付キ別段ノ方式ヲ必要ト爲ササリシヲ以テ隱居者カ隱居ノ當時或財産ヲ留保スル意思ヲ表示スル以上ハ其表示ノ明示タルト默示タルトヲ問ハス財産留保ノ效力ヲ生スルモノトス

(同主旨)

隱居而留保ノ意思ハ民法實施前ニ在テハ必ス之ヲ明示スルヲ要セス暗黙ニ之ヲ表示シタル事

三七	三六	四〇	四四
一〇四一	一七三六	七〇五	三七二

實アルトキハ意思表示トシテ十分ナリトス  
民法實施以前ニ於テ隱居者カ其相續人ニ財產ノ全部ヲ讓與スルコトナク其幾分チ自己ノ財產トシテ留保スルニハ必スシモ明確ニ其意思ヲ表示スルヲ要セス暗黙ニ留保ノ意思ヲ表示スルヲ以テ足ル

○民法施行前ニ在リテモ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ隱居者カ相續財產ヲ留保スルニ當リ家名ノ維持ニ必要ナル財產ヲ遺留セサルトキハ隱居者ノ留保ハ全部無効ト爲ルモノニ非スシテ家名維持ニ必要ナルヲ限度トシ家督相續人ノ滅殺請求權ニ服セシメタルニ過キサルモノトス  
○公證記名ノ財產ニシテ相續人ニ讓渡ノ公證ヲ經サルモノハ隱居者タル前戸主ニ於テ留保ノ意思ヲ默示シタルモノト推定スヘキハ相續財產ノ全部タルト一部タルトニ依リテ差異ヲ生スヘキモノニ非ス  
○讓渡ノ公證ヲ經サル記名財產ヲ相續人ニ移轉セシメスシテ隱居者ノ留保シタルモノト爲シタル慣例ハ唯リ第三者ニ對スル關係ノミナラス隱居者ト相續人間ノ關係ニ於テモ行ハレタルモノトス

(參照)

家族ト雖モ記名ノ財產ヲ所有スルコトハ法律ノ許ス所ナリ乃チ戸主カ其相續人タルヘキ者ニ家督ヲ讓リテ隱居ヲ爲スニ當リ不動産ノ全部又ハ一部ニ付キ名義ヲ改メスシテ其所有ヲ留保シタルトキハ家族タル隱居ハ其記名財產ノ所有者ト云ハサルヘカラス家督相續人ハ其家ノ財

三五	四	一〇九
三五	五	六
四	七四五	
二	九六二	
二	九六二	

(第九百八十九條)

產ヲ相續スルノ權利ヲ有スルコト論テ竣タスト雖モ隱居ノ所有スル財產ハ其家ノ財產即チ戸主ノ財產ト云フヘカラス

『第九百八十九條』

○民法施行前ニ於テモ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニハ前戸主ノ債權者ハ現戸主ニ對シ其辨濟ノ請求ヲ爲シ得ルノミナラス前戸主ニ對シテモ亦其辨濟ノ請求ヲ爲シ又ハ其退隱前之ニ對シテ既ニ爲シタル辨濟ノ請求ヲ持續シ得タルモノトス

○民法第九百八十九條第一項ハ戸主ノ負擔セル債務ハ隱居後ト雖モ現戸主ノ外隱居者ニ對シテ尙ホ存續シ債權者ニ於テ其辨濟ヲ請求シ得ヘキコトヲ規定シタルニ止マリ隱居者ヲシテ新ニ辨濟ヲ爲スヘキ債務ヲ負擔セシムルノ旨趣ニ非ス

(參照)

債務ヲ負ヒシ後退隱シテ戸籍ヲ移動スルモ依然其地ニ在テ從前ノ業務ニ從事スルトキハ爲メニ辨償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス  
戸主カ前戸主ノ債務ノ爲メニ家資分散ノ處分ヲ受ケ其債務ヲ盡了シ能ハサル場合ニ於テ債權者ハ其保證人ヲ措キ前戸主ニ係リ復更ニ之カ償還ヲ求ムヘキモノニ非ス  
金員ノ預リ主カ我家ノ財產ヲ長男ニ讓渡シ隱居シタルモ預リ主タルノ義務ヲ免ルヘキモノニ非ス

二六	四二〇
三七	五五四
四〇	二七九
二五	八四
二五	一一三
二八	五五

貸借ノ當時甲者ニ於テ既ニ乙者ノ乙家ヲ退隱スヘキ事情ヲ知悉シ特ニ乙者其人ヲ信用シ其隱居財産ヨリ辨濟ヲ受クヘキ意思ヲ以テ貸與シタル上ハ退隱後乙者ノ死亡シタルト否トニ論ナク其本家ノ相続人タル者ニ此債務ヲ負擔セシムヘキ條理ナシ

戸主中ノ債務ハ其家ヲ去リ他家ノ戸主ト爲リタル後ニ於テモ負債者ニ於テ之ヲ辨濟スヘキモノトス

一旦戸主トシテ負擔シタル義務ハ爾後戸主ノ身分ヲ脫退スルモ當然其義務ノ免脱ヲ得ヘカラス

戸主中ノ債務ニ付テハ隱居後ト雖モ尙ホ責任アリ

### 第一章 遺産相続

#### 第一節 總則

(第九百九十二條)

#### 『第九百九十二條』

○遺産相続ハ被相続人ノ遺留シタル財産ノ有無ヲ問ハス其死亡ニ因リテ當然開始スルモノナリ

(第九百九十三條)

#### 『第九百九十三條』

○遺産ヲ組成セル各箇ノ財産ハ遺産相続權ノ内容ヲ爲スモノナルヲ以テ箇箇ノ財産ニ對シ侵害アリタル場合ニ於テ相続ニ因ル所有權ノ取得ヲ理由トシ之カ取戻ヲ請求スルモ亦相続權ノ主張ニ外ナラサレハ相続回

元	元	元	元
四	三	三	三
二	〇	七	九

四	二
二	二

復ノ請求トスルコトヲ妨ケス

○相続回復請求ニ關シテハ民法第九百六十六條及ヒ同第九百九十三條ニ特別時効ノ定アリ從テ相続回復請求者ト其相手方タル相続財産占有者トノ間ニ在リテハ民法第六十二條ノ適用ナキモノトス

#### 第二節 遺産相続人

(第九百九十四條)

#### 『第九百九十四條』

○家族ノ遺産ハ被相続人ト家ヲ同ウスル卑族親之ヲ相続スヘキモノニシテ他家ニ在ル者ハ其卑族親ト雖モ之ヲ相続スルノ權利ナキコトハ民法施行前ニ於テ一般ニ行ハレタル慣例ナリ

(參照)

死亡者ノ遺産ハ其尊屬ナル戸主ニ屬スヘキモノニ非ス死亡者ノ卑屬ナル長男ニ於テ相続スヘキモノトス

一家ノ戸主死亡シ相続人タルヘキ子孫ナキトキハ縱令家ヲ異ニスルモ其子カ父母ノ財産ヲ相続スヘキハ當然ナリ

(第九百九十六條)

#### 『第九百九十六條』

○家族カ死亡シタル當時法定ノ遺産相続人ナク又現實ノ戸主存在セザリシ場合ト雖モ爾後前戸主ノ家督相続人ト爲リタル者ハ其家族ノ遺産ヲ

四	四	四	四
二	二	二	二
九	二	二	二

民法 相続 遺産相続 遺産相続人

相続スルノ権利アルモノトス

(參照)

同居家族ノ遺産ハ戸主ノ支配權ニ屬スルモ分家ノ家族死亡シ獨リ其者ノ遺妻存在セルトキハ遺妻ニ於テ右遺産ヲ相続スルハ當然ナリ

第三節 遺産相続ノ效力

第一款 總則

第一千一條

○民法第一千一條ハ被相続人カ有セシ權利義務ニシテ財産權上ノ關係ニ屬スルモノナル以上ハ遺産相続人ハ相続開始ノ時ヨリ其一切ノ權利義務ヲ包括シテ承繼スヘキ旨ヲ規定シタルモノトス

○民法第一千一條ノ所謂被相続人ノ財産ニ屬セシ權利義務ニハ債務ヲ包含スルコト勿論ナルヲ以テ遺産相続人ハ被相続人カ負擔セシ債務ノミ存スル場合ト雖モ尙ホ之ヲ承繼スヘキモノナリ

○相続回復ノ請求ト相続ニ因ル權利義務ノ承繼トハ自ラ別種ノ問題ニ屬スルヲ以テ箇箇ノ財産ニ對スル侵害行爲ノ排除請求ヲ認容スルモ毫モ遺産相続ノ包括承繼ナル性質ニ背反スルモノニ非ス

四〇 一三五

二八 一

四

四二 二四二

四三 六四二

四四 四六八

第三章 相続ノ承認及ヒ拋棄

第一節 總則

(參照)

(刑) 養子若クハ其離縁ハ内情如何ニ關セス苟モ戸籍ニ登錄セラレザル間ハ法律上其效ナキモノトス而シテ一旦養子ト爲リ相続權ヲ保有スル以上ハ公式ノ手續ナクシテ輒ク相続權ノ拋棄ヲ推測スルヲ許サス從テ其養子ニシテ遺産ノ處分ヲ爲スモ罪ト爲ラス

第一千二十條

○民法施行以前ニ於テハ家督相続人ノ相続權ニ付キ之カ拋棄ヲ許ササル旨ノ法則竝ニ其拋棄ニ關スル一定ノ手續及ヒ方式ノ履踐ヲ命シタル法則存セサリシヲ以テ事實裁判所カ自由ナル心證ヲ以テ拋棄ノ事實ヲ認ムルモ不法ニ非ス

(參照)

家督相続權ハ之ヲ拋棄スルヲ許ササル法則ナキニ依リ其拋棄ヲ認メタル裁判ハ違法ニ非ス

第二節 承認

第一款 單純承認

第一千二十三條

○民法施行前ニ在テモ遺産相続人カ遺産ノ限度ニ於テ被相続人ノ債務ヲ

二九 四 七三

二 二六二

二九 一〇 三〇

第一千二十三條

民法 相続 承認 單純承認

辨濟スヘキ條件ヲ附スルコトナク單純ニ相續ヲ爲シタルトキハ被相續人ノ負擔セシ財産上ノ債務ヲ無限ニ承繼スヘキモノトス

四三

四七九

(同主旨)

民法施行前ト雖モ遺產相續人カ特ニ遺產ノ限度ニ於テ被相續人ノ債務ヲ辨濟スヘキ條件ヲ附セスシテ單純ニ相續ヲ爲シタル以上ハ被相續人ノ財産上ノ債務ハ無限ニ之ヲ承繼シタルモノト認メサルヘカラス

三七

一五八

(第一千二十四條)

『第一千二十四條』

○民法第一千二十四條第二號ノ場合ニ於テハ縱令相續人カ事實上單純承認ヲ爲スノ意思ナカリシ時ト雖モ法律上其意思表示アリタルモノト看做スヲ以テ之ニ法律ヲ適用スルニ付テモ實際其意思表示アリシ時ト同一視スルヲ當然トス

四一

二四二

第二款 限定承認

(第一千二十五條)

『第一千二十五條』

○家督相續人ハ限定承認ヲ爲シタル場合ト雖モ前戸主ノ一身ニ專屬シタルモノヲ除ク外相續開始ノ時ヨリ其有セシ權利義務ヲ承繼スヘキモノナルモ前戸主ノ債務及ヒ遺贈ニ付テハ唯相續ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ責アルニ止マリ其固有ノ財産ヲ以テ之ヲ辨濟スル

ノ責ナシ

第三節 拋棄

○民法施行以前ニ於テハ家督相續人ノ相續權ニ付キ之カ拋棄ヲ許ササル旨ノ法則並ニ其拋棄ニ關スル一定ノ手續及ヒ方式ノ履踐ヲ命シタル法則存セサリシヲ以テ事實裁判所カ自由ナル心證ヲ以テ拋棄ノ事實ヲ認ムルモ不法ニ非ス

三九

一七九

第六章 遺言

第二節 遺言ノ方式

○遺言ヲ爲スニ際シ親族アル者ハ多クハ皆之ヲ立會ハシムヘシト雖モ遺言書ニハ必スシモ親族ノ立會連署ヲ要スルモノニ非ス

三三

六

七一

第一款 普通方式

(參照)

遺贈證書ハ必ス本人ニ於テ之ヲ自署シ又ハ證人ノ連署ヲ要スルノ條理ナシ殊ニ徳川氏政府百个條及ヒ寛保追加ノ如キハ現行法ノ效力ナキハ勿論裁判上慣例トシテモ亦當然認知セラルヘキモノニ非ス

二八

五二〇

第三節 遺言ノ效力

民法 相續 遺言 遺言ノ方式 普通方式 遺言ノ效力

(參照)

遺言ハ單獨行為ニシテ受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄又ハ承認ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ遺言者死亡後承認ノ意思ヲ起訴前ニ表ハスト又ハ起訴ト同時ニ表ハストニ因リテ遺言ノ效力ヲ異ニスルコトナシ

(第一千八十七條)

『第一千八十七條』

○遺言ハ遺言者カ死亡スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノニシテ而カモ遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒ之ヲ取消シ得ルモノトス從テ遺言者カ生存スル以上ハ受遺者ノ爲メニ何等ノ權利ヲモ發生スルコトナシ

(參照)

遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス從テ遺言者ハ其生存中何時ニテモ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得

第四節 遺言ノ執行

(第一千百十四條)

『第一千百十四條』

○遺言執行者ハ相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行為ヲ爲ス權利義務ヲ有スルニ依リ相續人カ遺贈ノ目的ヲ其名義ニ移シタル場合ニ於テ遺言執行ノ爲メ相續人ニ對シ訴訟ヲ提起スルカ如キハ固ヨ

(第一千百十七條)

『第一千百十七條』

○遺言執行者ハ單ニ相續人ノ代理人トシテ相續人ノ權利ノミヲ行使スルモノニ非ス

リ其權限ニ屬ス

第五節 遺言ノ取消

(第一千百二十四條)

『第一千百二十四條』

○遺言ハ遺言者カ死亡スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノニシテ而カモ遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒ之ヲ取消シ得ルモノトス從テ遺言者カ生存スル以上ハ受遺者ノ爲メニ何等ノ權利ヲモ發生スルコトナシ

第七章 遺留分

○民法ニ於テ家督相續人ノ受クヘキ遺留分ヲ侵害シタリトハ被相續人カ生前處分若クハ死後處分ヲ以テ相續ニ因リ法律上相續人ノ受クヘキ權利ヲ處分シタル場合ヲ云フ

(第一千百四十三條)

『第一千百四十三條』

○民法第一千百四十三條第二項ノ場合ニ受贈者ニ於テ贈與ノ目的ノ上ニ設

民法 相續 遺言ノ取消 遺留分

三五	三九	三六	三六
六			
一五六	一二五	一九〇	一九〇

三二	三九	三三	三七
四			
四五	二五二		

定シタル權利カ其目的ノ爲メ輕微ナル負擔ニシテ遺留分權利者カ之ヲ  
甘受セント欲スル以上ハ其負擔ノ附著シタル儘返還スルモ之カ爲メ目  
的ノ上ニ權利ヲ有スル者ヲ害スルコトナキヲ以テ此場合ニ於テハ遺留  
分權利者ニ對シ贈與ノ目的ノ返還ヲ許ササルヘカラス

〔第一千四百十五條〕

○民法第一千四百十五條ニ所謂滅殺スヘキ贈與アリタルコトヲ知リタル時  
トハ遺留分權利者カ單ニ被相續人ノ財産ノ贈與アリタルコトヲ知ルノ  
ミナラス其贈與ノ滅殺スヘキモノナルコトヲ知リタルトキヲ指稱ス故  
ニ該贈與ニ付キ滅殺權アルコトヲ知ラサル場合ニハ同條ノ時効ノ進行  
ヲ始ムルコトナシ

○遺留分權利者カ被相續人ト第三者トノ間ニ行ハレタル不動産ノ賣買ヲ  
以テ虛偽ノ意思表示ナリト確信シ買主ニ對シテ賣買登記取消ノ訴訟ヲ  
提起シタル場合ニ於テハ起訴ノ當時該賣買ノ成立ヲ了知シタルモノト  
云フヲ得ス從テ其主張ニ反スル事實ナキ以上ハ該不動産賣買ニ對スル  
滅殺請求權ノ時効ハ訴訟提起ノ當時ヲ以テ起算點ト爲スヘキモノニ非  
ス

三六

三六

三七

六二

六二

一三七



商  
法

商法

第一編 總則

第一章 法例

(第一條)

『第一條』

○債務者ヲシテ質物ノ代理占有ヲ爲サシムル所ノ動産質ハ從來此ノ如キ商慣習アリトスルモ民法實施後ハ質權ノ效力ヲ喪フヘキモノトス

○名義書換又ハ質入等ヲ委任スル事項ノミノ記載アリテ年月日及ヒ宛名ノ記載ナキ委任狀ヲ添附シ以テ記名株券ノ輾轉流通ヲ爲ス商慣習ハ違法ニ非ス

(刑) ○白紙委任狀ヲ使用シ記名株券ノ處分及ヒ流通ヲ容易ナラシムル商慣習ハ廣ク實際ニ行ハレ法律の效力ヲ有スルモノトス

○株券記名者カ白紙委任狀ヲ作成シ株券ト共ニ之ヲ他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ轉輾流通スル慣習ノ存スル以上第三者カ其慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ之ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ得ス

三五	三五	三六	三六
二	六	三六	三六
四七	九四	一四七	一四七

○内地裁判所カ内地人ト臺灣人トノ間ニ於ケル商事上ノ訴訟ヲ裁判スル場合ニハ臺灣ノ慣習ニ準據スヘキ限ニ在ラス

○設立費用ト認ムル能ハサル費用ヲ設立費用トシテ創立總會カ承認ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ有效ナリトスル商慣習ハ商法ノ規定ニ反スルモノナルヲ以テ效力ナシ

〔第三條〕

〔第三條〕

○商法第三條ハ當事者一方ノ爲メ商行爲タル行爲ニ付キ商法ノ規定ヲ雙方ニ適用スル旨ノ規定タルニ止マリ當事者ノ一方數人アル場合ニ其數人中ノ一人ノ爲メ商行爲タル行爲ニ付テハ全員ニ對シ商法ノ規定ヲ適用スルノ旨趣ニ非ス

第一章 商人

○酒類製造業ヲ廢止シタル後ニ於テモ依然酒類販賣業ヲ持續スル事實アルニ於テハ其商人タル身分ヲ存續スルモノト云ハサルヘカラス

○合資會社ノ社員ハ當然商人ノ資格ヲ有スルモノニ非サレハ縱令支拂停止ノ事實アルモ直ニ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

四	四	二	四	四
七三	二八一	四四	二	三六

第二章 商業登記

〔第十二條〕

〔第十二條〕

○支配人ヲ選任シタル者カ登記ヲ爲ササルトキハ其選任ノ事實ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモ第三者ヨリ之ヲ以テ其主人ニ對抗スルコトヲ妨ケス

○商法第十二條ハ登記當事者カ登記スヘキ事項ヲ以テ第三者ニ對抗シ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノナレハ之ヲ援キテ被後見人ノ爲メニ商業ヲ營ム後見人カ其登記ヲ爲ササルニ於テハ之ト商行爲ヲ爲シタル債權者ハ其債權ヲ以テ第三者ニ對抗スルノ權ナシト謂フヲ得ス

○株式會社ノ資本減少ニ關スル決議ノ後讓受ケタル株式ハ減資決議ニ因リテ定マリタル制限ヲ帶有スルモノナレハ其讓受人ハ該決議ニ服従スヘキ義務ヲ有シ減資決議ノ登記ニ付テハ商法第十二條ニ所謂第三者ニ該當セス

〔第十五條〕

〔第十五條〕

○商法第五十三條ハ同法第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動カ事項ノ變更ニ基クト將タ其消滅ニ基クトヲ問ハス

四	四	四	四	四
八四五	五七九	九九元	四	四

總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘシトノ意義ニシテ同法第十五條ニ謂フ登記シタル事項ノ變更ト消滅トヲ包含シタル規定ナリト解釋セサルヘカラス

(友對)

商法第五十三條ハ同第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキニ於テ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトヲ問ハズ總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘキ法意ニシテ同法第十五條ノ所謂消滅登記トハ登記シタル事由ノ全ク無用ニ歸シ消滅シタル場合ニ適用スヘキ法意ナリ

### 第四章 商號

(第十六條)

#### 『第十六條』

○一個人ノ商號ハ民事訴訟法第九十條ノ規定ニ依リ當事者ヲ表示スヘキ名稱ト爲スヲ得サルモノトス

○商號ナルモノハ一定ノ商人カ取引上自己ヲ指示センカ爲メ使用スル名稱ニ外ナラサレハ使用者ハ他人ニ代リテ取引ヲ爲ス場合ト雖モ尙ホ其商號ヲ使用シ得ルモノニシテ登記ノ有無ハ毫モ之ニ關係ナシ

(第十八條)

#### 『第十八條』

○商會ナル文字ハ商人カ商號トシテ普通慣用スル語辭ニシテ其文字自體

三六

九〇八

三三

四

七〇

三四

六

七四

四〇

三八九

(第二十三條)

#### 『第二十三條』

ハ會社ナル文字ト同一ノ意義ニ解スヘカラストスルモ之ニ合名ノ二字ヲ冠シ合名商會ト云フトキハ世人ヲシテ直ニ合名會社ナリト信セシムヘキ虞アルカ故ニ會社ニ非スシテ其商號中ニ合名商會ナル文字ヲ用ユルトキハ商法第十八條第二項ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

○運送其他ノ營業ヲ讓渡スルニ當リテハ店舖貨物債權債務得意先及ヒ商業帳簿等ハ總テ之ヲ讓渡スヲ通常トス故ニ其反證アラサル限ハ總テ讓渡アリタルモノト推定セサルヘカラス

### 第五章 商業帳簿

(第二十五條)

#### 『第二十五條』

○商法第二十五條ハ商人ハ日日ノ取引其他ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載シタル帳簿ヲ備フルコトヲ要ストノ旨趣ニシテ此等ノ事項ヲ日日記入スルコトヲ強要シタルモノニ非ス

(第二十六條)

#### 『第二十六條』

(參照)

商法第二十六條第一項ニ於テ商人又ハ會社ニ對シ定時ニ財産目錄ヲ調製スルノ義務アルコト

四〇

九九一

三三

一〇

四二

四二

二二四

ヲ規定シタルハ他人ナシテ其時ニ於ケル資産ノ状態ヲ知悉セシムルノ旨趣ニ外ナラズ故ニ其第二項ノ價格ナルモノハ客觀的ノ價格即チ目錄調製當時ノ交換價格ヲ指スモノトス

### 第六章 商業使用人

○商業使用人カ主人ニ代リテ其營業ニ關スル行爲ヲ爲スニハ主人ニ對シ忠實ニシテ其利益ヲ圖ルヘキモノトス故ニ其主人ノ爲メ不利益ナルコトヲ知リテ或行爲ヲ爲シ之ニ損害ヲ生セシムルニ於テハ其賠償ノ責任スヘキハ言ヲ竣タサレトモ右ノ行爲ヲ以テ法律上當然無効ナリトスルヲ得ス

#### 『第二十條』

○會社ノ支配人カ會社ノ爲メニ金錢ヲ借入レタルトキハ縱令其營業カ金錢ノ貸借ヲ目的トセサル場合ト雖モ反證ナキ限り該行爲ハ會社ノ目的遂行ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノニシテ支配人ノ權限内ニ屬スルモノト認ムルヲ當然トス  
○支配人ハ主人ノ營業ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルニ因リ其資格ニ於テ當然代理人ヲ選任シ得ルモノトス  
○商法第三十條第一項ニ所謂營業トハ商行爲ヲ爲スコトヲ業トスルノ義

(第三十條)

三五	五
四一	一〇五
四二	一〇八
四三	一七九

ナルヲ以テ苟モ其業務ニ關スル行爲ハ性質ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ包含セルモノトス從テ支配人ノ代理スヘキ行爲ナリヤ否ヤハ行爲ノ性質自體ニ依リ決スヘキ事項ニ非スシテ代理セラルヘキ主人ノ營業ニ關スルヤ否ヤニ因リテ定マルモノナリ

## 第二編 會社

### 第一章 總則

#### 『第四十六條』

○商法第四十六條ニ謂フ開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得ストノ規定ハ會社ノ目的トスル事業ニ直接ナル準備行爲ヲ爲シ得ストノ旨趣ナリ

(第四十六條)

#### 『第四十七條』

○商法第四十七條ニ所謂開業トハ製氷株式會社ニ在リテハ其目的タル製氷及ヒ販賣ナル直接行爲ヲ指稱スルモノニシテ敷地ノ開墾及ヒ製氷貯藏所ヲ建設スルカ如キハ開業ノ準備タルニ過キスシテ未タ以テ開業ト云フヲ得ス

(第四十七條)

#### 『第四十八條』

○會社ノ行爲カ公ノ秩序ヲ害スルトキハ縱令其設立ノ目的ハ適法ナル場

(第四十八條)

四三	七四
四四	二九
四五	七二

合ト雖モ裁判所ハ檢事ノ請求又ハ職權ニ因リ之カ解散ヲ命シ得ルモノトス

○商法第四十八條ニ所謂會社カ公ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲ストハ旅店若クハ料理店營業ノ會社ニシテ其店內ニ賭場ヲ開クコトヲ業トシ又ハ米穀賣買會社ニシテ空米相場ヲ爲スカ如キ會社ノ行爲カ公ノ秩序ニ反スル場合ヲ指稱ス從テ會社ノ役員カ業務ヲ執行スルニ當リ法規若クハ定款ニ違背シ誠實ニ其職責ヲ盡サス爲メニ株主及ヒ債權者ニ損害ヲ與ヘタル場合ノ如キハ之ニ包含セス

### 第二章 合名會社

#### 第一節 設立

第五十三條

#### 第五十三條

○商法第五十三條ハ同法第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動カ事項ノ變更ニ基クト將タ其消滅ニ基クトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘシトノ意義ニシテ同法第十五條ニ謂フ登記シタル事項ノ變更ト消滅トヲ包含シタル規定ナリト解釋セサルヘカラス

(反對)

商法第五十三條ハ同第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキニ於テ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘキ法意ニシテ同法第十五條ノ所謂消滅登記トハ登記シタル事由ノ全ク無用ニ歸シ消滅シタル場合ニ適用スヘキ法意ナリ

商法第五十三條ノ規定ハ其第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動ハ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトヲ問ハス總テ變更登記トシテ登記スヘキ律意ナリト解セサルヘカラサルモノトス

○商法第五十三條ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキトハ會社ノ所在地並ニ取締役監査役ノ住所等ニ移動アリタル場合ハ勿論行政區畫改正ノ結果土地ノ名稱ニ變更ヲ生シタル場合ヲモ指稱セルモノトス

(同主旨)

商法第五十三條ニ所謂事項ノ變更ニハ住所ノ變更ヲ包含ス而シテ住所ノ變更トハ獨リ住所ノ土地家屋ニ移動ヲ生シタル場合ノミナラス其表示即チ土地ノ名稱又ハ番號ニ變更ヲ生シタル場合ヲモ包含セルモノトス

(反對)

商法第五十三條中第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキトハ地名改稱ノ場合ヲ包含セス單ニ事項其モノ即チ本支店ノ位置ニ變更ヲ生シタル場合ヲ指スモノトス  
商法第五十三條ニ所謂「第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキトハ單ニ事項其モノノ變更ノ場合ノミヲ指シタルモノト狹義ニ解釋スヘキモノトス

三四	三三	三九	四〇	三四	三三
二	二			六	四
二四	一三三	四	八四一	五二	七〇

第三節 會社ノ外部ノ關係

(第六十三條)

『第六十三條』

○商法第六十三條ノ法意ハ會社財産ヲ以テ辨濟ヲ爲スコト能ハサル債務ノ部分ニ付キ第二次ノ債務者トシテ社員ニ責任ヲ負ハシメ以テ會社債權者ノ爲メニ其債權ノ履行ヲ確保スルニ在リト解スヘキモノトス  
○會社ノ財産中ニハ其所有ニ係ル動産不動産ハ勿論會社カ第三者ニ對シテ有スル債權其他交換價格ヲ有スル一切ノ財産權ヲ包含スルモノナルヲ以テ會社ノ債務カ其財産ニ超過スルヤ否ヤヲ判定スルニ當テハ此等總テノ價格ヲ計算シ其債務ノ總額ト比較シ過不足ヲ確定スルヲ要スルモノトス

第四節 社員ノ退社

(第七十條)

『第七十條』

○商法第七十條ニ所謂他ノ社員ノ一致トハ除名セラルヘキ社員ノ外尙ホ複數ノ社員アリテ其者等ノ意思ノ合致ヲ指稱スルモノトス從テ社員ノ除名ハ會社カ三名以上ノ社員ヨリ成ル場合ニ於テノミ有效ニ行ハルヘキモノナリ

第五節 解散

(第七十四條)

『第七十四條』

○商法第七十四條第七號ニ所謂裁判所ノ命令トハ獨リ同法第四十七條第四十八條ノ命令ノミナラス同法第八十三條ノ規定ニ基ク裁判所ノ判決ヲモ包含スルモノトス

(第八十一條)

『第八十一條』

○商法第八十一條ニ會社カ合併ヲ爲シタルトキハ云云トアルハ同法第七十八條ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ云云トアル其決議ヲ爲シタル時ヲ指スノ法意ニ非スシテ決議ヲ爲シタル後實際合併ヲ爲シタル時ヲ意味スル規定ト解釋セサルヘカラス

(第八十三條)

『第八十三條』

○商法第八十三條ニ依ル會社解散ノ請求ハ會社ニ對シテ爲スヘキモノニシテ個人タル社員ヲ相手取ルヘキモノニ非ス

第六節 清算

○民法第七十九條ノ規定ハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用スヘキモノナルモ合名會社及ヒ合資會社ノ清算ノ場合ニハ之ヲ準用スヘキモノニ非ス  
○會社ノ清算トハ會社解散ノ場合ニ於テ其現務ヲ結了シ債權ヲ取立テ且

三五	三七	三四	三七
八		七	
三六	五三	五二	五三

四二	四	四
七二	七八	七八

債務ヲ辨濟シ若シ殘餘財産アルトキハ之ヲ引渡ス等ノ如キ會社財産ノ處分ヲ指稱セルモノトス

(第九十一條)

『第九十一條』

○商法第九十一條第一項第一號ニ所謂現務ノ結了トハ會社解散後ニ於ケル現在ノ事務ヲ結了スルト云フノ意義ニ外ナラス

(刑)

○酒造合資會社カ業務執行上犯法行為ヲ爲シ其結末ヲ告ケスシテ解散シタルトキハ清算人ハ之ヲ結了セシムルノ義務アリ從テ税法違犯ノ訴追審理ヲ受クルカ如キモ亦商法第九十一條第一號ノ所謂現務中ニ包含スルモノトス

○商法第九十一條ノ規定ハ専ラ清算人ノ當然ノ職務トシテ爲シ得ヘキ範圍ヲ定メタルニ過キスシテ之ヲ以テ會社清算ノ範圍ヲ限定シタルモノト爲スヲ得ス從テ會社清算ノ範圍ハ法文全體ノ旨趣ヨリ之ヲ推測スヘキモノトス

○會社ノ解散前タルト解散後タルトヲ問ハス會社ニ功勞アル者ニ對シ其報酬トシテ慰勞金ヲ贈與スルカ如キハ會社ノ目的タル事業又ハ清算事務ヲ遂行スルニ必要ナル行為ナルヲ以テ會社カ當然爲シ得ヘキ行為ノ範圍ニ屬スルモノトス

(參照)

會社解散ノ決議無效ノ訴ハ商法第九十一條第二項ノ規定ニ該當スルヲ以テ清算人ハ會社ヲ代表シテ訴訟行為ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノトス

(第九十二條)

『第九十二條』

○商法第九十二條ニ所謂會社ニ現存スル財産トハ會社財産中ヨリ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムヘキ債權ヲ取除キタルモノヲ指稱スル文字ニシテ其動産タルト不動産タルト債權タルト將タ又其他ノ財産タルトヲ問ハス會社カ現ニ有スル總テノ財産ヲ包含スルモノトス

(第九十五條)

『第九十五條』

○商法第九十五條ニ所謂清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社ノ財産ヲ社員ニ分配スルヲ得ストハ會社ハ其負擔スル債務ヲ悉皆償却シタル後ニ非サレハ其財産ヲ分配スルヲ得ストノ意ニシテ相當ノ金額ヲ準備シ置クトキハ負債辨償前ニ在テモ財産ヲ分配スルヲ得トノ律意ニ非ス

(第三百三條)

『第三百三條』

○商法第三百三條ニ規定シタル合名會社員ノ責任ハ五年ノ法定期間内ニ會社債權者ヨリ請求ヲ受ケサルトキハ永ク辨濟ノ責任ヲ免ルルト同時ニ

三九 1010

三五 五 1011

四二 二七〇

二 六二九

二 六二九

三五 五 1011

三四 三 六五

三五 六 1136



其期間内ニ一旦請求ヲ受ケタルトキハ縱令其期間内ニ辨濟ヲ了セサルモ其責任ヲ免ルルヲ得サルモノトス

### 第二章 合資會社

○會社ニ對スル出資金ニシテ既ニ辨濟期ニ在ルモノノ支拂ヲ求ムル權利ハ一ノ債權ニ外ナラスシテ其性質讓渡ヲ許ササルモノニ非ス故ニ特別ノ規定ナキ以上ハ會社ニ對スル強制執行ノ目的物ト爲スニ妨ナキモノトス

〔第一百十二條〕

○合資會社ノ社員ノ持分ハ社員カ其資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル一切ノ權利義務ヲ指稱スルモノナレハ普通ノ債權ト同視スヘキモノニ非ス

〔第一百十四條〕

○合資會社カ特ニ代表社員ヲ定メタル場合ト雖モ其解散シタル後ニ於テハ無限責任社員ハ各清算人ト爲リ且第三者ニ對シテ各自會社ヲ代表スヘキ資格權能アルモノトス

### 第四章 株式會社

#### 第一節 設立

○株式會社ノ發起人カ其資格ヲ以テ他人ニ對シ或債務ヲ約スルモ會社ハ必スシモ之ヲ引受ケサルヘカラサルモノニ非ス

○株式會社カ發起人ノ約シタル債務ヲ引受ケタルトキハ發起人ト契約シタル者ハ爾後會社ニ對シテ其履行ヲ請求スルコトヲ得ルモ會社ノ引受ケサル債務ハ會社ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス

○數名ノ發起人カ設立費用ヲ負擔シテ會社ヲ設立セントスル行爲ハ組合契約ニ酷似スルヲ以テ之ニ其規定ヲ準用スヘキモノトス

○發起團體ハ會社ノ前身ナルヲ以テ其發起ノ爲メニ生シタル權利義務ハ會社成立シ且之ヲ承認シタル場合ニハ其會社ニ承繼スルヲ當然トス從テ發起團體カ引受證據金及ヒ拂込株金ヲ他ニ預金ト爲シタルトキハ會社ハ直接ニ預金ノ債務者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

○日本產馬株式會社カ設立ノ準備トシテ爲シタル土地ノ購入費又ハ馬場設置費ノ如キハ寧ロ營業準備費ニシテ設立費用ニ非ス從テ縱令創立總會ニ於テ設立費用トシテ之ヲ承認シタリトスルモ會社ノ負擔ニ歸セシムル效力ヲ生セス

○會社ノ目的タル營業ニシテ主務官廳ノ免許若クハ認可ヲ要スルモノナ

四

二八二

四三

九八二

四三

九八二

四二

三三〇

四二

三三〇

四五

一〇五

三八

五〇二

三六

一四四

四〇

四一五

ルトキハ其免許若クハ認可以前ニ於テハ會社ハ成立スルモノニ非ス從テ銀行營業ヲ目的トスル會社ニ在テハ其認可以前ニ他人ノ銀行營業ノ讓渡ヲ受クルカ如キ能力ヲ有スルモノニ非ス

(同主旨)

株式會社ノ目的ニシテ主務省ノ認可ヲ受クヘキモノナルトキハ發起ノ際先ツ其認可ヲ受ケ而シテ後設立ニ關スル規定ニ從ヒ成立スヘキモノトス

(第二百二十條)

『第二百二十條』

○株式會社ノ目的ハ其定款ニ依リテ定マルモノトス從テ手形ノ支拂保證ヲ爲スコトカ株式會社タル銀行ノ目的ノ範圍内ニ在ルヤ否ヤハ其定款所定ノ目的ニ包含スルヤ否ヤニ據リテ之ヲ定メサルヘカラス

○株式會社ノ設立ニ際シ事實上發起人ノ如キ狀態ニ於テ行動シタル者アルモ其氏名住所ヲ定款ニ記載セス且之ニ署名セサルトキハ其者ハ法律上會社設立ノ發起人ト云フヲ得ス

○株式會社ノ發起人カ定款ヲ作成シタルモノ之ニ署名又ハ記名捺印セサリシトキハ其定款ハ當初ヨリ無効ナルカ故ニ縱令會社カ既ニ登記ヲ經テ其事業ニ著手シ形式上存在スル如キ觀ヲ呈スル場合ト雖モ其設立ハ何等ノ手續ヲ竣タスシテ當然無効ナリトス而シテ發起人カ株式ノ總數ヲ

二

八四九

四二

三〇〇

四〇

九

四

三

引受ケタルニ因リテ成立スル會社ナルト否トハ問フ所ニ非ス

○會社定款中ニ具體的ニ記載セラレサルモ其記載セル目的事項中ニ自ラ包含セラレタルモノト認メラレ得ヘキモノハ會社目的ノ一部ヲ成スヘキモノナルノミナラス會社ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項ハ定款中ニ記載セサルモ其目的ノ範圍内ニ於ケル會社ノ業務タル性質ヲ有スルモノトス

○會社カ株式會社設立ノ發起人ト爲ルコトヲ得ルヤ否ヤヲ判定スルニハ先ツ其發起行為カ定款ニ依リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ包含スルヤ否ヤヲ確定セサルヘカラス

(第二百二十六條)

『第二百二十六條』

○商法第二百二十六條ニ所謂署名トハ自己ノ名ヲ署スルノ義ナルヲ以テ虛無ノ名ヲ署シテ爲シタル株式申込ハ發起人カ之ヲ知ルト否トヲ問ハス絶對ニ無効ナリトス

○株式申込ノ證據金ナルモノハ申込人カ他日株式引受ノ成立シタル場合ニ株金ノ拂込ヲ怠リテ失權シタル場合ニ於ケル違約金トシテ株式引受カ成立セサルトキハ之カ返還ヲ受クヘキ條件ノ下ニ其處分ヲ許シテ發起人ニ寄託スルモノナレハ其所有權ハ拂込ト同時ニ發起人ニ移轉スル

四二

二〇三

元

一〇七

二

二七

四

六八五

モノトス從テ特別ノ約束ナキ限り之ヲ利用シテ得タル利息ヲ返還スルノ義務ナキモノトス

(第二百二十九條)

『第二百二十九條』

○株式引受人ハ株主タル權利ヲ取得スルト同時ニ拂込ヲ爲スノ義務ヲ負擔セルモノトス故ニ株金拂込ノ催告カ二週間ノ期間ヲ存セサル爲メ法律上ノ效力ナキコトヲ理由トシテ未タ拂込ノ義務ナシト云フヲ得ス

○株金拂込ノ義務ハ株式引受ニ因リテ生スルモノトス而シテ株式ノ引受ハ商行爲ニ非ス

(第二百三十一條)

『第二百三十一條』

○創立總會ハ會社ノ成立前法律ノ規定ニ依リ招集セラレタル株式引受人ヨリ成ル一種ノ組織體ニシテ會社ノ機關ニ非サルカ故ニ特別ノ規定ナキ限り株主總會ニ關スル規定ヲ之ニ準用スヘカラス從テ其選任ニ係ル取締役及ヒ監査役ノ受クヘキ報酬ノ額ト雖モ之ヲ定ムルノ權限ナキモノトス

(第二百四十條)

『第二百四十條』

(參照) 商法第二百四十條ノ規定ニ依リ株式引受人ニ付與セシ申込ノ取消權ハ創立總會ノ終結ニ因リテ

四	六八五
三九	二七〇
三	九三七
二	三三三

(第四百四十一條)

『第四百四十一條』

會社成立シタル後ハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

○株式會社設立ノ登記ヲ爲スニ當リ各株式ニ付キ少クモ四分ノ一ノ金額ヲ拂込マサレハ其登記ハ適法ナラス然レトモ之カ爲メ當然無効ニ歸スヘキモノニ非サレハ苟モ登記ノ取消サレサル間ハ會社ノ法人資格ハ他人ニ對抗スルコトヲ得

○商法第四百四十一條及ヒ第五十三條ノ二週間ノ期間ハ監査役ニ當選シタル者ノ承諾ヲ竣テ後始メテ起算スヘキモノニ非ス決議ノ日ヨリ起算スヘキモノトス

○同一ノ者カ監査役ニ再選セララルモ是レ全ク改選ノ結果ニシテ即チ監査役ニ變更アリタルモノニ該當スルニ因リ更ニ之ヲ登記スヘキモノトス

○商法第四百四十一條第二項ノ規定ニ依リ株式會社ニ準用スヘキ同第五十一條第二項ニ所謂會社設立後支店ヲ設ケタルトキトハ株主總會ニ於テ新ニ支店ノ設立ヲ決議シタルトキヲ謂フニ非スシテ其決議後現實支店ノ開設アリタルトキヲ指スモノトス

○商法第六十七條ノ二及ヒ第八十九條ハ定款ニ定メタル員數ノ取締

四五	三七二
三三	一
三四	三七
三四	三七
三六	五五二

役又ハ監査役カ新任就職スル迄ハ法律上取締役又ハ監査役ノ退任就任ト爲ラサル旨ヲ定メタルモノニ非サルヲ以テ苟モ其退任若クハ就任ノ事實アルニ於テハ縱令其員數カ定款ノ定ムル所ニ滿タサルモ取締役又ハ監査役ノ退任就任ニ外ナラサレハ其變更登記ヲ爲スヘキモノトス

第二節 株式

○名義書換又ハ質入等ヲ委任スル事項ノミノ記載アリテ年月日及ヒ宛名ノ記載ナキ委任狀ヲ添附シ以テ記名株券ノ輾轉流通ヲ爲ス商慣習ハ違法ニ非ス

○記名株券ニ白紙委任狀ヲ添附シ之ヲ他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ輾轉流通スル慣習ノ存スル以上ハ縱令直接ノ當事者間ニ於テ祕密契約ヲ爲シ或場合ニ於テノミ白紙委任狀ヲ利用シテ株券ヲ處分スルコトヲ許シタル場合ト雖モ善意ニシテ且過失ナキ第三者カ慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ該祕密契約ニ基キ之ヲ攻撃スルコトヲ得サルモノトス

○株式會社カ資本ヲ増加スルニ方リ總株數ノ引受ナキ場合ニ於テハ會社ハ豫定ノ資金ヲ得ル能ハス從テ豫定ノ目的ヲ達スルヲ得サルニ因リ株主モ亦豫定ノ利益配當ヲ得ルノ望ナキニ至ルヲ以テ既ニ引受ヲ爲シタル株主ニ於テモ其拂込ヲ拒絕スルノ權利ヲ有スルモノトス

○株券記名者カ白紙委任狀ヲ作成シ株券ト共ニ之ヲ他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ輾轉流通スル慣習ノ存スル以上第三者カ其慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ之ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ得ス

(刑) ○記名株券ノ所有者カ其株券ニ委任狀及ヒ處分承諾證ヲ添ヘテ之ヲ相手方ニ交付シタル後第三者カ善意且過失ナク其相手方ヨリ該株券竝ニ附屬書類ノ交付ヲ受ケ之ヲ占有シタル場合ニハ第三者ヲシテ其正當ニ豫期シタル權利ヲ取得セシムヘキハ當然ナリ

(刑) ○如上ノ場合ニ於テ記名株券ニ添附セラレタル委任狀及ヒ處分承諾證カ真正ノ成立ヲ有セサルカ若クハ其株券竝ニ附屬書類ノ授受カ正當權利者ノ任意ニ出テサルトキハ縱令第三者ニ於テ善意且過失ナク其引渡ヲ受ケ之ヲ占有スルモ該株券ニ付キ何等ノ權利ヲ主張シ得サルモノトス ○株主カ株式ニ因リテ有スル權利ハ單純ナル債權ニ非スト雖モ株式會社ノ營業ニ因リテ生スル利益ノ配當ヲ受クル權利アルノミナラス會社解散ノ後ハ清算ノ結果殘餘財産ノ分配ヲ受クヘキ權利アリ從テ株式ハ債權ノ性質ヲ包容シタル權利ト謂フヘシ

三六	三九	三九	三九	四〇
二三四	一四七	五四二	五四二	八〇六

二	三五	三六	三七
二〇六	九四	七九	

○株券記名者カ名義書換ノ手續ニ關スル白紙委任狀ヲ添附シタル株券ハ交付ニ依リ輾轉流通スルモノトス而シテ委任狀記名者ノ死亡ハ其輾轉流通ヲ妨クルノ事由ト爲ラス

○株主ハ株式引受ヲ爲シタル場合ナルト其讓渡ヲ得タル場合ナルトヲ問ハス株金支拂ノ義務ヲ有シ且其義務ハ株式ヲ讓渡スルモ之ヲ免ルヘキモノニ非ス

○株主トハ株式ヲ引受若クハ之ヲ讓受ケタル者ノ謂ニシテ記名株式ニ付テハ株主名簿及ヒ株券ニ氏名ノ記載セラレタル者ヲ指稱ス故ニ内實ノ關係ニ於テ株主タルヘキ事情アルモ自己ノ名義ヲ以テ株式ノ引受若クハ讓受ヲ爲ササリシ者ハ之ヲ株主ト認ムルコトヲ得ス

○白紙委任狀ヲ添附シテ記名株券ヲ讓渡シタルトキハ縱令直接當事者間ニ讓渡禁止ノ意思表示アリシトスルモ善意ノ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

○株主カ第三者ニ株式ヲ讓渡シタル場合ニ於テ會社ニ對シ其讓渡前ニ株金拂込ノ催告ヲ受ケタル金額ニ付キ履行ノ責ニ任スヘキ旨ノ特約ヲ爲スモ斯ル特約ハ商法規定ノ會社ト株主又ハ讓渡人トノ關係ヲ左右スルモノニ非サレハ株金拂込ノ確實ヲ期スル商法ノ主旨ニ戾ルコトナク又

公序良俗ニ反スル所ナキヲ以テ無効ニ非ス

(第四百四十四條)

『第四百四十四條』

○商法第四百四十四條第二項ノ規定ハ會社ノ資本充實ノ爲メ現實拂込ヲ爲サシムル必要ニ基因シタルモノナレハ株式讓渡人カ負擔セル株金辨濟ノ義務ヲ履行スル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

(同主旨)

商法第四百四十四條第二項ノ規定ハ會社資本ノ充實ヲ期スル必要ニ基因シタルモノナレハ株式讓渡人カ其負擔セル株金辨濟ノ義務ヲ履行スル場合ニ於テモ亦同項ノ制限ニ羈束セラレルモノトス

(第四百四十六條)

『第四百四十六條』

○株式共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金拂込ノ義務ヲ負フモノナレハ縱令共有者カ株主權ヲ行使スヘキ者ヲ定メサル場合ト雖モ會社カ其一人ニ對シ商法第五百二十二條ノ手續ヲ踐ミタルモ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ共有者全員ニ對シ失權ノ效果ヲ生スルモノトス

(第四百四十九條)

『第四百四十九條』

○會社設立登記前ノ株式讓渡ニ關スル給付ハ公ノ秩序若クハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ニ原因シタルモノト云フヲ得ス

四	三	四	四	五
三二	六九	四	四	五一

二	三	四	四	四
八二	九七	六九	六四	五一

○商法第四十九條但書ノ規定ハ登記前ニ於テ株式ノ讓渡又ハ其讓渡ノ豫約ヲ許ストキハ株式ヲ投機ノ具ニ供スル弊害ヲ生シ兼テ又會社ノ基礎ヲ危クスルノ虞アルカ故ニ之ヲ豫防スルノ旨趣ニ出ツルモノトス從テ株式引受ノ未タ確定セサル場合ト雖モ該但書ノ適用ヲ妨クルコトナシ

(第百五十條)

『第百五十條』

(參照)

會社カ株券ノ名義ヲ書替ユルハ株券ノ真正ナルコトヲ保證スルニ非スシテ株主ノ變更ヲ承認スルニ過キス

商法第百五十條ノ規定ハ記名株式ノ讓渡人若クハ讓受人ハ同條ノ手續ヲ了セサレハ會社及ヒ其他ノ第三者ニ對シ讓渡行爲ノ效力ヲ利用シ得サル旨趣ヲ聲明シタルニ外ナラスシテ會社及ヒ其他ノ第三者ノ爲メニ其行爲成立セサルノ趣意ニ非ス  
株式會社ハ商法第百五十條ノ手續未了前ト雖モ記名株式ノ讓渡人ニ對シテ讓渡行爲ノ存在ヲ主張シ以テ自己ノ利益ヲ防護スルノ權利ヲ有スルモノトス  
商法第百五十條ハ絕對的規定ナルカ故ニ苟モ記名株式ノ讓渡ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルニハ如何ナル場合ニ於テモ同條所定ノ手續ヲ踐ムコトヲ要ス  
記名株式讓受人ノ氏名住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルコトハ讓受人カ會社其他ノ第三者ニ對抗スル條件ニ過キサルヲ以テ商法第百五十三條第三項ノ規定ニ從ヒ株式ノ競賣ヲ爲シタル者カ不足額ヲ請求スルニハ右ノ手續ヲ履ムヲ要セサルモノトス

四五	四〇	三八	三八	三五	四
				二	
		一五三九	一五三九	二二八	五六
	一〇五四				
六					

(第百五十二條)

『第百五十二條』

記名株式ノ讓渡ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルニハ會社カ其讓渡ヲ承認シタル場合ト雖モ讓受人ノ氏名住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルコトヲ要スルモノトス  
記名株式カ相續ニ因リ相續人ニ移轉シタル場合ニ於テモ商法第百五十條ノ舊規定ニ準據シ其手續ヲ履踐スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○催告トハ特ニ之ヲ領受スヘキ人ニ對シ發スヘキモノニシテ公告ト同視スヘキニ非ス故ニ特殊ノ規定若クハ意思表示アラサル限ハ公告ヲ以テ催告ニ代フルコトヲ得ス

○株式會社カ其解散前ニ於テ既ニ株主ニ對シ株金ノ拂込ヲ適法ニ催告シタル以上ハ株主ハ會社ニ對シテ其義務ヲ履行スヘキ地位ニ在ルモノトス故ニ其後會社カ解散ニ因リ清算ノ時期ニ移ルモ之カ爲メ株主ノ地位ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

(刑) ○株金ノ拂込ハ必ス現金ヲ以テスルコトヲ要シ約束手形ノ如キ債權ヲ以テスルコトハ商法ノ認許セサル所トス

○株式會社カ株主ヲシテ株金ヲ拂込マシムルニ當リ催告ヨリ二週日ヲ經過セル以後ニ拂込期日ヲ指定シ以テ拂込ノ期間ト爲スニ於テハ商法第百五十二條ノ要件ヲ具備シタルモノトス而シテ其期間ニ付テハ民法ノ

三七	三七	三五	四五	四五
		九		
	五九四	五三	四一九	四一九
二七二				

期間計算法ニ從フヘキモノナルモ之カ爲メ同條ノ猶豫日數ニ變更ヲ來スヘキモノニ非ス

○株金拂込ノ催告ハ各株主ニ對シ二週間前ニ之ヲ行フコトヲ要ス從テ該期間ヲ存セサル催告ハ無効ナリ

○株金拂込ノ催告ニシテ其要件ヲ具備セサルカ爲メ無効ニ歸シタル以上ハ縱令事實上二週間ヲ經過セル後再ヒ催告ヲ爲スモ商法第五百十二條第二項ニ謂フ通知ノ效力ヲ生スルコトナシ

○株金拂込ノ債務ハ法律ノ規定ニ依ルノ外金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スカ又ハ會社ノ承諾ヲ得テ會社ニ對スル債權ト相殺スルニ非サレハ消滅セサルモノトス從テ縱令拂込義務者ト會社トノ合意アルモ代物辨濟又ハ更改等ニ因リテ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

(同主旨)

株金拂込ノ債務ハ法律ノ規定ニ依ルノ外金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スカ又ハ會社ノ承諾ヲ經テ會社ニ對スル債權ト相殺スルニ非サレハ消滅セサルモノトス從テ縱令當事者ノ承諾上代物ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ其履行ニ代ヘテ手形若クハ債務證書ヲ授受スルモ之カ爲メ株金拂込ノ債務ハ消滅スルモノニ非ス

○商法第五百十二條第一項ノ規定ハ株金ノ拂込ニ關シ會社ノ踐行スヘキ

三六

一〇四

三九

六

三九

六

三九

一一三

三六

九八

手續ヲ定ムルト同時ニ株主ノ爲メ期間ヲ設ケタルモノトス故ニ拂込ノ催告カ法定ノ期間ヲ存セサルニ拘ハラズ株主ニ於テ其期日ニ拂込ヲ爲スカ又ハ期日ニ拂込ヲ爲スヘキコトヲ承諾スルハ期間ノ利益ヲ拋棄セラルモノニ外ナラス

○株主ハ商法第五百十二條第一項ノ拂込催告ニ因リテ均等ニ拂込義務ヲ生スルモノナレハ同條第二項ノ催告及ヒ失權通知ハ必スシモ總株主ニ對シテ均等ニ之ヲ爲スノ要ナシ

○株式會社カ商法第五百十二條第一項若クハ定款ニ定ムル期間ヨリ短キ催告期間ヲ以テ拂込ノ催告ヲ爲シタル場合ニハ縱令株主ニ於テ期間ノ利益ヲ拋棄スルモ之カ爲メニ失權ノ通知ヲシテ同第五百十三條第一項所定ノ效力ヲ生セシムルコトヲ得ス

(第五百十三條)

『第五百十三條』

○株主ノ權利トハ株式即チ義務ヲ包括スル一種ノ權利ヲ指稱スルニ外ナラサレハ株主ニシテ其權利ヲ失フ以上ハ株式ニ付キ何等ノ關係ナキニ至リ其結果株主タル資格ヲ喪失スルモノトス

○商法第五百十三條ノ規定ハ拂込ノ義務ヲ怠リタル株主ニ對スル制裁ナルヲ以テ其株式ハ當然會社ニ歸屬スルモノトス故ニ競賣ノ結果滯納金

三九

一一〇

四〇

一〇七

四〇

七三

三六

三三

額ヲ控除シテ餘剩ヲ生シタル場合ニ於テ會社カ其金額ヲ利得スルハ畢竟法律ノ規定ニ因ルモノナレハ之ヲ目シテ不當利得ト云フヲ得ス

○株式會社カ現株主以外ノ者ニ對シ株金ノ拂込ヲ請求スルノ權ハ商法第百五十二條及ヒ第百五十三條ノ手續ヲ踐ミタル後同條所定ノ株式讓渡人竝ニ從前ノ株主ニ對シテノミ存スルモノトス

○株式會社カ商法第百五十二條ノ手續ヲ踐ムモ株主ニ於テ尙ホ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ當然株主タルノ權利ヲ失ヒ其株式ハ一旦會社ノ有ニ歸スルモノトス從テ同法第百五十三條ニ基ク競賣ノ讓渡人ハ會社ニシテ從前ノ株主ニ非ス

(同主旨)

商法第百五十三條第一項ハ會社カ同法第百五十二條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ株主ヲシテ會社ノ利益ノ爲メニ其株式ヲ失ハシメ而シテ會社ハ其各讓渡人ニ對シ拂込ノ催告ヲ爲シ最先ノ拂込者ニ其株式ヲ取得セシメ若シ其各讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ之ヲ競賣ニ付スル目的ヲ以テ一時之ヲ取得スルモノト解釋スルチ相當トス隨テ右株式ノ競賣ニ付テ賣主ノ地位ニ在ル者ハ從前ノ株主ニ非スシテ會社ナリトス

○株式會社カ商法第百五十二條ノ手續ヲ踐ムモ株主ニ於テ株式ノ拂込ヲ爲ササル場合ニハ其株主タル權利ヲ失却スト雖モ該株式ヲ競賣シ尙ホ滯納金存スルトキハ從前ノ株主ハ其義務者タル地位ヲ脱却スルコトヲ

三六 四五四

三六 六三七

三六 六三七

三六 三三四

得ス即チ從前負擔シタル株式拂込ノ債務不履行ノ地位ニ在ルヘキ法意ナリトス

○商法第百五十二條ノ催告及ヒ通知ヲ受ケタル株主カ當時未成年者ナリシトキハ會社ハ其株主ニ對シテ法定ノ手續ヲ履踐シタリト主張スルコトヲ得ス從テ其株主ハ拂込ヲ爲ササルモ之カ爲メニ當然失權ヲ來スヘキモノニ非ス

○株金拂込ノ催告ニシテ定款所定ノ期間ヲ存セサルカ爲メ無効ト爲リタル以上ハ縱令第二回ノ催告ハ有效ニシテ且株主カ之ニ應セサリシトスルモ株主權喪失ノ效果ヲ生スルコトナシ

○株式會社カ商法第百五十二條ノ規定ニ依リ株主ニ對シ株金拂込ノ催告ヲ爲シタルモ株主之ニ應セサル場合ニ於テ強制執行ノ手段ニ據リ其株主ヲシテ株金ノ拂込ヲ爲サシムルト將タ之ヲ失權セシムルトハ一ニ會社ノ自由ニ屬スルモノトス

○株式共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金拂込ノ義務ヲ負フモノナレハ縱令共有者カ株主權ヲ行使スヘキ者ヲ定メサル場合ト雖モ會社カ其一人ニ對シ商法第百五十二條ノ手續ヲ踐ミタルモ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ共有者全員ニ對シ失權ノ效果ヲ生スルモノトス

三六 九五四

四〇 九一一

四〇 一〇五四

四二 五六五

四四 六六四



○株式讓渡人ノ負擔スヘキ擔保ノ責任ハ株式會社ノ平常ノ場合ハ勿論破産ノ場合ニ於テモ亦商法第百五十二條及ヒ第百五十三條ノ規定ニ依テ之ヲ定メサルヘカラス

三六

一八六

○商法第百五十三條第二項第三項ニ於ケル讓渡人ノ負擔スヘキ擔保ノ責任ハ會社ニ於テ其前條ノ手續ヲ履踐シ株主カ適法ニ其權利ヲ失却シタル場合ニ到著シテ始メテ發生スルモノトス故ニ此手續ニ從ハサルトキハ縱令強制執行其他ノ方法ニ依リ株主ノ支拂不能ノ事實確定スルモ之ヲ以テ讓渡人ノ責任發生スルコトナシ

三六

一八六

○商法第百五十三條第二項ニ所謂二週間ヲ下ラサル期間ハ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發シタル日ヨリ起算スヘク其催告ノ到達シタル日ヨリ起算スヘキモノニ非ス

四五

六

○株式會社カ失權株主ノ株式ヲ賣却スルニ當リ競賣法ノ規定ニ依ラサルトキハ縱令賣却代金ノ滯納金額ニ滿タサルコトアルモ株式讓渡人ニ對シテ其不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ス

三九

一四八

○商法第百五十三條第三項ノ規定ニ依リ株式讓渡人カ會社ニ對シ株金ノ不足額ヲ辨濟スヘキ義務ハ數人相次テ株式ノ讓渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ各讓渡人平等ノ割合ヲ以テ之ヲ負擔スルモノニ非スシテ各自其不

足額全部ニ付キ辨濟ノ責ニ任スヘキモノトス

(同主旨)

株式カ相次テ數回讓渡セラレタル場合ニ於テ會社ニ對シ讓渡人ノ負擔スル債務ハ一ノ擔保義務ニ外ナラスト雖モ民法ニ謂フ保證人ノ債務ト異ナリ分割義務ニ非スシテ全部義務ナリトス

三七

一三七

○株主カ商法第百五十三條第一項ノ規定ニ依リ其權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ株式ノ競賣ニ因リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキ從前ノ株主ヨリ其不足額ヲ辨濟スルハ即チ株金ノ拂込ヲ爲スモノニ外ナラス

四三

三三一

○株式讓渡人カ商法第百五十三條第三項ノ規定ニ依リ競賣不足額ヲ辨濟スル債務ハ株金辨濟ノ義務ニシテ損害賠償ノ義務ニ非ス

四三

六九

○商法第百五十三條第三項ニ所謂競賣トハ競賣法ノ規定ニ依ルヘキモノヲ指稱シ之ニ據ラサル競賣ハ當然無効ナリトス而シテ其無効ハ何人ト雖モ之ヲ主張スルコトヲ妨ケス

四三

九三七

(同主旨)

株式會社カ商法第百五十三條第三項ニ依リ失權株主ノ株式ヲ處分スル場合ニハ競賣法ノ規定ニ據ラサルヘカラス然ラサレハ其競賣ハ全然無効ニシテ法律上何等ノ效力ヲ有セサルモノトス

三九

一四六

○競賣法第八條ニ違背シテ競賣ノ場所及ヒ日時ヲ利害關係人ニ通知セサル事由ハ單ニ異議ノ原因タルニ過キササルヲ以テ株式競賣人カ利害關係

人ニ對シ之カ通知ヲ爲ササリシトテ株式不足額ヲ請求スル妨ト爲ラス  
 ○記名株式讓受人ノ氏名住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載  
 スルコトハ讓受人カ會社其他ノ第三者ニ對抗スル條件ニ過キササルヲ以  
 テ商法第五十三條第三項ノ規定ニ從ヒ株式ノ競賣ヲ爲シタル者カ不  
 足額ヲ請求スルニハ右ノ手續ヲ履ムヲ要セサルモノトス

○商法第五十三條第三項ニ因ル各讓渡人ノ責任ハ同時ニ發生スルモノ  
 ニシテ其間ニ前後ノ關係ナク互ニ併立スルモノナルヲ以テ其一人カ不  
 足額ヲ辨濟シタルトキハ其辨濟ハ自己ノ會社ニ對スル法律上ノ義務ヲ  
 履行シタルモノニシテ他ノ讓渡人ノ會社ニ對スル責任ヲ代テ盡シタル  
 モノニ非ス

○株式讓渡人及ヒ讓受人間ノ關係ニ於テハ讓受人ハ株金拂込ニ關スル擔  
 保責任ヲ負フモノナルヲ以テ株式競賣ノ場合ニ於ケル不足額辨濟ノ責  
 任ヲ負フ者ハ讓受人ナリトス從テ讓渡人カ會社ノ請求ヲ受ケテ之ヲ辨  
 濟シタルトキハ讓受人ニ對シテ其償還ヲ請求シ得ルモノトス

○株金ノ未拂ニ係ル株式ニ付キ順次數回ノ讓渡アリタル場合ニ於テ讓受  
 人ハ悉ク自己ノ讓渡人ノ承繼人ト爲リ株式ニ關スル權利義務及ヒ辨償  
 責任ヲ承繼スヘキコトハ名義書換ノ上株式ヲ讓渡スルト名義書換ノ白

四五

六

四五

六

四五

三二

四五

三二

紙委任狀附ニテ株式ヲ讓渡スルトニ因リテ差異ヲ生スヘキモノニ非ス  
 ○白紙委任狀附ノ株式讓渡ニ於テモ讓渡人中會社ニ對シ株式競賣代金ノ  
 不足額ヲ辨濟シタル者アルトキハ其讓渡人ハ名義書換ノ上株式ヲ讓渡  
 シタル場合ト同ク直接ノ讓受人ニ對シテノミ求償權ヲ有スルモノトス

(同主旨)

數名ノ株式讓渡人中會社ニ對シ株金不足額全部ヲ辨濟シタル者ハ單ニ直接ノ讓受人ニ對シテ  
 求償權ヲ有スルニ過キサレハ之ヲ踰越シ其以後ノ讓渡人ニ對シテ直接ニ求償ヲ爲シ得ヘキモ  
 ノニ非ス

○商法第五十三條第四項ノ規定ハ株主ノ滯納金タル債務不履行ニ因リ  
 會社カ辨濟ヲ請求スル場合ニハ其遲延利息ヲ損害賠償トシ又ハ競賣ノ  
 費用等ヲ損害賠償トシテ請求スルコトヲ妨ケストノ法意ナリ

○商法第五十三條第一項ニ依リ株主タル權利ヲ喪失セシ者ニ對シ會社  
 カ拂込ノ履行ヲ求メスシテ損害賠償トシテ未拂込ノ金額等ヲ請求スル  
 ハ法律ノ許ササル所ナリ

○株式會社ノ定款ヲ以テ豫定シタル株金拂込ニ關スル損害賠償額ハ會社  
 ニ生シタル損害ノ賠償金額ト看做スヘキモノニシテ株金ノ拂込ト其性  
 質ヲ同ウセス

元

一一〇三

元

一一〇三

三七

一三七

三六

九五四

四〇

二九三

四三

九三七

(第百五十四條)

『第百五十四條』

○株式會社カ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年以内ニ讓渡人ニ對シ商法第百五十三條第二項ノ催告ヲ爲シタル一事ハ以テ同法第百五十四條ノ法定期間ノ内外ヲ問ハス會社カ讓渡人ニ對シ競賣不足額ノ辨濟ヲ請求シ得ヘキ證據ト爲スニ足ラス

○株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年以内ニ會社カ商法第百五十三條第三項ニ從ヒ競賣不足額辨濟ノ催告ヲ爲シタル以上ハ其訴訟ノ提起ハ縱令辨濟催告ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シ又ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル日ヨリ二年以上ヲ經過シタル後ニ在ルモ讓渡人ハ同法第百五十四條ノ免責ノ利益ヲ受クルコト能ハス

○商法第百五十四條ノ免責規定ハ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ノ法定期間内ニ同第百五十三條第三項ノ競賣不足額ニ付キ會社ヨリ讓渡人ニ對シテ辨濟ヲ請求シタル場合ニ在ラサレハ其適用ナキモノトス

○株主カ失權シタル場合ニ於テ株式讓渡人カ讓渡ノ後未タ二年ヲ經過セサル間ニ會社ヨリ株金拂込ノ催告ヲ受ケタルトキハ右讓渡人ノ責任ハ二年ヲ經過スルモ消滅セサルモノトス

三九	五四五
三九	五四五
四〇	五四二
四四	五四四

第三節 會社ノ機關

○株主ハ其資格ニ於テ直接ニ取締役若クハ清算人ニ對シ訴訟ヲ爲スノ權利ヲ有セス

○株式會社支店長カ數年間該支店ニ於テ支配人ノ如ク一切ノ會社業務ヲ處理シ殊ニ手形ノ振出支拂等ニ付キ同會社ヲ代表シ來リタル事實アル以上ハ其間手形振出行爲ニ付キ會社ヲ代理スル權限ヲ有セシモノト認定スルモ違法ニ非ス

第一款 株主總會

○投票ハ其記載明確ナラス又ハ誤記アル場合ニ他ノ證據ニ依リ何人ノ投票ナルヤヲ明確ニ知り得ルニ於テハ其投票ヲ無効トスヘキ條理ナシ

○株主カ會社内部ノ行爲ニ干與スルコトハ商法ニ規定シタル場合ノ外法律ノ認許セサル所ナリ

(第百五十六條)

『第百五十六條』

商法 會社 株式會社 會社ノ機關 株主總會

三六	四九九
四〇	六七六
三九	一六八
三七	一五七
二	五三〇

○商法第五十六條第一項ニ所謂各株主トハ記名式ノ株券ヲ有スル株主ヲ指稱セルモノトス而シテ記名式ノ株券ヲ有スル株主トハ同第七十一條及ヒ第七十二條ノ規定ニ從ヒ株主名簿ニ其氏名住所ヲ記載シ且自己ノ氏名ヲ株券ニ記載シタル者ノ謂ナリ

(參照)

商法第五十六條第二項ハ株主ナシテ總會ノ目的及ヒ其總會ニ於テ評決セララルヘキ事項如何ヲ豫知スルコトヲ得セシメ其決議權ヲ行フニ付キ十分ノ準備ヲ爲サシムル規定ナルヲ以テ會社カ株主ニ爲ス總會ノ通知ニハ其議事日程タルヘキ事項如何ヲ了解スルコトヲ得セシムルニ足ル記載アルコトヲ要ス

商法第五十六條第二項ノ規定ハ株主ナシテ總會ノ目的及ヒ其總會ニ於テ評決セララルヘキ事項如何ヲ豫知スルコトヲ得セシメ其決議權ヲ行フニ付キ十分ノ準備ヲ爲サシムルノ法意ナリトス故ニ會社カ株主ニ爲ス總會ノ通知ニハ其議事日程タルヘキ事項如何ヲ了解スルコトヲ得セシムルニ足ル記載アルコトヲ要ス

株式會社カ一定ノ金員ヲ借入レントスル場合ニ於テハ其利率及ヒ償還期限ノ如キ若クハ借入ノ實行ヲ取締役又ハ株主中ヨリ選出スル委員ニ一任スルコトノ如キハ唯附從ノ事項タルニ過キサルヲ以テ商法第五十六條第二項ノ所謂決議スヘキ事項ニ該當セス

(第百六十一條)

『第百六十一條』

○株主總會ノ決議ハ會社意思ノ表現ナルヲ以テ會社ノ他ノ機關及ヒ株主カ其決議ニ拘束セララル法律上ノ關係ハ私法的法律關係ニ外ナラス而

シテ右法律關係ノ成立若クハ不成立ノ確定ヲ求ムル訴ハ即時ニ之ヲ確定スルニ付キ權利上利益アルトキニ限り之ヲ許スヘキモノトス

○官吏カ公法上ノ規定ニ依リ職務ヲ行フ場合ニ於テハ公法上別段ノ規定アルニ非サレハ其權限ヲ證スヘキ書面ノ提出ヲ必要トセス從テ代理權證明書ノ提出義務ニ關スル私法上ノ規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

(第百六十三條)

『第百六十三條』

○商法第六十三條ハ株主總會ノ決議カ總會招集ノ手續又ハ決議ノ方法ニ於テ法令又ハ定款ニ反スル場合ニ之カ無効宣言ヲ請求スルコトヲ許シタル規定ナレハ總會ノ決議カ其内容ニ於テ法令又ハ定款ニ違背シ當然無効ナル場合ニ適用スヘキモノニ非ス此場合ニ於テ各株主カ其無効ヲ主張スル訴權アリヤ否ヤハ一般ノ原則ニ依リ之ヲ解決セサルヘカラス

(參照)

株主總會ニ於テ出席株主カ其權利數以外ノ投票ヲ爲シ又ハ正當ノ委任狀ヲ有セサル者カ投票ヲ爲シタル場合ニ於テ此等ノ投票ヲ無効トシ又ハ除却シタリトテ株主權ノ行使ヲ妨害スルモノニ非サレハ之カ爲メ總會ノ決議ヲ無効トスヘキ理由ナシ

三四	二	四〇	二
九			
一六八	五三〇	一〇八三	五三〇

四二	三七	三五	四〇
		七	
七八三	五八九	五一	五七一

株式會社ノ總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ不法ナルノ故ヲ以テ總會ノ決議ヲ無効ト爲スニハ舊商法ニ依リタルモノナルト新商法ニ基キタルモノナルトヲ問ハス訴テ以テ無効タルノ宣告ヲ受ケサルヘカラス

株主總會ニ於テ株主ニ非サル者及ヒ其代理人ニ非サル者カ決議ノ數ニ加ハリタルトキハ商法第六十三條ニ所謂決議ノ方法カ法令ニ反スル場合ニ外ナラサレハ之ヲ原因トシテ總會決議ノ無効ヲ確定セントスル株主ハ同條ノ規定ニ依リテ訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘシ

商法第六十三條ニ該當スル株主總會ノ決議ト雖モ裁判所ノ無効宣告アル迄ハ有效ニ存立スルモノトス

株主總會ヲ招集スルニ當リ或株主ニ通知ヲ發セサルトキハ其株主ノミナラス他ノ總テノ株主總會ノ決議無効ノ宣告ヲ請求シ得ルモノトス

商法第六十三條ニ規定セル株主總會ノ決議ハ裁判所ノ宣告ヲ待テ始メテ無効ト爲ルモノナレハ現ニ解散ノ狀態ニ在ル會社ニ對シテハ清算人ヲ會社ノ代表者トシテ其決議無効ノ請求ヲ爲スヘキモノトス

會社カ株主總會ヲ招集スルニ當リ株主ノ一部ニ對シテ其通知ヲ發セサルトキハ商法第六十三條ノ所謂總會招集ノ手續カ法令ニ反スル場合ニ外ナラス故ニ斯ノ如キ總會ノ決議ハ總對ニ無効ナルモノニ非スシテ株主ヨリ其無効宣告ヲ請求シ裁判所ノ宣告ヲ待テ始メテ之カ無効ヲ主張シ得ルモノトス

會社カ株主總會ヲ招集スルニ當リ或株主ニ通知ヲ發送セサルトキハ縱令其株主カ總會ニ出席シタル場合ト雖モ該總會ノ決議ハ商法第六十三條第一項ノ規定ニ依リ無効トシテ宣言セラレヘキモノトス

(第百六十條ノ三)

『第百六十三條ノ二』

(參照)

商法第六十三條ニ於テ總會ノ決議無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ株主ニ許シタル規定ハ株主ノ取消權ヲ認メ之ニ基キテ決議ノ取消ヲ爲サシムルモノナルコトハ同條第二項ニ於テ取消ヲ請求スル期間ヲ限定シタルニ依リ明瞭ナリ

(第百六十條ノ三)

『第百六十三條ノ三』

(參照)

舊商法施行中ニ提起シタル訴訟ニ對シ商法第六十三條第三項ノ規定ヲ適用シタル裁判ハ不法ナリ

商法第六十三條第三項ノ株券ヲ供託スヘキ條件ハ訴ノ要件ナルヲ以テ之ヲ爲ササルトキハ其訴訟ハ不成立ニ歸スルモ起訴ト同時ニ之ヲ爲サスシテ訴訟ノ進行中何時ニテモ其手續ヲ爲シ之ヲ追補シ得ルモノトス

第二款 取締役

○株式會社ノ支配人カ其財産ヲ費消シタルトキハ會社ハ損害ヲ被フリタルモノナレハ此事實ニ因リテ監督義務者タル取締役ニ對シテ損害賠償ノ請求權發生スルモノトス而シテ費消者ノ資力ノ有無如何ニ依リ此請求權ニ何等ノ消長アルモノニ非ス

○株式會社ニ支店アリテ或取締役カ專ラ其事務ヲ擔當スヘキ場合ニ於テ

商法 會社 株式會社 會社ノ機關 取締役

四五	三五	三六	四一
五	二	三三	二九
一〇二	四〇		

四五	三五	三六	四一
五	二	三三	二九
一〇二	四〇		

監督不行届ニ因リ會社ニ損害ヲ生シタルトキハ其取締役ニ於テ之ヲ賠償セサルヘカラス

○社長ナル名稱ハ民法商法其他ノ法律ニ於テ特ニ認メラレタル稱呼ニ非サレトモ我國ノ取引上慣用セラルル一種ノ熟語ニシテ會社ノ主席取締役ヲ意味スルモノトス

(第百六十四條)

○株主總會ニ於テ株主中ヨリ選任セラレタル取締役ハ商法第百六十八條ノ株券ヲ供託スルト否トニ拘ハラヌ取締役ノ任務ヲ有效ニ行フコトヲ得ルモノトス

○株式會社ノ株主總會ニ於ケル取締役選任ノ決議ハ單獨行爲ナルカ故ニ被選者ノ受諾就任ヲ竣ツコトナク其決議ノミニ因リテ直ニ選任ノ效力ヲ生スルモノトス

(同主旨)

株式會社ノ株主總會ニ於ケル取締役ノ選任決議ノ效力ハ委任關係ヲ生スルモノニ非ス故ニ其效力ハ被選任者ノ承諾ヲ俟タスシテ發生スルコト勿論ナリ

(第百六十七條)

○商法第百六十七條ノ二及ヒ第百八十九條ハ定款ニ定メタル員數ノ取締

四

二元

四二

八三

三五二

二〇〇

三六

九四八

三六

三〇七

(第百七十條)

(刑)

役又ハ監査役カ新任就職スル迄ハ法律上取締役又ハ監査役ノ退任就任ト爲ラサル旨ヲ定メタルモノニ非サルヲ以テ苟モ其退任若クハ就任ノ事實アルニ於テハ縱令其員數カ定款ノ定ムル所ニ滿タサルモ取締役又ハ監査役ノ退任就任ニ外ナラサレハ其變更登記ヲ爲スヘキモノトス

『第百七十條』

○株式會社ノ取締役ハ會社ノ目的タル營業ノ範圍ニ於テノミ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナルカ故ニ右權限外ノ行爲ニ付テハ會社ノ人格ヲ代表スルコトヲ得サルモノトス

(參照)

民法第四十四條第一項ノ規定ハ商法第百七十條ニ依リ株式會社ノ取締役ニ準用スヘキモノナルカ故ニ取締役カ被用者ノ選任又ハ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ怠リ因テ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ法人タル會社ニ於テ其責ニ任スヘキモノトス

取締役ハ會社ノ營業科目ニ關スル事項ニシテ自己ノ權限ニ屬スルモノニ非サレハ和解ヲ爲スコトヲ得ス

(刑)

株式會社ノ取締役ハ行爲能力ヲ有セサル會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スル法定代理人ナリ株式會社ノ取締役ハ會社ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上裁判外ノ行爲ニ付キ各自ニ會社代表ノ權限ヲ有スルモノナレハ訴訟事件ノ法定代理人タリシ取締役カ上告提起ノ當時偶代理權ヲ喪失スルモ他ニ取締役アルトキハ訴訟手續ヲ中斷スヘキモノニ非ス

(第百七十二條)

『第百七十二條』

商法 會社 株式會社 會社ノ機關 取締役

二

一〇一六

四五

一〇〇九

三六

三三三

三七

六三六

四三

一五五

○商法第七十二條ニハ株主カ拂込ミタル株金額等ヲ株主名簿ニ記載スルニ付キ其時期ノ定ナケレハ事實遲滞ナク之ヲ爲スコトヲ要スルノ旨趣ナリトス從テ此等ノ記載ニ付キ遲滞アル以上ハ其原由ノ如何ヲ問ハス商法第二百六十一條ノ制裁ヲ免レサルモノトス

(第七十七六條)

『第七十七六條』

(參照)

株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ得スシテ自己ノ爲メ會社ト取引シタルトキハ其行爲ハ當然無効ニ屬スヘキモノニ非スト雖モ會社ハ之カ取消ヲ求ムルノ權ヲ有スルモノトス  
「商法第七十六條ハ民法第八條ト其精神ヲ同ウスレトモ同條ノ例外規定ニ非サルヲ以テ取締役カ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ト取引ヲ爲ス場合ニ於テハ縱令自ラ其會社ヲ代表セサルトキト雖モ監査役ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス  
株式會社ニ二人以上ノ取締役アル場合ニ於テ縱令商法第七十六條ノ規定ニ遵由セサル者アリトスルモ他ノ取締役カ適法ニ會社ヲ代表シテ爲シタル行爲ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルヘキモノニ非ス

商法第七十六條ニ所謂監査役ノ承認トハ一切ノ取引ヲ爲スコトヲ豫メ承認スト云フカ如キ概括的ノ承認ヲ指スモノニ非スシテ特定ノ取引ニ付キ殊ニ與ヘラレタル承認ヲ指スモノト解釋セサルヘカラス

取締役カ商法第七十六條ノ規定ニ背戾シテ會社ト取引ヲ爲シタル場合ト雖モ其行爲ハ當然無効ニ屬スルモノニ非ス會社ニ於テ之ヲ取消スノ意思ヲ表示シ始メテ其效力ヲ失フモノトス

三九

一五二〇

三六

九七八

三七

一七三

三七

一七三

三七

九五六

故ニ若シ會社カ其取引ヲ有效トシ之ニ因テ取得セル權利ノ實行ヲ求ムルトキハ其相手方タリシ取締役又ハ第三者ハ該取引ノ無効ヲ主張シ以テ會社ト請求ヲ拒ムコトヲ得ス  
株式會社ノ取締役カ會社ヲ代表シ一個人タル自己ニ宛テ手形ヲ振出シタルトキハ同一ノ法律行爲ニ付キ相手方ノ代理人ト爲リタルモノニシテ其手形行爲ハ無効ナリトス  
商法第七十六條ハ株式會社ノ取締役ノ職ニ在ル者カ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ト取引ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノニシテ取締役カ一面會社ヲ代表シ一面自己ノ資格ヲ以テ一箇ノ法律行爲ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノニ非ス  
株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ經スシテ自己ノ爲メ會社ト取引ヲ爲シタルトキハ其行爲ハ當然無効ニ非スト雖モ會社ハ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ  
商法第七十六條ハ株式會社ノ取締役カ自ラ會社ヲ代表セスシテ會社ト取引スル場合ヲ規定シタルモノニ外ナラス從テ取締役カ一面會社ヲ代表シ一面其相手方ト爲リ會社ト取引ヲ爲シタルトキハ縱令監査役ノ承認ヲ得ルモ其取引ハ全然無効ナリトス  
株式會社ノ取締役カ商法第七十六條ノ規定ニ違背シテ爲シタル取引ハ取消シ得ヘキ行爲ニ非スシテ無効ノ行爲ナリトス  
株式會社カ其取締役ノ一人ニ對シ約束手形ヲ振出スニ當リ該取締役ニ於テ監査役ノ承認ヲ得サリシトキハ其所持人ノ取締役タルト被裏書人タルトヲ問ハス又被裏書人ノ善意ナルト否トヲ分タス會社ハ常ニ手形ノ無効ヲ主張シテ支拂ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

三七

九五六

三六

一〇七

三六

一〇七

三六

一三五

三九

二九四

四二

九二六

四二

九二六

(第七十七七條)

『第七十七七條』

(刑) ○會社ノ營業ノ範圍ニ屬セサル行爲ノ實行カ縱令會社ノ利益ニ歸スヘク

而モ會社ノ存立ヲ保護スルニ必要ナリトスルモ又株主總會ノ議決ニ因リタルモノトスルモ將タ又後日株主總會ノ承認ヲ經タルモノナリトスルモ仍ホ之ヲ以テ取締役カ會社ノ代表機關トシテ爲シタル行爲ナリト云フヘカラス

**(刑)** ○株主總會カ會社ノ資産ヲ會社ノ營業範圍ニ屬セサル事項ニ使用スルコトヲ議決スルモ全然違法ニシテ議決トシテ效力ナキモノナレハ其議決ノ執行トシテ右資産ヲ不法ノ用途ニ費消シタル取締役ハ株主總會ノ議決ニ藉口シテ其責ヲ免ルルヲ得ス

(參照)

株式會社ノ取締役カ會社ノ營業科目ヲ誤テ汎博ニ登記シタル場合ト雖モ其營業科目ハ依然定款ニ定メタルモノニ外ナラサレハ取締役カ定款ニ反シ營業科目ニ屬セサル行爲ヲ爲シタルトキハ會社ハ之ニ關シ責任ヲ有セス  
株式會社ノ業務執行ニ關シ不法行爲アル場合ニ於テハ其行爲ニ與リタル者ノミ之カ責ニ任スヘキモノトス

株式會社ノ取締役カ會社ノ機關及ヒ其法定代理人トシテ之ニ對シ種種ノ義務ヲ負擔スルハ契約關係ニ非スシテ法律ノ規定ニ基ク一種ノ義務ナリトス故ニ取締役カ此義務ニ違背シ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

(第百七十九條)

『第百七十九條』

四五	一〇九
四五	一〇九
三七	六三八
三八	三三六
四二	二九

○創立總會ハ會社ノ成立前法律ノ規定ニ依リ招集セラレタル株式引受人ヨリ成ル一種ノ組織體ニシテ會社ノ機關ニ非サルカ故ニ特別ノ規定ナキ限リ株主總會ニ關スル規定ヲ之ニ準用スヘカラス從テ其選任ニ係ル取締役及ヒ監査役ノ受クヘキ報酬ノ額ト雖モ之ヲ定ムルノ權限ナキモノトス

第三款 監査役

○株式會社ノ監査役ハ會社ノ機關ニシテ會社ノ雇人ニ非ス

(第百八十五條)

『第百八十五條』

○株式會社ノ監査役ハ取締役差支ノ場合ニハ其代理ヲ爲シ且取締役ニ對スル訴訟ニ付キ會社ヲ代表スルコトアルモ會社ニ關スル訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ニ非ス

(第百八十九條)

『第百八十九條』

○商法第百六十七條ノ二及ヒ第百八十九條ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役又ハ監査役カ新任就職スル迄ハ法律上取締役又ハ監査役ノ退任就任ト爲ラサル旨ヲ定メタルモノニ非サルヲ以テ苟モ其退任若クハ就任ノ事實アルニ於テハ縱令其員數カ定款ノ定ムル所ニ滿タサルモ取締役又ハ監査役ノ退任就任ニ外ナラサレハ其變更登記ヲ爲スヘキモノトス

二	一〇六
三三	一三七
三三	一三七
二	三三三



第四節 會社ノ計算

(第九百九十二條)

○株式會社ノ取締役ニ貸借對照表ノ公告ヲ命シタル規定ハ當ニ其會社ニ  
既存ノ關係ヲ有スル者ノ爲メノミナラス一般公衆ノ利益ヲモ保護セン  
カ爲メニ設ケタルモノナルヲ以テ苟モ取締役及ヒ監査役ノ過失ニ原因  
シテ右規定ニ反スル虛偽ノ公告アリタル爲メ他人ニ損害ヲ及ホシタル  
トキハ商法中ノ改正規定施行前ニ在リテハ民法第七百九條ノ規定ニ依  
リ不法行爲ノ責ニ任セサルヘカラス

四五

四五

○株式會社タル銀行ニ始メテ預金ヲ爲サントスル者ハ貸借對照表ノ公告  
ヲ自ラ見タルト否トニ關セス其公告ニ原因シテ生シタル信用聲價等ニ  
信賴シテ取引ヲ爲スニ至ルハ世間普通ノ情狀ナルヲ以テ右公告ト預金  
行爲トノ間ニ因果關係ナカリシ事情アリトセハ之ヲ主張スル者ニ於テ  
立證ノ責ニ任セサルヘカラス

四五

四五

(第九百九十三條)

○株式會社ノ取締役カ定時總會ニ於テ商法第九十條ニ掲クル書類ヲ提  
出シ且其故意又ハ過失ニ因リテ生シタル損失ヲ報告シ總會ノ承認ヲ受  
ケタルトキハ會社ニ對スル責任ハ不正行爲アリタル場合ヲ除ク外之ニ

因リテ解除セラレルモノトス從テ會社カ損害賠償ニ關スル取締役ノ責  
任ヲ免セサラシメント欲スルトキハ縱令總會カ取締役ノ事業報告ニ對シ何等  
斯ノ如キ場合ト雖モ依然其責任ヲ負フヘキ旨ヲ特約セシムルコトヲ要  
ス

三元

一三七

○株式會社カ取締役ヲシテ如上ノ特約ヲ爲サシメタル後之ヲ定時總會ニ  
提出シ其承認ヲ經タルトキハ縱令總會カ取締役ノ事業報告ニ對シ何等  
ノ留保ヲ爲サスシテ承認ヲ與ヘタル場合ニ於テモ其取締役ノ不法行爲  
ニ因ル損害賠償ノ責任ハ該特約ニ依リ依然存續スヘキモノトス

三元

一三七

○株主總會ノ承認ハ専ラ總會ニノミ屬スルモノナレハ會社ハ反對ノ事項  
ヲ約定シテ之ヲ左右スルコトヲ得ス從テ會社カ其意見ノミニ依リ如上  
ノ特約ヲ爲シタルトキハ何等ノ效力ヲ有セスト雖モ該特約ヲ總會ニ提  
出シ之カ承認ヲ受ケタル以上ハ其有效ナルヘキハ當然ナリ

三元

一三七

○株式會社ノ取締役カ商法第九十條ニ掲クル書類ヲ定時總會ニ提出シ  
テ其承認ヲ經タル場合ト雖モ該書類ニ掲記セサル事項ニ付テハ未タ其  
責任ヲ解除セラレサルモノトス

四元

二元

(第九百九十八條)

○商法第九十八條ノ株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況

ヲ調査セシムルコトニ付テハ法律上別ニ何等ノ制限アラサルヲ以テ獨  
リ現在ノコトニ止マラス必要アルニ於テハ既往ニ遡リテ調査セシムヘ  
キモノト解セサルヘカラス

○申請ノ取下ハ各人ノ自由意思ニ屬スルモノニシテ其單獨ニテ申請ヲ爲  
シタル場合ト他人ト合同シテ之ヲ爲シ其合同カ申請ノ目的ヲ達シ得ヘ  
キ一ノ要件タリシ(例ヘハ検査役選任ノ申請ノ如キ)場合トニ依リテ差  
異アルモノニ非ス

○商法第九十八條ニ依ル検査役選任ノ申請事件ニ付テハ其検査役ノ調  
査ヲ受クヘキ會社ハ該事件ノ相手方ニ非ス故ニ其決定ノ當事者表示ノ  
部ニ會社ヲ表記セサルモ不法ニ非ス

○商法第九十八條ハ検査役選任ノ請求ニ付キ一モ條件ヲ附スルコトナ  
ケレハ裁判所ハ請求者カ果シテ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ナル  
ヤ否ヤヲ調査シ若シ之ニ該當スルニ於テハ會社財産ノ狀況危殆ナラサ  
ルコト或ハ其他ノ理由ヲ以テ該請求ヲ拒否スルノ權ナシ從テ會社ハ其  
検査役選任ノ裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリト云フヲ得ス

○商法第九十八條ハ會社解散前ニ關スル規定ニシテ會社解散シタルト  
キハ同條ノ規定ニ依リ検査役ヲ選任スヘキモノニ非ス

三五	七
三五	一〇
三五	二二
三九	六九
三九	一三九
四三	一〇九

第六節 定款ノ變更

○株式會社カ負擔スル賣買代金支拂ノ債務ト將來増資ニ因ル株式ノ引受  
ヨリ生スヘキ拂込債務トヲ相殺スヘキ旨ヲ約スルハ會社カ株金拂込ノ  
請求權ヲ沮止スル結果ヲ生スルヲ以テ無効ナリトス

(第二百十  
二條)

『第二百十二條ノ二』

○物的出資ヲ爲スノ約束ヲ以テ増資株式ヲ引受ケタルニ非スシテ物的出  
資ヲ爲スト同一ノ結果ヲ惹起スヘキ契約ハ商法カ特ニ物的出資ニ付キ  
嚴重ナル規定ヲ設ケタル旨趣ニ反スルヲ以テ無効ナリトス

(第二百十  
三條)

『第二百十三條』

○商法第二百十三條ニ因リ招集シタル株主總會ハ會社創立ノ際ニ於ケル  
創立總會ニ比視スヘキモノナルヲ以テ新株引受人ハ如上株主總會ノ後  
ニ於テハ株式總數ノ引受アリタル後一年內ニ第一回ノ拂込終ハラサル  
事實ヲ理由トシテ其申込ヲ取消スコトヲ得ス

(第二百十  
九條)

『第二百十九條』

(參照)

株式會社カ資本ヲ増加スルニ方リ總株數ノ引受ナキ場合ニ於テハ會社ハ豫定ノ資金ヲ得ル能  
ハス從テ豫定ノ目的ヲ達スルヲ得サルニ因リ株主モ亦豫定ノ利益配當ヲ得ルノ望ナキニ至ル

商法 會社 株式會社 定款ノ變更

四五	一六二
四五	一六一
四五	一七二

(第二百一十條)

ヲ以テ既ニ引受ヲ爲シタル株主ニ於テモ其拂込ヲ拒絕スルノ權利ヲ有スルモノトス

『第二百一十條』

○資本減少ノ方法トシテ株式ヲ消却スルニ當リ縱令總會ノ決議カ新舊株主間ニ等差ヲ生スルニ至ルカ如キコトアルモ斯ル結果ヲ生スルハ敢テ法律ノ妨ケサル所ナレハ資本減少ノ方法トシテ之ヲ無効ナリトスル能ハス

第七節 解散

○取締役ハ會社ヲ代表シ其本來ノ目的タル業務ヲ執行スル爲メ選任セララルモノナレハ會社カ解散スルトキハ之ト同時ニ當然其代表者タル資格ヲ失フモノトス

○民法上期限モ亦法律行爲ノ效力ヲ停止スルハ條件ト異ナル所ナキヲ以テ株主總會ニ於テ取締役ノ締結シタル如上ノ讓渡契約ノ承認ヲ爲スト同時ニ會社ノ解散ヲ決議シ其解散ノ時期ヲ期限ニ繋ラシメタルトキハ右讓渡契約ハ會社解散ト同時ニ其效力ヲ生スルモノトス(本章第三節第一款株主總會二年五三〇頁參照)

第八節 清算

○株式會社ニ於テ任意解散ヲ爲スニ當リ清算手續トシテ其營業及ヒ營業用財産ヲ簡別ニ換價スルト之ヲ一括シテ換價スルトハ商法上之ヲ制限シタリト認ムヘキ規定ナキヲ以テ之ヲ一括シテ他ニ讓渡スルモ無効ニ非ス

(第二百二十七條)

『第二百二十七條』

○商法第二百二十七條ハ會社財産ノ換價處分ヲ爲スヘキ時期又ハ清算人ノ外部ニ對スル代理權ニ付キ制限ヲ加ヘタルモノニ非サルヲ以テ清算人カ該條ノ手續ヲ履踐スル以前ニ於テ債權ノ取立債務ノ辨濟其他財産ノ換價處分等ヲ爲スモ無効ニ非ス

『第二百二十八條』

○清算人ハ株主總會ノ決議ニ從フコトヲ要スルモノナルモ法令又ハ定款ニ違反スルカ如キ當然無効ナル決議ニ從フノ義務ナシ故ニ清算人ニ於テ株主總會ノ決議ヲ無効ト認メ其執行ヲ拒絕スルモ之ヲ以テ直ニ商法第二百二十八條第二項ニ所謂重要ナル事由ト認ムルコトヲ得ス

(第二百三十四條)

『第二百三十四條』

(參照)  
解散シタル株式會社ト雖モ其清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ササルヘカラス

三四	二	二	二	二	三	四	三
五	二	二	二	二	三	四	三
一四九	六八八	五三〇	五三〇	五三〇	五三〇	四二四	二二四

民法第七十九條ノ規定ハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用スヘキモノナル  
モ合名會社及ヒ合資會社ノ清算ノ場合ハ之ヲ準用スヘキモノニ非ス  
解散シタル株式會社ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ商法第五百二十二條及ヒ第五百十三條  
ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

清算中ニ在ル會社ニ對シ訴訟ニ依リ其解散ニ關スル決議ノ無效ヲ確認セシメントスルニハ清  
算人ヲ會社ノ代表者ト爲スヘク此場合ニ於テ清算人ハ其職務權限ヲ以テ會社ノ代表者タルヘ  
キモノトス

會社ノ破産手續ハ他ノ場合ニ於ケル清算ト多少ノ差異アルモ其實質ハ清算ニ外ナラス從テ株  
金拂込ニ關スル手續ノ如キ破産法ノ規定セサル事項ニ付テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第  
九十二條ヲ適用スヘキモノトス

破産ノ手續ニハ清算ノ目的モ亦包含スルヲ以テ株式會社方破産シタル場合ニ於テハ商法第二  
百三十四條ニ依リ同第九十二條ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

株式會社ノ清算人カ其就職ノ日ヨリ二个月ヲ經過シタル後債權申出期間ヲ定メテ催告スルハ  
法律ノ認メサル所ニシテ又一旦適法ニ定メタル期間ハ爾後之ヲ變更スルコトヲ許ササルモ  
トス

清算中ノ會社ト雖モ其債務ノ履行ニ付キ必要ナリトスルトキハ株金拂込ノ請求ニ關スル規定  
ニ從ヒ株主及ヒ株式讓渡人ニ對シテ其權利ヲ實行スルコトヲ得

株式ノ讓渡ハ會社解散後ニ於テモ之ヲ爲シ得ルモノナルヲ以テ其讓渡アリタル場合ニ於ケル  
名義書換ノ請求ニ對シ之カ書換ヲ爲スハ清算人ノ職務ノ一タル現務ノ終了ニ屬ス  
株式會社清算ノ場合ニ於ケル拂込請求ハ必スシモ拂込ヲ爲ササル總テノ株主ニ對シテ裁判上

ノ請求若クハ競賣手續ヲ爲スコトヲ要セス株主ニシテ無資カト確認シ得ラレル者ハ之ヲ除外  
シ他ノ資力アル者ノミニ對シ之カ請求ヲ爲スチ妨ケサルモノトス

### 第六章 外國會社

〔第二百五十五條〕

○商法第二百五十五條ハ外國會社ノ法人タルト否トヲ區別セザレハ日本  
ニ支店ヲ設ケタル外國會社カ其本國法ニ於テ法人タラサル場合ニ於テ  
モ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社カ商法ノ規定ニ依リ日本ニ於ケル代表  
者ヲ定メタルトキハ其者ハ會社ノ營業ニ付キ一切ノ裁判上又ハ裁判外  
ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有シ其日本ニ設ケタル支店ノ營業ニ關スルト外  
國ニ在ル本支店ノ營業ニ關スルトヲ論セス會社ノ營業全部ニ付キ代表  
權ヲ有スル法定ノ代理人ナリトス

○外國會社カ日本ニ設置セル一支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル代表  
者ハ日本全國ニ對シテ代表權ヲ有ス從テ内國中他ノ地方ニ於テ更ニ支  
店ヲ設ケタル場合ニ重ネテ其支店所在地ニ登記ヲ爲ササルモ之カ爲メ  
全國ニ於ケル代表權ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ

四	三	三	三
八五八	五〇六	一七五	五八四

四	三	三	三	三	三	三	三
五九六	九三七	六一〇	一六六九	一〇一〇	五二六	一〇三七	三八

○日本ニ支店ヲ設置シタル外國會社ノ代表者數人アルトキハ各自其會社ヲ代表シ日本全國ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有スヘキモノトス

第七章 罰則

〔第二百六十二條〕

(參照)

商法第二百六十二條第十號規定ノ旨趣ハ要スルニ民法第七十九條ノ期間内ハ會社ノ債權者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ清算人ニ禁シタルニ止マリ此規定アルカ爲メニ既ニ到來シタル辨濟期延長スルモノト云フヲ得ス  
株式會社ノ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作成スル事務ノ如キハ必スシモ取締役躬親ラ之ニ從事スルコトヲ要セス故ニ其監獄ニ拘禁セラレ執務不能ノ境遇ニ在ル場合ト雖モ取締役ハ商法第二百六十二條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス  
法令ノ規定ニ依リ株式會社カ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作成スルコトヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ作成セサルトキハ縱令其以前ニ於テ作成シタル財産目錄及ヒ貸借對照表アリトスルモ商法第二百六十二條第二號ニ該當スル違犯行爲タルコトヲ免レス  
商法第二百六十二條第一號ニ於テ會社ノ取締役カ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲スコトヲ禁スルハ單ニ其會社又ハ株主ノ利益ノミヲ保護スル爲メニ非スシテ一般ニ公益ヲ保護スルノ必要ヲ認メタルニ因ルモノトス從テ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シタル取締役ハ之カ爲メニ會社若ク

三六

五八四

三五

九

四九

三六

一六九一

三六

一六九一

ハ株主ノ利益ヲ害セサルノ故ヲ以テ同條ノ適用ヲ免ルルコトヲ得ス

〔第二百六十二條ノ二〕

(第二百六十二條ノ二)

○商法第二百六十二條ノ二第一號ニ依リ過料ニ處スルニハ登記義務者カ法定期間内ニ登記手續ヲ爲ササルニ付キ過失アルヲ要スルモノトス  
○如上ノ場合ニ於ケル過失トハ登記義務者カ其義務ノ履行ニ付キ相當ノ注意ヲ爲ササルノ謂ニ外ナラサレハ其過失ノ有無ヲ決スルニハ主トシテ其義務發生後法定期間内ニ之ヲ履行スルニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルヤ否ヤヲ定メサルヘカラス

(參照)

商法第二百六十一條第一項第九ニ所謂不正ノ記載トハ其記載ノ正シカラサルヲ云フモノニシテ詐欺又ハ故意ニ出テタルトキハ勿論過失ニ基クテ雖モ此規定中ニ包含スルモノトス  
株式會社ノ監査役カ死亡シタル場合ニ取締役カ變更登記ヲ爲スコトヲ怠リタル理由ヲ以テ之ヲ過料ニ處スルニハ其過失ニ因リ法定ノ期間内ニ登記ヲ爲ササリシ事實アルコトヲ要ス  
商法第七十二條ニハ株主カ拂込ミタル株金額等ヲ株主名簿ニ記載スルニ付キ其時期ノ定ナケレハ事實遲滞ナク之ヲ爲スコトヲ要スルノ旨趣ナリトス從テ此等ノ記載ニ付キ遲滞アル以上ハ其理由ノ如何ヲ問ハス商法第二百六十一條ノ制裁ヲ免レサルモノトス  
株式會社ノ取締役カ其本店並ニ支店ノ所在地ヲ管轄スル各登記所ニ對シ變更登記ノ申請ヲ怠リタル場合ニ於テハ其各行爲ハ各一箇ノ犯則ヲ構成スルモノトス  
合資會社ノ社員死亡シタル場合ニ業務執行社員カ其過失ニ因ラスシテ變更事由ノ發生ヲ知ラ

四一

五八

二

二七

二

二七

三五

五

五五

三九

七六

四〇

八四

三九

一五〇

サリシカ爲メ法定ノ期間内ニ變更登記ヲ爲ササリシトキト雖モ爾後變更事由ノ發生ヲ知リタルトキハ其登記ハ速ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトス從テ直ニ注意セハ登記ヲ爲スコトヲ得ヘカリシ相當ノ期間内ニ之ヲ爲ササリシ場合ノ如キハ商法第二百六十一條第一號ノ適用ヲ免レス

### 第三編 商行為

#### 第一章 總則

- 銀行及ヒ商人間ニ信用ヲ開ク爲メ汎ク行ハルル根抵當ハ有效ナリ
- 金錢ノ貸借ハ商業ノ爲メニスルカ又ハ其貸借ヲ營業トスル爲メ他ヨリ金錢ノ借入ヲ爲スカ如キ場合ニ在ラサレハ之ヲ民法行爲ト認ムヘキハ當然ナリ
- 銀行カ金圓預ケ人ニ對シ其印章ヲ押捺セル預金通帳ヲ持參スル者ニ支拂ヲ爲スヘキコト及ヒ該印影ノ盜用ニ係ルモノナルヤ否ヤヲ調査スル義務ナキコトヲ特約スルハ違法ニ非ス
- 株金拂込ノ義務ハ株式引受ニ因リテ生スルモノトス而シテ株式ノ引受ハ商行為ニ非ス

〔第二百六十三條〕

四	三	二	一
九	一三七	一五五	一
一〇七	一五五	一五五	
九七			

○取引所市場ニ於ケル綿糸ノ賣買ヲ仲買人ニ委託スル行爲ハ其買建ニ付テハ利益ヲ得テ讓渡スル意思ヲ以テ代金ヲ支拂ヒテ綿糸ヲ取得シ賣建ニ付テハ其取得シタル綿糸ヲ讓渡スルヲ目的トスルモノナルヲ以テ商法第二百六十三條第一號ニ該當スル商行為ナリトス

〔第二百六十四條〕

- 芝居茶屋業ハ商行為ナリ
- 商法第二百六十四條第八號ニ所謂銀行取引トハ法令ノ規定ニ依リ銀行ニ於テ行フ所ノ法律行爲ノ義ニシテ即チ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ若クハ諸預リ及ヒ貸付ヲ併セ爲スノ行爲ヲ指稱セルモノトス從テ單ニ金錢ノ貸付ノミヲ爲ス行爲ハ銀行取引ト稱スルコトヲ得ス
- 貸金營業者カ爲ス金錢貸付ノ行爲ト雖モ預金其他ノ方法ニ依リ收受シタル借方計算ニ屬スル金錢ヲ以テ他人ノ需用ニ供スル如キ融通ノ媒介ト爲ルヘキ行爲ニ非サレハ商法第二百六十四條第八號所定ノ銀行取引ニ屬セス

(同義旨)

金錢ノ貸付ト雖モ媒介行爲タル徵標ナキモノハ銀行取引ニ屬セス

〔第二百六十五條〕

商法 商行為 總則

四	二	三	四
九	一六三	九	六六
一六〇	一六三	一六七	
七六〇			

○製糸ノ販賣ヲ營業ト爲シ其營業ノ爲メニ他人ヨリ立替金ノ給付ヲ受ケタル行爲ハ商法施行以後ハ勿論其以前ト雖モ商行爲ニ屬シ其行爲者ハ商人ノ資格ヲ有シタルモノトス

○商法施行前ニ於テハ如何ナル行爲カ商行爲ナルヤニ付キ特別ノ法規存セザリシト雖モ商人カ營業ノ爲メニスル行爲ノ商行爲タルコトハ當然ノ條理ナリトス

○商法第二百六十五條ニ所謂商人カ其營業ノ爲メニスル行爲トハ商人カ其營業ノ爲メニ外部トノ關係ニ於テ爲ス所ノ行爲ヲ指稱ス故ニ共同商業者間ニ於テ共同營業ニ關スル内部關係ヲ定ムル契約ノ如キハ之ニ包含セス

○雜貨販賣業ヲ營ム者ニ對シ其營業資金トシテ貸金ヲ供給シタルトキハ其行爲ハ商法第二百六十五條第一項ノ商行爲ニ屬スルモノトス

○會社ノ支配人カ會社ノ爲メニ金錢ヲ借入レタルトキハ縱令其營業カ金錢ノ貸借ヲ目的トセサル場合ト雖モ反證ナキ限り該行爲ハ會社ノ目的遂行ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノニシテ支配人ノ權限内ニ屬スルモノト認ムルヲ當然トス

○商法第二百六十五條第二項ハ商人ノ行爲ハ如何ナルモノナルヲ問ハス

其營業ノ爲メニスルモノト推定ストノ旨趣ニ非スシテ商人ノ行爲カ其營業ノ爲メニスルモノニ非サルコト疑ハシキ場合ニ適用スヘキ規定ナリト解スヘキモノトス

○商人カ金錢ノ消費寄託ヲ受クルカ如キハ其營業ノ爲メニスルヲ以テ通常ト爲スカ故ニ如上ノ行爲アリタル場合ニ於テ其行爲カ營業ノ爲メニ爲シタルモノト推定スヘキヤ否ヤヲ定ムルニ付キ必スシモ其營業ノ性質種類ヲ問フノ要ナキモノトス

『第二百六十六條』

○商法第二百六十六條前段ハ相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知リタルト否トニ拘ハラサル規定ニシテ其後段但書ハ相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對シテモ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキコトヲ明カニシタルモノトス

『第二百七十三條』

○手形ニ振出人數名アルトキハ其一人ニ爲シタル呈示ハ總テノ振出人ニ對シテ效力ヲ生スルモノトス  
○共同運送業者カ船舶所有者ニ對シ備船料ヲ支拂フ義務ヲ負擔セル場合ニ於テ其立替支拂ヲ他人ニ委任スルハ即チ商行爲ニ外ナラサレハ受任

(第二百七十三條)

(第二百六十六條)

三七	三九	二	四	四	四	三九	三九
一五七	七八五	一九三	五八七	二〇八	一五九	八〇三	一三六

者ニ對シ各自連帶シテ償還ノ義務ヲ負擔スヘキモノトス

○商法第二百七十三條第一項ハ數人ノ共ニ負擔セル債務ノ因リテ生シタル行爲カ其一人又ハ全員ノ爲メニ商行爲タル場合ノ規定ナレハ其行爲カ全員ハ勿論一人ノ爲メニモ商行爲タラサルトキハ縱令相手方ノ爲メニハ商行爲タルトキト雖モ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○商法第二百七十三條第二項ノ規定ハ數人ノ保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證自體カ商行爲ナルトキハ各保證人ヲシテ主タル債務者ト連帶スルト同時ニ保證人相互ノ間ニモ連帶シテ債務ヲ負擔セシムル旨趣ヲ包含スルモノトス

『第二百七十六條』

(第二百七十六條)

○債務カ共同海損ノ分擔額ナルトキハ其利息ハ商法第二百七十六條所定ノ利率ニ依リテ之ヲ計算スヘキモノトス

『第二百七十七條』

(第二百七十七條)

○商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ民法第三百四十九條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ設定行爲ニ於テ法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ特約シタルトキハ其特約ハ有效ナリ

『第二百七十九條』

(第二百七十九條)

○商法第二百七十九條ノ規定ハ指圖債權又ハ無記名債權ニ付テハ民法第四百十二條第一項ノ適用ナキ旨ヲ明カニシタルモノニ過キスシテ訴訟ニ於ケル付遲滯ノ準則ヲ示シタルモノニ非ス

○商法第二百七十九條ニ所謂履行ノ請求ヲ爲シタル時トハ裁判上ノ請求ニ在テハ訴狀カ相手方タル債務者ニ送達セラレタル時ヲ謂フ

(反對)

裁判外ノ請求ノ場合ニ於テ手形債權者カ其債務者ヲシテ遲滯ノ責任セシムルニハ履行期限ノ到來シタル後手形ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ要スルモ裁判上ノ請求ノ場合ニ於テハ債權者カ其履行ノ訴ヲ有效ニ提起スルトキハ其提起ノ時ヨリ債務者ヲ遲滯ニ付スルモノトス

○手形所持人カ裁判上ノ請求ヲ爲シタルトキハ縱令手形ヲ呈示セサルモ時効中斷ノ效力ヲ有スルモノトス

○約束手形ノ所持人カ手形上ノ債務者ニ對シテ爲ス履行ノ催告ハ手形ヲ呈示シテ之ヲ爲スニ非サレハ時効中斷ノ效ヲ生セス

(同主旨)

手形ノ呈示ヲ伴ハサル支拂ノ催告ハ無効ニシテ時効中斷ノ效果ヲ生セス

約束手形ノ所持人カ履行ノ請求ヲ以テ時効ヲ中斷セント欲スル場合ニハ裁判上ノ請求ヲ除ク

四	四	四	三六	四	三六
四六	一四八	三三〇	二八七	八三三	一〇四二
四六	一四八	三三〇	二八七	八三三	一〇四二



外必スヤ商法第二百七十九條ノ規定ニ準據スルコトヲ要ス然ラサレハ其請求ハ時效中斷ノ效ヲ生セス

〔第二百八十二條〕

(參照)

證券裏書ニ關スル商法第二百八十二條第四百五十七條及ヒ明治三十三年法律第十七號ハ證券ノ流通ヲ圓滿ナラシムル爲メ設ケタルモノニシテ專ラ公益ヲ圖リタル規定ナリトス  
證券ヲ讓渡スルニ當リ讓渡人ニ於テ裏書讓渡欄内ニ捺印ノミヲ爲シ氏名ノ記入ヲ讓受人ニ委任シタルトキハ讓受人ハ受任ノ旨趣ニ從ヒ讓渡欄内ニ讓渡人ノ氏名ヲ記入シ裏書ニ關スル商法及ヒ明治三十三年法律第十七號所定ノ形式ヲ完備セシムルニ非サレハ其證券ノ裏書讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

〔第二百八十五條〕

○債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ本來ノ債權カ其形體ヲ變シタルニ過キスシテ別箇ノ債權ヲ成スモノニ非ス故ニ本來ノ債權カ商行爲ニ因リテ發生シタルモノナルトキハ其不履行ニ因ル損害賠償ノ請求權モ亦然ラサルヲ得ス

○明治二十六年舊商法ノ一部施行後請負工事ヲ營業トスル商人カ鐵道築堤工事ノ請負ニ付キ他人ト當座組合契約ヲ締結シタルトキハ其契約ハ商事ニ屬スルヲ以テ該組合關係ニ基ク債權ハ商行爲ニ因リテ生シタル

モノニ外ナラス故ニ明治三十一年舊商法施行後ハ其第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時效ノ適用ヲ受ケ尙ホ商法施行法第三百三十七條及ヒ現行商法第二百八十五條ニ從ヒテ時效ニ罹ルモノトス

○或行爲カ債務者ノ爲メニ商行爲ナル以上ハ債權者ノ爲メニ商行爲ナラサルトキト雖モ因テ生シタル債權ハ商行爲ニ因リテ生セシ債權タルコトヲ妨ケス

第一章 賣買

○商品ニ關スル損害賠償額ハ特約又ハ特別ノ事情ナケレハ契約ノ價額ト市價トノ差額ヲ以テ標準ト爲スヘキモノナリ

○荷爲替契約ニ於テ荷受人タル支拂人カ手形ノ引受ヲ爲シタルニ止マリ未タ手形金ノ支拂ヲ了セサル間ハ支拂人ハ所持人ニ對シ手形金支拂ノ債務ヲ負擔スルニ過キサルヲ以テ縱令荷主カ手形ノ割引金ヲ受取人ヨリ受領シタルハトテ支拂人カ荷主ニ對スル賣買代金支拂ノ債務ヲ免ルルモノト云フヲ得ス

〔第二百八十六條〕

○商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキ賣主

三元

一四五

四三

三三

四三

三三

四二

三

四二

一三九

四四

一五九

三七

一四四

二

四二

カ之ヲ供託シ又ハ競賣スルコトヲ得ルニハ先ツ買主ヲ遲滯ニ付シタルコトヲ必要トス

○商法第二百八十六條ハ賣主カ適法ノ提供ヲ爲シタルコトヲ前提トシテ規定セラレタルモノナレハ同條ノ催告ハ即チ競賣ノ前提條件ニシテ之ヲ以テ直ニ民法第四百九十三條ノ所謂受領ノ催告ト同一視スヘキモノニ非ス

〔第二百八十七條〕

○商法第二百八十七條ノ規定ハ當事者ノ一方ニ於テ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルニ拘ハラズ相手方カ直ニ履行ノ請求ヲ爲ササルトキハ契約ヲ解除シタルモノト看做スコトヲ定メタルモノニシテ相手方カ約定ノ時期ニ於テ履行ノ請求ヲ爲シタル場合ハ勿論時期ノ經過後ト雖モ直ニ其請求ヲ爲シタル場合ハ契約ヲ解除シタルモノト看做ササル旨趣ナリトス

〔第二百八十八條〕

○商法第二百八十八條ハ商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタル上之ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ賣主ニ對シテ之カ通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵ニ基ク契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ

定メタルモノニシテ右通知ヲ爲シタル以上ハ其瑕疵カ買受ケタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ナルト否トヲ問ハズ買主ニ於テ自由ニ契約ノ解除ヲ爲シ得ヘキモノト云フヲ得ス

第四章 匿名組合

〔第二百一一條〕

○單ニ匿名組合契約ヲ解除スルコトト匿名組合ノ解散及ヒ出資金ノ返還ニ關スル契約ヲ取結フコトトハ之ヲ同視スヘキモノニ非ス

第五章 仲立營業

〔第二百六六條、第二百七條〕

○仲立人カ其媒介ヲ依頼セラレタル行爲ニ付キ當事者ノ一方ヨリ豫メ給付ノ目的物ヲ受領スルコトハ商法ノ認許セサル所ナルヲ以テ其受領行爲ハ仲立人ノ業務上ノ行爲ナリト云フヲ得ス

〔第二百一十二條〕

○仲立營業者カ其媒介シタル商行爲ニ付キ商法第三百八條ノ手續ヲ終リタルトキハ茲ニ報酬請求權發生シ媒介行爲ノ後日實行セラルルト否ト

四

四九五

三六

七七五

四二

九七一

四

九九四

四二

九九四

四四

三九二

ヲ問ハサルヲ以テ通例トス然レトモ當事者カ特ニ該請求權ノ發生ヲ媒介行爲ノ實行ニ繋ラシメ其實行ナケレハ報酬ヲ請求シ得サルコトヲ約スルハ違法ニ非ス

### 第六章 問屋營業

〔第三百十三條〕

○委託販賣トハ當事者ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ商品ヲ委託シ之カ販賣ヲ委任スルヲ云フ故ニ其販賣ノ時機及ヒ直段ニ付キ別ニ商習慣又ハ特約ノ存セサル限ハ受託者ニ於テ相當ト思料スル時機及ヒ直段ヲ以テ適宜ニ之カ販賣ヲ爲シ得ルモノトス

〔第三百十四條〕

○取引所仲買人カ取引所ニ於ケル賣買ノ委任ヲ受ケ賣建又ハ買附ヲ爲シタル以上ハ其轉賣買等取引ノ變更ニ關シテハ一ニ委任者ノ意思ニ從フヘク自己ノ意思ヲ以テ委任者ノ意思ヲ阻碍シ得ヘカラサルハ委任ニ關スル一般ノ法理ナリトス

○仲買人ハ取引所ニ於テハ自己ノ名ヲ以テ取引スヘキモノナレトモ仲買人ト注文者トノ間ニハ委任關係存スルヲ以テ取引所ニ於ケル取引直段

ト注文者ニ報告シタル直段トハ同一ナラサルヘカラス

### 第七章 運送取扱營業

〔第三百二十一條〕

○運送取次ノ委託者ハ運送取扱人ニ對シテハ取次行爲ニ因リテ生スル債權ヲ主張シ得ルモ取次行爲ノ相手方其他ノ第三者ニ對シテハ運送取扱人ヨリ其債權ノ移轉ヲ受クルニ非サレハ直ニ自己ノ債權トシテ之ヲ行使スルコトヲ得ス

〔第三百二十二條〕

○商法第三百二十二條ニ所謂運送ニ關スル注意云云ノ規定ハ運送人ニ適用スヘキ同法第三百三十七條末段ノ規定ト同一ニシテ其注意ヲ爲スヘキ程度ハ運送品ノ性質其他諸般ノ狀況ニ因リ一定ナル能ハス  
○運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セサラムヘキ責任ヲ有ス從テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來シタル場合ニ在テハ運送取扱人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷

三三 一〇 二六

四〇 六九四

三五 四 二九

四 八〇

三 四 二五

三 六 一四三

主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルモノトス

〔第三百二十八條〕

○商法第三百二十八條第一項ニ所謂運送取扱人ノ責任トハ商法上特ニ運送取扱人タル資格ヨリ生スル損害賠償ノ責任ヲ總括的ニ指稱セルモノトス而シテ此規定ハ運送人ニ準用セラルルヲ以テ運送人ハ其資格ニ基ク賠償責任ノミニ付キ同條ノ消滅時效ヲ援用スルコトヲ得

○商法第三百二十八條第二項ハ運送貨物ノ全部滅失シタル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ運送會社カ荷送人ニ貨物引換證ヲ交付シ後更ニ他ノ引換證ヲ作成シテ他人ニ貨物ヲ引渡シ質權者ニ損害ヲ加ヘタル如キ場合ニ適用スヘキ規定ニ非ス

第八章 運送營業

第一節 物品運送

○債務者カ運送貨物ノ取扱ニ關シ將來負擔スルコトアルヘキ債務ヲ確保スル爲メ運送人ニ保證金ヲ納付シタル場合ニハ其貨物取扱ニ關スル契約終了後運送人ニ對シテ債務ヲ負擔スルコトナキ事實確定セサレハ之カ返還ヲ請求シ得サルモノトス從テ債權者ハ縱令此債權ヲ差押ヘ且轉

三七

二五八

三九

四一九

三五

二

一三三

付命令ヲ受クルモ運送人ニ對シテ直ニ保證金ノ支拂ヲ要ムルコトヲ得ス

三九

一五三

○運送人カ運送品ヲ荷受人ニ引渡シ運送ヲ終了スルニハ一ニ運送契約ノ旨趣ニ服從セサルヘカラス故ニ該契約ニシテ運送品カ到達地ニ達シタル後ト雖モ荷受人ニ引渡スヘキ指圖アルマテ其地ノ運送店ニ之ヲ留置スル旨趣ニ出テタルトキハ運送人ハ引渡ノ指圖アルマテ運送品ヲ保管スヘキ義務ヲ負フモノトス

四〇

四六七

○荷送人荷受人及ヒ運送人ノ權利義務ハ運送契約又ハ商法ノ規定ニ依リ定ムヘキモノニシテ單ニ荷送人荷受人間ノ特約ニ據リテ之ヲ定メ得ヘキモノニ非ス

四一

五三四

○貨物引換證又ハ船荷證券ヲ作成シタル場合ニ於テハ運送人ハ該證券ニ依リテ間接占有ノ取得者タルコトヲ證明スル質權者ノ權利ヲ否認シ得サルモノトス故ニ荷モ其交付シタル證券ノ還付ヲ受クルニ於テハ請求者ハ直接ニ其交付ヲ受ケタル荷主ナルト荷主ノ處分ニ因リ正當ニ之ヲ把持スル質權者タルトニ論ナク運送品ノ占有ヲ解キ之ヲ其處分ニ委セサルヲ得ス

四二

六五六

○荷爲替契約ニ依リ運送品ヲ目的トシテ質權ヲ設定セントスル場合ニハ

荷主ハ運送人ヨリ交付ヲ受ケタル貨物引換證若クハ船荷證券ヲ把持シ運送品ヲ處分スルノ權利ヲ留保スル間ニ於テ其間接占有權ヲ質權者ニ移轉シ以テ質權ノ設定要件ヲ具備スルコトヲ得セシメサルヘカラス

(刑) ○荷爲替ハ運送品ノ荷主カ荷受人ヲ支拂人ト爲シタル爲替手形ヲ振出しテ其受取人ヨリ手形面ノ金額ヲ受取り荷受人カ爲替金ヲ支拂ハサル場合ノ擔保トシテ運送品ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スルノ權利ヲ債權者タル受取人ニ付與シ同時ニ貨物引換證ヲ債權者ニ交付スルニ因リ成立スル行爲ニシテ其擔保ハ動産質ノ性質ヲ有スルモノトス

(同主旨)

荷爲替ナルモノハ運送品ノ荷主カ荷受人ヲ支拂人ト爲シタル爲替手形ヲ振出しテ其受取人ヨリ手形面ノ金額ヲ受取り荷受人カ爲替金ヲ支拂ハサル場合ノ擔保トシテ運送品ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スルノ權利ヲ債權者タル受取人ニ付與シ同時ニ貨物引換證又ハ船荷證券ヲ債權者ニ交付スルニ因リテ成立スル行爲ニシテ其擔保ハ動産質ノ性質ヲ有スルモノトス

○貨物引換證ハ運送人カ運送契約ヲ締結スルノミナラス該契約ニ因リ荷送人ヨリ運送品ヲ受取り之カ引渡ヲ爲スヘキ債務ノ發生セル場合ニ於テ作成セラルヘキモノニシテ未タ運送品ヲ受取ラサル場合ニ作成セラレタル引換證ハ原因ヲ具備セサルト同時ニ目的物ノ欠缺セルモノニシ

テ無効ナリトス

(第三百三十三條)

『第三百三十三條』

○運送人カ荷爲替附ノ荷物ニ對シ荷送人ノ請求ニ因リ荷物引換證ヲ交付スルニ當テハ商法第三百三十三條ノ要式ヲ具備シタル書面ヲ作成セサルヘカラス從テ其要件ヲ欠如シタル書面ハ引換證タルノ效ナキモノトス

○運送株式會社カ發付スル貨物引換證ニハ其代表者ニ於テ署名スルコトヲ要ス故ニ株式會社ノ記名アルノミニシテ其代表者ノ署名ナキモノハ引換證タルノ效力ヲ有セス

○貨物引換證ニハ商法第三百三十三條第二項所定ノ事項ヲ記載スルコトヲ要シ運送賃ノ如キモ支拂濟ノ場合ハ格別未拂ノ場合ニ於テハ其數額若クハ之ヲ算定スル標準ヲ知ルコトヲ得ヘキ程度ニ記載スルヲ要シ單ニ運送賃先拂ト記載スルノミニテハ貨物引換證タル效ナキモノトス

(同主旨)

貨物引換證ニ記載スヘキ要件トシテ規定セラレタル事項ハ必要アル場合ニ於テハ縱令其一項タリトモ之ヲ具備セサレハ該證券ハ效力ヲ有セサルモノトス故ニ貨物引換證ニ記載スヘキ運送賃支拂濟ノ場合ハ格別其未拂ナル場合ニ於テハ必スシモ其數額ヲ明示スルコトヲ要セスト

二

六六八

三九

九九九

三九

九九九

二

八三

四二

六五八

四四

六三三

四二

六五八

雖モ之ヲ算定スルニ足ルヘキ標準ヲ知り得ル程度ニ記載セサルヘカラス  
荷送人カ運送貨ノ前拂ヲ爲シタルトキハ縱令貨物引換證ニ之ヲ掲ケサルモ其要件ヲ缺キタル  
モノニ非ス

(互對)

貨物引換證ニ運送貨ヲ記載セサルヘカラス必要アル場合ニ於テハ商法第三百三十三條第二  
項ノ規定ニ依リ要件トシテ之ヲ記載スヘキハ勿論ニシテ若シ其記載ヲ欠クトキ即チ運送貨先  
拂トノミ漠然記載シ運送人ト所持人トノ間權義ノ所在ヲ明確ナラシメサルカ如キ場合ニハ其  
效力ヲ喪フコトアルヘキモ常ニ其記載ヲ必要トスルモノニ非ス

(第三百三十七條)

『第三百三十七條』

○運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ  
其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運  
送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セサシムヘキ  
責任ヲ有ス從テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來シタル場合ニ在テハ運送取扱  
人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷  
主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルモノトス

(同主旨)

運送者ハ運送貨物ノ滅失又ハ毀損等ニ付テハ充分ナル注意ヲ爲スヘキ責任ヲ有スルモノナル  
カ故ニ該貨物カ自己ノ過失ニ非スシテ滅失シタルトセハ其事由ヲ證明セサルヘカラス

三六

三七

三五

三七

三七

二〇

八五

七三

八

二五

四

○運送人カ契約上ノ場所以外ノ地ニ荷物ヲ送付シタルカ爲メ荷受人ニ之  
ヲ到達セシムルコト能ハサル以上ハ商法第三百三十七條ニ所謂運送品  
ノ滅失ニ該當スルヲ以テ之ニ因リ荷送人ノ被フリタル損害ハ運送人ニ  
於テ賠償ヲ爲スヘキ責任アリトス

○不可抗力トハ或事變ニシテ之ニ遭遇セル者カ自己ノ地位ニ應スル施設  
ヲ爲スモ其發生及ヒ有害ナル結果ヲ防止シ得サルモノヲ謂フ從テ運送  
品ノ損害カ不可抗力ニ因ルコトヲ證明シタル以上ハ運送人カ其防禦ノ  
注意ヲ怠リシ過失ニ因ラサルコトハ自ラ立證セラレタルモノトス

○商法第三百三十七條ハ運送人ノ債務不履行ニ因ル責任ヲ規定シタルモ  
ノニシテ多數人ノ行爲ヲ必要トスル運送ニ在テハ一般原則ニ依リ賠償  
權利者ニ舉證ノ責任ヲ負擔セシムルトキハ其權利ハ往有名無實ニ終  
ルノ虞アルヘキヲ以テ舉證ノ責任ヲ顛倒シ運送人ヲシテ之ヲ負ハシメ  
タルモノトス

(第三百二十九條)

『第三百二十九條』

○數人相繼キテ運送ヲ爲スニ當リ荷物カ其到達地ニ達セスシテ荷送人ニ  
損害ヲ生シ運送人ノ一人カ之ヲ賠償シタル場合ノ求償ニ於テ求償者ニ  
對シ此者ヨリ後ニ運送ニ從事シタル運送人等ニ連帶責任アリトノ事ハ

二

四三

三七

九五

八〇

七九

舊商法及ヒ新商法共ニ之ヲ認メサルト同シク商法施行以前ノ慣例ニ於テモ亦認メラレサル所ナリ

○如上ノ場合ニ於テ損害ヲ賠償シタル運送人ノ一人ハ不法行為ヲ爲シタル運送人ニ對シテ求償權アルノ外其行為者タラサル他ノ運送人ニ對シテ全部ノ請求權ナシ

○最初ノ運送人ニ次テ運送ノ委託ヲ受ケタル者カ其義務ヲ履行セザルトキハ直接ニ荷送人ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フモノトス

○商法第三百三十九條ヲ準用スヘキ遞次海上運送ニ於ケル各運送人ノ運送ハ何レモ海上ニ於ケル運送ナルコトヲ要シ運送人中ノ或者ハ海上運送ヲ爲シ或者ハ陸上湖川若クハ港灣ニ於ケル運送ヲ爲シタル場合ノ如キハ同條ヲ準用シテ其運送上ノ責任ヲ定ムヘキニ非ス

○商法第三百三十九條ニ所謂相次運送ハ或運送人カ荷送人ヨリ引受ケタル運送ニ付キ他ノ運送人カ荷送人ノ爲メニスル意思ヲ以テ相次テ運送ヲ引受ケル場合ヲ謂フモノニシテ當初ノ運送人カ運送ノ全部ヲ引受ケ後ノ運送人カ當初ノ運送人ノ受託者若クハ下請負人トシテ爲ス運送ヲ包含セス

○相次テ運送ヲ爲シタル第一運送人カ荷送人ニ對シ運送品ノ代金ヲ立替

三六

九一

三九

九一

四〇

九五〇

四五

五三五

四二

九三

ヘタル場合ニ於テ第二ノ運送人カ右代金ノ取立ヲ爲サスシテ運送品ヲ荷受人ニ引渡シタリトスルモ別段ノ意思表示ナキ限り第一運送人ハ第二運送人ニ對シ當然立替金全部ノ損害賠償ヲ請求スル權利アリト云フコトヲ得ス

〔第三百四十條〕

○荷物引換證ヲ作リタル場合ニ於テ運送品ノ滅失ヲ原因トシ其損害賠償ヲ請求スルハ獨リ該證券所持者ノミ之ヲ爲シ得ヘキモノニシテ引換證ヲ所持セサル者ハ荷物ノ所有者タルト將タ荷物ニ付キ危險ヲ負擔スル者タルトヲ問ハス其請求ヲ爲スノ權ナシ

〔第三百四十二條〕

○商法第三百三十三條第一項ノ規定ニ依リ貨物引換證ノ交付ヲ受ケタル荷送人ハ其證券ノ第一所持人トシテ運送人ニ對シ同第三百四十二條第一項ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ルモノトス

○荷送人カ商法第三百四十二條ノ規定ニ依リ運送人ニ對シテ運送品返還請求ノ權利ヲ行使スルニ付テハ單ニ運送品返還請求ノ意思ヲ表示スレハ足ルモノニシテ特ニ契約解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セス

〔第三百四十三條〕

二

二〇七

四一

五三四

四二

七四六

四三

一一九七

○荷物引換證ヲ作リタル場合ニハ之ヲ所持セサル荷受人ハ運送品カ到達地ニ達シタル後ニ於テモ尙ホ荷送人ノ權利ヲ取得セサルモノトス

(第三百四十四條)

『第三百四十四條』

○荷受人カ運送契約ニ從ハサルカ又ハ貨物引換證ト引換ニ引渡ヲ請求セサル以上ハ運送人ハ運送品ノ引渡ヲ拒絶シ得ルモノニシテ又之ヲ拒絶スヘキコトハ荷送人若クハ貨物引換證ノ所持人ニ對スル運送人ノ責任ナリトス

(第三百四十九條)

『第三百四十九條』

○數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ第一運送人ト荷送人トノ間ニ締結シタル運送契約ハ第二以下ノ運送人ニ對シテモ當然其效力ヲ生スルモノトス故ニ其運送ヲ引受ケタル第二以下ノ運送人ハ該運送契約ノ條項ニ從ヒ直接ニ荷送人又ハ荷受人ニ對シ運送賃支拂ノ請求其他運送人ノ權利ヲ行使スルコトヲ得

第二節 旅客運送

『第三百五十條』

○不法行爲ヲ原因トシテ運送人ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニハ商法第三百五十條ヲ適用スヘキモノニ非ス

(第三百五十條)

第九章 寄託

第二節 倉庫營業

『第三百五十九條』

○商法第三百五十八條以下ノ規定ニ基ク質入證券ハ其證券自體ニ於テ同法第三百五十九條ノ要件ヲ具備セサルヘカラス故ニ他ノ事物ヲ以テ其要件ヲ證明シ若クハ他ノ比例ヲ採テ其要件ヲ推定スルカ如キハ性質上之ヲ許サス

(第三百六十五條)

『第三百六十五條』

(參照)

債務者カ商法上ノ預證券等ニ裏書ヲ爲シ之ヲ讓渡シタルトキハ縱令其讓渡ハ虛偽ナルニモセヨ其裏書ヲ取消スニ非サレハ債權者ニ於テ之ヲ處分スルヲ得サルニ付キ其裏書ハ所謂詐害行爲ニシテ民法第四百二十四條ニ依リ之カ取消ヲ求メ得ヘキモノトス  
商法第三百六十五條同第三百三十五條ニ規定シタル裏書ノ效力ハ適法ノ裏書ニ非サレハ之ヲ有セサルコト勿論ナルヲ以テ預證券及ヒ質入證券ノ讓渡欄ニ裏書人ノ捺印ノミアリテ記名ナキトキハ裏書ノ效力ヲ生セス

(第三百七十九條)

『第三百七十九條』

○倉庫營業者カ贓品ヲ預リ適法ノ預證券ヲ發行シタル場合ニ其預證券カ

商法 商行爲 寄託 倉庫營業

四

五四

三七

三九九

三七

七

三六

六元

三七

三六

三四

九

七六

四二

一〇七



刑事被告人ノ手ヲ離レサル前即チ第三者ニ讓渡セラレサル以前ニ於テハ裁判所ハ私訴被告人タル刑事被告人ヲシテ預證券ヲ提出セシメ之ト引替ニ被害者ニ物品ヲ引渡サシムヘキモノトス

(刑) ○倉庫營業者ハ受寄物ニ付キ質入證券ノ所持人タル質權者ニ對シテ保管ノ義務ヲ負フモノナレハ寄託者カ寄託物ノ返還ヲ請求スルモ質入證券ト引換ニ非サル以上ハ出庫處分ヲ爲スヲ得サルモノトス

### 第十章 保險

○會員中結婚出產又ハ就學兒童アル場合ニ他ノ會員ヨリ若干ノ金圓ヲ醸出セシメ其幾分ヲ之ニ給與シテ殘額ヲ利得セントスル會社事業ハ保險行為ニ類似セル一ノ條件附法律行為ト稱シ得ヘキモ之ヲ以テ直ニ保險行為ト云フヲ得ス

#### 第一節 損害保險

○商法第四百二十七條ニ所謂生死トハ死亡ト生存トノ二者ヲ云フモノニシテ出生ヲ包含スルモノニ非ス又妊婦ハ其胎兒又ハ自己ノ身體ニ就キ金錢上ノ利益ヲ有スルモノト言フコトヲ得サレハ出生ヲ條件トシテ多數ノ契約者ヨリ報酬ヲ醸出セシメ會社ヨリハ之ニ對シテ保護料ヲ支拂

ヒ其差額ヲ利得セントスル會社事業ハ生命保險ニモ非ス損害保險ニモ非サルナリ

#### 第一款 總則

##### 『第三百八十四條、第三百八十五條』

(第三百八十四條、第三百八十五條) ○家屋ノ買主ハ未タ其登記ヲ爲ササルモ既ニ自己ノ所有タル上ハ火災ニ因テ生スルコトアルヘキ損害ハ即チ自己ノ損害ナルカ故ニ之ヲ填補スル爲メ其家屋ヲ被保險物ト爲シ以テ適法ニ火災保險契約ヲ取結ヒ得ヘキモノトス

##### 『第四百十六條』

(第四百十六條) ○商法第四百十六條第一項ノ規定ハ損害行為ヲ爲シタル第三者ト其行為ニ因リテ債務ヲ負擔シタル第三者ト同一人タル場合ニ限ラス彼此其人ヲ異ニスル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

#### 第二節 生命保險

○民法第一百九條但書ノ規定ハ商法及ヒ商慣習ニ牴觸スル所ナキヲ以テ生命保險契約ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

##### 『第四百二十七條』

(第四百二十七條) ○商法第四百二十七條ニ所謂生死トハ死亡ト生存トノ二者ヲ云フモノニ

三四 三七

四 二二二

三 四七五

三 七 三

三五 七 一

四 二六七

三九 一四一

シテ出生ヲ包含スルモノニ非ス又妊婦ハ其胎兒又ハ自己ノ身體ニ就キ  
金錢上ノ利益ヲ有スルモノト言フコトヲ得サレハ出生ヲ條件トシテ多  
數ノ契約者ヨリ報酬ヲ醸出セシメ會社ヨリハ之ニ對シテ保護料ヲ支拂  
ヒ其差額ヲ利得セントスル會社事業ハ生命保險ニモ非ス損害保險ニモ  
非サルナリ

〔第四百二十八條〕

(參照)

商法第四百二十八條第四項ノ規定ハ保險契約者カ被保險者ト別人ナル場合ハ勿論其同人ナル  
場合ニ於テモ亦之ヲ適用スヘキモノトス  
商法第四百二十八條第二項ノ規定ハ生命保險契約ニ定メタル生死ノ條件成就若クハ期限到來  
以前ニ係ル權利ノ讓渡ヲ制限シタルモノナレハ其條件既ニ成就シ又ハ期限既ニ到來セル場合  
ニハ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

〔第四百二十九條〕

(參照)

被保險者ノ病症ハ直接生命ニ危險ヲ及ホスヘキ惡性ノ原因ヨリ來ルモノト否トヲ論セス苟モ  
生命ノ危險ヲ測定スルニ多少ノ關係アルヘキヲ以テ其中ニ就キ緊要ノ關係ヲ有スルモノハ即  
チ重要事項トシテ契約ノ際之ヲ保險者ニ告知スヘキモノトス而シテ或事項因果シテ生命ノ危  
險測定ニ緊要ノ關係アルヤ否ヤハ事實承審官ノ專決スヘキ所ナレトモ之ヲ一定ノ病症ニ限  
ルヘキモノニ非ス

三	七
三	四
三九	八〇六
四	七五六
三八	二四二

被保險者カ以前他ノ生命保險業者ニ申込ヲ爲シ醫師ノ診査ヲ受ケタルヤ否ヤノ事實ハ保險契  
約ヲ締結スルヤ否ヤノ決意ニ影響ヲ及ホスヘキモノナレハ商法第四百二十九條ニ所謂重要ナ  
ル事實ニ該當スルモノトス

保險者カ診査醫ヲ機關トシテ保險契約ヲ締結シタル場合ニハ被保險者ノ健康狀態ニ付キ其診  
査醫カ知了セル事實ハ保險者ニ於テモ亦之ヲ知り得ヘキ狀態ニ在ルモノトス

商法第四百二十九條ハ被保險者ノ生命ニ關スル危險測定ノ爲メ重要ナル事實又ハ事項ノ申  
義務ヲ保險契約者ニ負擔セシメタルモノトス從テ其危險測定ニ關係ヲ有セサル職業ヲ詐リタ  
ルカ如キハ同條ノ所謂重要ナル事實又ハ事項ニ該當セス

保險契約者カ保險料ヲ繼續シテ支拂フヘキ實力ヲ有スルヤ否ヤノ事實ハ之ヲ保險者ニ告知ス  
ルノ義務ナキモノトス

被保險者ニ人違アルカ又ハ詐欺ノ申込ヲ爲シタルトキハ民法總則ノ規定ニ依リ其契約無効ニ  
歸シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトス從テ商法第四百二十九條ハ此場合ニ適用スヘキモノ  
ニ非ス

生命保險契約ノ拒絕ハ保險業者カ被保險者ノ生命ニ關スル危險ヲ測定シ不利益ト認メタル場  
合ニ存スルヲ普通トス從テ被保險者カ以前他ノ保險業者ヨリ契約ノ申込ヲ拒絕セラレタル事  
實ハ商法第四百二十九條ノ所謂重要ナル事實ニ該當ス

被保險者カ以前他ノ生命保險業者ニ契約ノ申込ヲ爲シタル事實又ハ同一契約ノ申込ヲ爲シ承  
諾ヲ受ケタル事實ハ被保險者ノ生命ニ付キ危險測定ニ何等ノ關係ナケレハ商法第四百二十九  
條ノ所謂重要ナル事實ニ包含セス

商法第四百二十九條ニ所謂重要ナル事實又ハ事項トハ生命保險契約ノ性質上危險測定ノ爲メ

四〇	四四二
四〇	四八三
四〇	九三九
四〇	九三九
四〇	九三九
四〇	九三九

ニ重要ナルモノヲ指稱シ契約當事者ノ意思如何ハ問フ所ニ非ス  
 商法第四百二十九條ハ強制的規定ニ非サルヲ以テ之ニ異ナル別段ノ意思表示ヲ爲スコトヲ妨  
 ケス而シテ其意思表示ノ内容ハ當事者ノ任意ニ決定シ得ヘキモノナレハ重要事實タルヘキ既  
 往病歴ヲ重要ナラサルモノトシ又ハ之ヲ重要ナルモノトスル場合ニ於テモ其告知ヲ爲ササル  
 結果ニ付キ該規定ニ異ル意思ヲ表示シ保險者ノ選擇ニ從ヒテ契約ノ效力ヲ定ムルコトヲ得  
 商法第四百二十九條ハ保險契約ニ關スル特別ノ規定ニ屬シ苟モ之ニ該當スル場合ニ於テハ重  
 要ナル事實ノ告知ニ關シテ保險契約者又ハ被保險者ニ詐欺ノ行爲アリタルトキト雖モ全然之  
 ヲ適用スヘキモノニシテ民法總則ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス  
 商法第四百二十九條ノ規定ハ其前段ニ該當スル場合ニ於テハ保險契約ヲ無効トスルモ保險者  
 カ其實事ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ契約ヲ有效トシ該事實鑑識ノ責ヲ保險  
 者ニ歸セシムル趣意ナリトス  
 生命保險業者ヨリ雇使又ハ囑託セラレタル醫師ハ保險業者ノ爲メニ申込人ノ健康状態ヲ知ル  
 ノ機關ト爲リ業務上必要ナル調査ヲ爲スモノナレハ醫師カ申込人ノ健康診斷上ニ於テ爲シタ  
 ル過失ハ保險業者ニ對シテ其效ヲ生シ醫師カ之ヲ知リ又ハ知リ得ヘカリシ事項ハ本人タル保  
 險業者カ知リ又ハ知リ得ヘカリシ事項トシテ保險業者其責ニ任セサルヘカラス  
 保險業者ノ雇使又ハ囑託シタル保險醫カ被保險者ノ診斷ニ於ケル過失ノ有無ニ付テハ普通開  
 業醫カ通常發見シ得ヘキ病症ヲ不注意ニ因リ看過シタリヤ否ヤヲ以テ標準ト爲スヘキモノト  
 ス  
 氣管支加答兒ハ其性質ニ於テ危險性ヲ帶有スル疾患ナリト推測シ得ヘキモノナレハ被保險人  
 カ之ヲ隱蔽シタル場合ニ之ヲ以テ保險契約ノ締結ニ重大ナル影響ヲ及ボスヘキ疾患ニ非サリ

四〇

九三九

四〇

一〇二五

四四

八五

四四

八五

四五

四九二

四五

四九二

シコトヲ主張スル者ハ其原因輕重豫後ニ付キ其實事ヲ立證セサルヘカラス  
 改正前ノ商法第四百二十九條ニ所謂重要ナル事實又ハ重要ナル事項トハ專ラ被保險者ノ生命  
 ニ關シ危險ヲ測定スルカ爲メニ必要ナル事實又ハ事項ヲ指シタルモノナルヲ以テ其以外ノ事  
 實又ハ事項ハ如何ニ重大ナルモノナリトスルモ同條ノ適用ヲ受クヘキ限ニ在ラス

四五

四九二

二

一八五

### 第四編 手形

#### 第一章 總則

○東京又ハ大阪ト稱スルトキハ一團ヲ成ス所ノ地域ナル東京市又ハ大阪  
 市ヲ指示セル固有ノ名稱ニシテ幾團ノ地域ヲ包括セル東京府又ハ大阪  
 府ヲ指示セル名稱ニ非ス

三五

三

一

○手形ハ賣買取引ハ勿論金錢貸借其他種種ノ原因ニ基キ振出スコトヲ得  
 ヘキモノナレハ金錢貸借ノ原因ニ基キ手形ヲ振出シタル事實アリトス  
 ルモ直ニ外觀ノ爲メニノミ手形ヲ振出シタルモノト謂フコトヲ得サレ  
 ハ其直接ノ當事者間ニ於テモ之カ爲メニ手形上ノ權利關係カ發生セサ  
 ルモノト爲ササルヘカラサルノ理由ナシ

三五

六

一〇一

○改正商法ハ從來慣用ノ捺印主義ヲ捨テ專ラ署名ノミニ重キヲ置クカ故  
 ニ同法中署名ヲ以テ證券成立ノ條件ト爲シタル規定ニ於ケル署名トハ

自署ノ義ニシテ單ニ記名ノミヲ以テ足レリトスルノ意義ニ非サル法意ナリト解釋セサルヘカラス

○手形債務ノ履行ハ手形ニ署名シタル者ニ對シテノミ之ヲ強要シ得ルモノトス

○手形上ノ權利ハ法律ニ特別ナル規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外手形券面ニ記載シタル事項ニ非サレハ之ヲ主張シ得サルモノニシテ別箇ノ證書ニ依リ之カ補足ヲ爲スコトヲ許サスト雖モ此等手形上ノ權利ヲ發生セサル別箇ノ證書存在シタレハトテ之カ爲メニ其手形ヲシテ無効タラシムヘキモノニ非ス

○取引所外ニ於ケル定期取引ハ其既ニ結了シタルト否トヲ問ハス又注文者カ之ヲ知ルト否トヲ論セス全ク不法ニシテ當然無効タルヘキモノトス故ニ斯ノ如キ取引ヲ原因トシテ手形ヲ授受スルモ其直接ノ當事者間ニ在リテハ手形上ノ權利關係ヲ生スルコトナシ

○法定ノ形式要件ヲ完全ニ記載セル手形ハ其記載事項ニ眞實ナラサルモノアルモ尙ホ形式完備ノ手形タルコトヲ失ハス故ニ振出人ハ善意ノ被裏書人ニ對シ其記載事項ノ眞實ナラサルコトヲ理由トシテ手形債務ヲ免ルルコトヲ得サルハ當然ナリ

○手形ニ記載セラレタル事項ハ手形面ノ文言ニ從ヒテ之ヲ解釋スヘク他ノ證據方法ニ依リ當事者ノ意思ヲ推測シテ其意義ヲ定ムヘキモノニ非スト雖モ右ノ記載事項カ如何ナル意義ヲ有スルヤヲ手形面ノ文言ニ據リテ解釋スルコトハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬ス

○手形ノ債權關係ハ一ニ其振出當時ノ文言ニ依リ定マルヘキモノニシテ後日ニ至リ其不足ヲ補充シ誤謬ヲ訂正スルモ之カ爲メニ既往ニ遡リテ手形ノ缺點ヲ追完シ得ヘキモノニ非スト雖モ其補正カ當事者間任意ニ行ハレタル場合ニ於テハ補正ノ當時更ニ新ナル振出行爲アリシモノト認ムルニ妨ナシ

○手形カ外觀上法定ノ要件ヲ具備スルトキハ手形トシテ形式上有效ナレトモ若シ其實質ニ於テ手形行爲ノ成立ヲ妨クヘキ瑕疵アルトキハ其手形行爲ハ無効ニ歸スヘキモノトス

○約束手形ノ振出人ハ被裏書人ニ對シ其裏書讓受ノ眞實ナラサルコトヲ爭ヒ得ヘキハ勿論ナレハ裁判所ハ手形裏書ノ眞正ナルヤ否ヤノ争點ヲ判斷セサルヘカラス

○手形債務者ハ手形ノ眞實ナル所持人ニ對シテノミ債務ヲ辨濟スル責任ヲ負フモノナレハ手形金ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其請求者ノ眞實

三五  
九

三七  
一九

三七  
五七

三七  
七〇

三七  
九七

三七  
一〇三

三七  
一二三

三  
七〇六

三元  
九七五